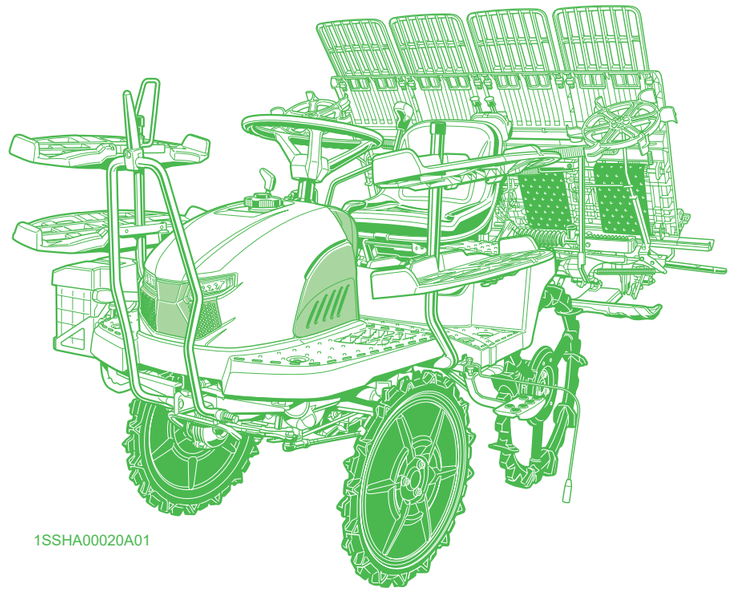
LC41・41H

田植機

取扱説明書

LC41・41H



1SSHA00020A01

ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社) 日本陸用内燃機関協会排出ガス自主規制適合エンジン」であることを示しています。

No. 9 5 7 0 0 0 0 0 0 1 0

品番　PK211-9751-2

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	エンジン回転数［低回転］		エンジン回転数［高回転］
	チョーク		

専門用語の説明

● **主変速レバー（ＨＳＴ）**	**［前進］・［後進］・［停止］**の切換え及び走行速度をコントロールするレバー（油圧式の無段変速装置）
● **副変速レバー**	**［圃場作業］（低速位置）**と**［移動］（高速位置）**切換えるレバー
● **植付クラッチレバー**	植付部（苗のせ台）の**上昇←→下降**、植付部への動力伝達の**［入］**、**［切］**及び線引マーカの**出し入れ**を行なうレバー
● **アクセルレバー**	エンジン回転をコントロールするレバー
● **ブレーキペダル**	踏込むと動力を断ちブレーキが掛かるペダル
● **トルクリミッタ**	ビークに障害物が詰まったとき、植付部のギアの破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
● **線引マーカ**	植付け作業中に隣接条間を合わすための目標となる線を引くための部分
● **フロート**	ほ場表面に浮き、整地するための部分
● **エプロンガード**	植付部のエプロンがあぜなどに当り、変形するのを防止するためのパイプ

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

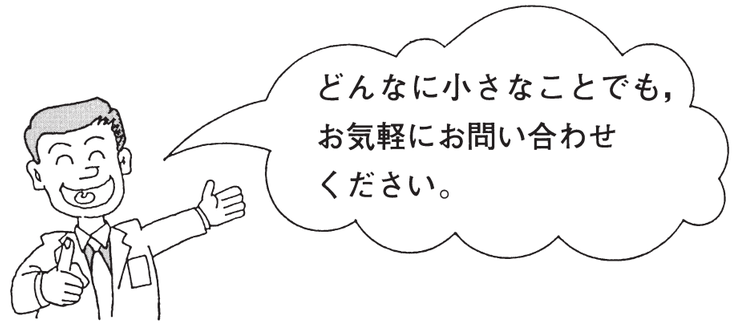
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）

LC41/41H
AZ．C．2-2．0．AK

はじめに

このたびは三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきありがとうございました。この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた安全ラベル（⚠マークのあるラベル）は、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、安全ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について　本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は**【LC41H】**を基本とし、**【LC41H】**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って、機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

基本型式の表示

【例】　LC41 - H - R
①　②　③

①名称・植付条数によって
　LC41 ･･･････････････････ ４条植
②植付方式
　表示なし ･･･････････ クランク式
　H ･･･････････････････ ロータリ式
③施肥装置
　R ･･･････････ 粒状側条施肥装置付

目次

安全に作業するために 5

サービスと保証について 19

ご相談窓口 19
補修用部品の供給年限について 19

装置の名称と取扱い 20

機体方向説明 20
各装置の名称 21
走行装置の名称とはたらき 25
1. エンジン操作関係 25
1.1 メインスイッチ 25
1.2 チョークレバー 25
1.3 アクセルレバー 25
2. 走行操作関係 26
2.1 主変速レバー 26
2.2 副変速レバー 26
2.3 ブレーキペダル 26
2.4 ブレーキロックレバー 26
2.5 パワーステアリングハンドル 27
2.6 運転席（シート） 27
2.7 前輪デフロックペダル 27
2.8 AZ(アゼ)レバー 28
2.9 AZ(アゼ)アーム 28
2.9.1 AZ(アゼ)アームの操作について 28
2.10 ランプスイッチ 28
2.11 燃料計 29
2.12 小物入れ 29
作業装置の名称とはたらき 29
1. 植付クラッチレバー 29
2. 油圧感度調節レバー 29
3. 植付本数調節レバー 30
4. 植付深さ調節レバー 30
5. 条止めレバー 30
6. 油圧ロックレバー 30
7. センターポール 31
8. 線引マーカ 31
9. トレースマーカ 31
10. 苗押さえ・苗ホルダ 31
11. 予備苗のせ台 31

運転のしかた 33

運転前の点検 33
1. 日常点検項目 34
新車時の扱いかた 35
1. ならし運転について 35
エンジンの始動と停止のしかた 35
1. 始動のしかた 35
2. バッテリが上がったときの始動のしかた 36
3. 停止のしかた 36
移動走行について 37
1. 移動走行前の準備 37
2. 発進のしかた 40
3. 降りて走行のしかた 41
4. 旋回のしかた 42

5. 停車・駐車のしかた 42
輸送について 43
1. トラックとあゆみ板の準備 43
2. トラックへ積込み時の田植機の準備 43
3. トラックへの積込み・積降ろしのしかた 43
4. 乗車走行をする場合 44
5. 降りて走行をする場合 44
6. 軽四トラックに積込みをする場合 45
7. トラック上での処置 45
田植作業のしかた 47
ほ場と苗の条件 47
1. ほ場条件 47
2. 苗条件 48
田植作業前の準備 49
1. 予備苗のせ台の準備 49
2. 線引マーカの準備 49
3. トレースマーカとセンターポールの準備 49
4. 延長エプロン・エプロンガードの準備 49
5. 各レバーの準備 49
植付作業のしかた 50
1. ほ場の出入りのしかた 50
2. 植付作業の手順 51
3. 植付けかたと旋回のしかた 53
4. 変形田の植付けかた（参考） 55
4.1 台形田の植付けかた（A 面基準） 55
4.2 複雑な変形田の植付けかた 55
5. トルクリミッタについて 56
5.1 ビークのトルクリミッタについて 56
5.1.1 異物を取除いたあとの処置 56
6. 苗の補給のしかた 56
7. あぜぎわの植付けかた 57
7.1 最終行程の前での植付条数の決めかた 58
作業に合わせた各部の調節・調整のしかた 58
1. 植付株数の調節 58
2. 苗取り量（1 株本数）の調節 60
2.1 横送り量の調節 60
2.2 植付本数調節レバーの調節 61
2.3 植付株数と苗の使用量について 61
3. 油圧感度調節レバーの調節 61
3.1 油圧感度の感度調節について 62
4. 植付深さの調節 62
5. 苗押さえ・苗ホルダの調節 63
メンテナンス 64
各部の開閉と脱着のしかた 64
1. ボンネットの開閉 64
2. リヤカバーの脱着 64
各部の掃除と注油のしかた 65
1. 各部の掃除 65
2. 各部の注油 65
2.1 注油、グリース塗布、注入箇所 66
定期点検 68
1. 廃棄物の処理について 69
2. 洗車時の注意 69
3. 使用者が行なってはいけない修理 69
4. 定期点検一覧表 70
5. 給・注油（水）点検一覧表 71

6. 燃料・オイルの点検・補給・交換 72
6.1 燃料の補給 72
6.1.1 給油 72
6.2 エンジンオイルの点検・補給・交換 73
6.3 ミッションオイルの点検・補給・交換 74
6.4 後車軸ケースオイルの点検、補給、交換 75
7. 燃料フィルタポットの点検・掃除 75
8. エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換 76
9. 点火プラグの点検・掃除・調整 77
10. パイプ・ホース類の点検・交換 77
11. ミッション駆動ベルトの点検 78
12. ブレーキペダルの点検、調整 78
13. ミッションオイルフィルタの点検、掃除、交換 79
14. タイヤの点検 80
15. ビーク・フォークの点検・調整・交換 [クランク仕様] 81
16. ビーク・フォークの点検・調整・交換 [H：ロータリー仕様] 83
17. 苗のせ台のエプロンと受けの点検 86
18. バッテリの点検・交換 86
18.1 補水が必要なバッテリの場合 88
19. ワイヤハーネスの点検・交換 89
20. 各ヒューズの交換 89
20.1 スローブローヒューズの点検・交換 89
21. LED ランプの点検・交換 89
植付作業後の手入れ 90
1. 毎日の作業後の機体の手入れ 90
1.1 延長エプロン・エプロンガード（左、右）の収納 90
2. 長期格納時の手入れ 90
2.1 長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた 90
2.2 長期格納時の燃料の排出のしかた 91
2.3 長期格納時のバッテリの手入れのしかた 91
2.4 長期格納時の各レバー、その他の手入れのしかた 92
植付作業時の不調と処置 93
欠株が出る 93
浮苗が出る・植付けが乱れる 96
浮苗が出る・植付けが悪い 98
植付けが乱れる・欠株が出る 98
苗・ほ場条件による、その他の不具合 99
付表 101
主要諸元 101
付属部品 103
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 103
1. 苗キーパ 103
2. クリーナ 103
3. 補助車輪 103
3.1 ゴムラグタイヤ 104
4. 前部ウエイト 104
5. 整地板 104
6. 薬剤散布機［こまきちゃん］ 104
7. 苗スライドストッパ 104
8. 側条（粒状）施肥機 105
消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう） 106
潤滑油について 107
1. エンジンオイル 107
2. ミッションオイル 107
索引 108

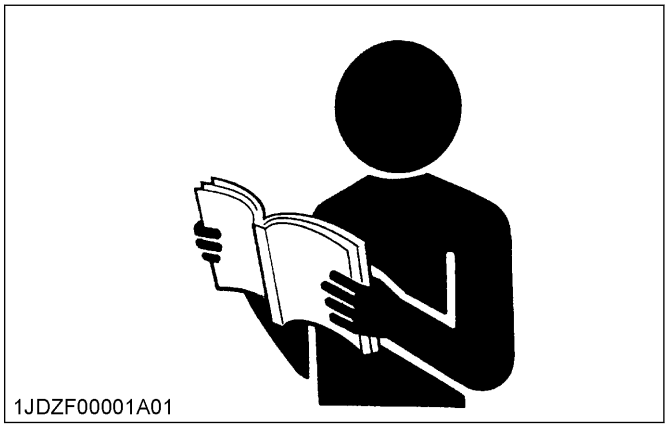
安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で⚠ 危険・⚠ 警告・⚠ 注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください

1. 安全指示順守

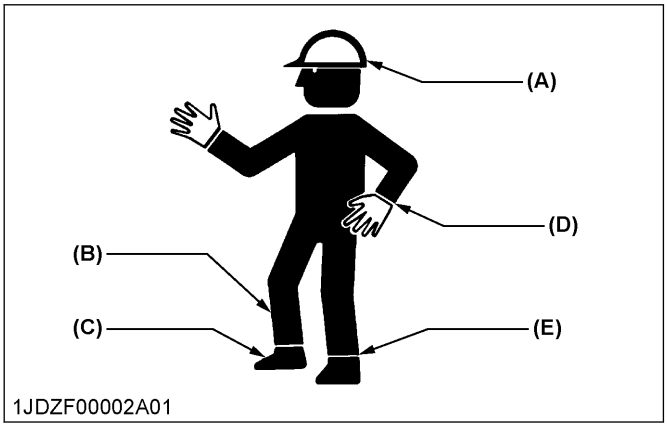
- 本書及び本機の安全ラベルをよく読み理解してください。


1JDZF00001A01

- 本書及び安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 安全ラベルはいつもきれいにしておいてください。また、破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかの人に機械を貸すときは、取扱方法や安全のポイントをよく説明し、この取扱説明書をよく読むように指導してください。

2. 作業に合った服装及び健康状態

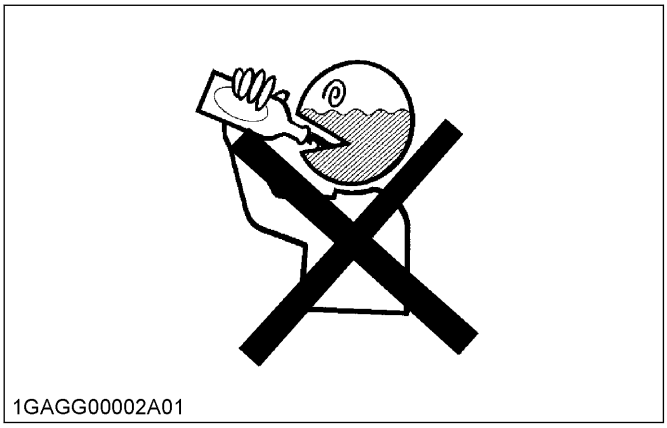
- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
- だぶついた服装は、回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は、すべらないものを使用してください。
- ヘルメット、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護メガネや手袋などを着用してください。



1JDZF00002A01

(A) ヘルメット着用
(B) 体に合った服
(C) 滑りにくい靴
(D) 袖口きっちり
(E) スソきっちり

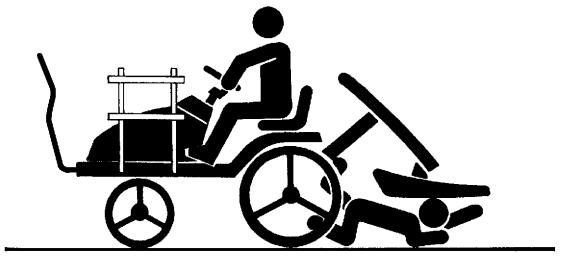
- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、過労、病気の人は使用しないでください。


1GAGG00002A01

- 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。

3. 子供が近づくのは危険

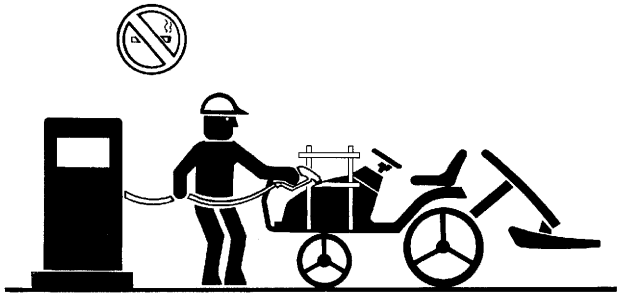
- 点検・整備中及び田植作業中は機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかくれたりしてたいへん危険です。



1EAWQ00087A01

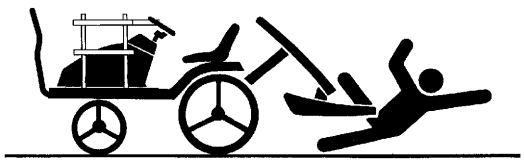
4. 使用前の準備・点検

- 使用前の点検は必ず行なってください。
  特にブレーキペダルの点検は忘れないでください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は、エンジンを止めて行なってください。
- 火気厳禁。



1EAWQ00088A01

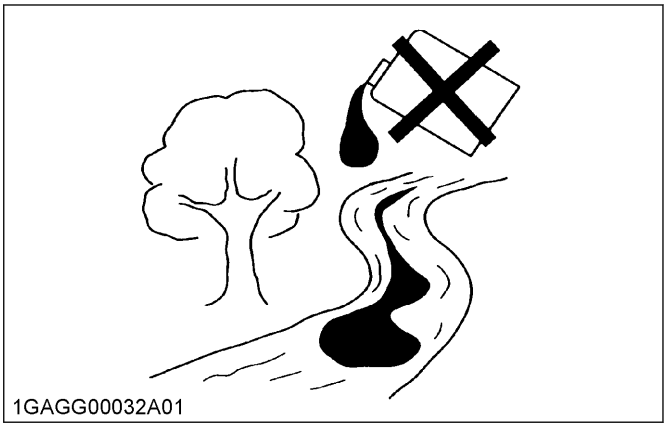
- 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けて行なってください。
- 植付部を持上げてビークなどの点検をするときは、油圧昇降ロックをするとともに、台などで支えをして落下を防止してください。



1EAWQ00089A01

5. 廃棄物の取扱い注意

- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。

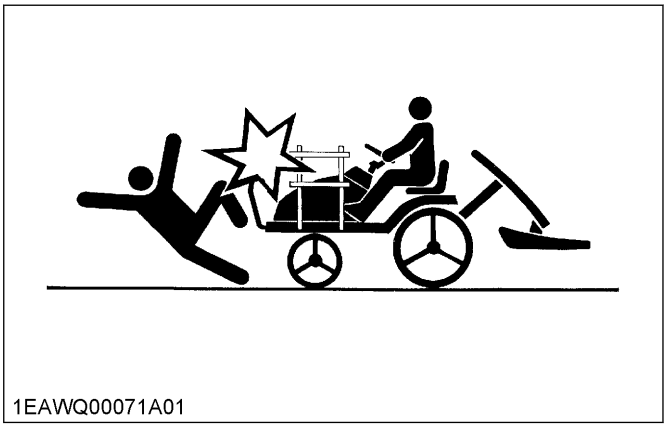


1GAGG00032A01

- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先又は、産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

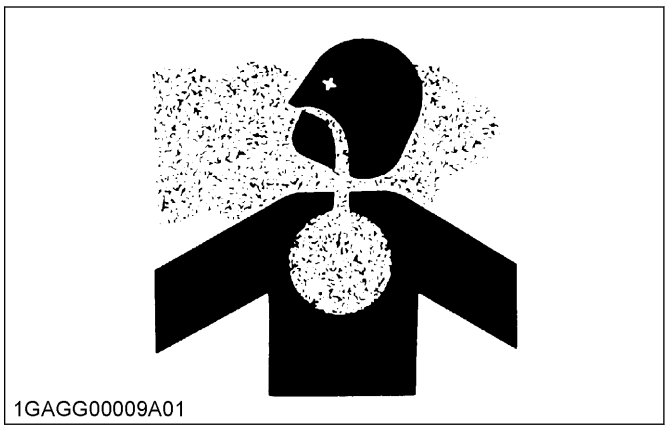
6. エンジンの始動

- エンジンの始動時、運転席に座り、主変速レバー、副変速レバーが**[N]**（中立）になっていることを確認してから始動してください。
- 機械の周囲の人・物にじゅうぶん注意し、ブレーキペダルを踏んでから始動してください。



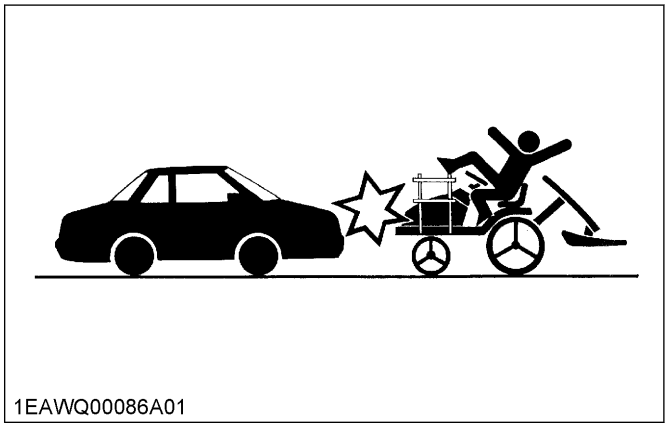
1EAWQ00071A01

- 機械を始動及び動かすときは、周囲の人に合図して安全に気をつけてください。
- 屋内で始動するときは、窓・扉を開け、外気がじゅうぶん入るようにしてください。


1GAGG00009A01

7. 走行運転

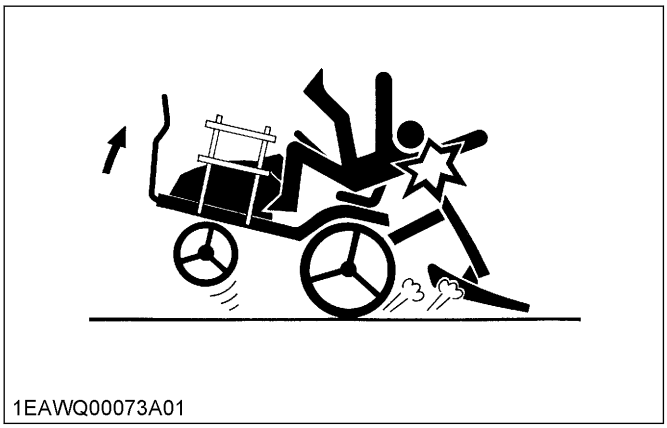
- この機械は一般道路は走れません。


1EAWQ00086A01

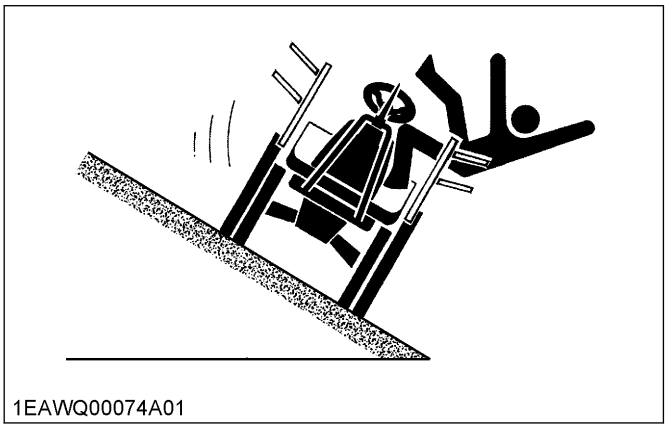
- 一般道路はトラックなどで運搬してください。
- 発進前に必ず植付部が持上げられているかを確認してください。
- 機械の周囲の人・物に注意して、ゆっくり発進してください。
- 初めて運転される方は、操作になれるまで低速で運転してください。
- 道のりが遠くても、その他どのような場合でも、絶対に運転者以外の人を乗せないでください。


1EAWQ00072A01

- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないで、荷物はめんどうでも、別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- 植付部を最上昇位置にしたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして植付部の落下防止を行なってください。
- 急発進・急停止・急旋回はしないでください。


1EAWQ00073A01

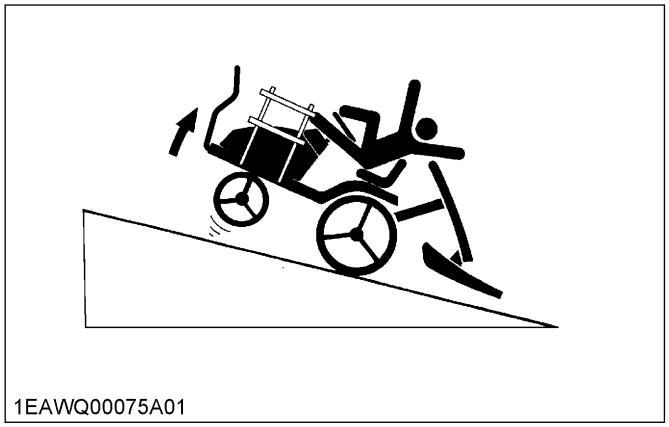
- 発進するときは、ブレーキペダルを離してから主変速レバーを**[N]**（中立）位置からゆっくりと操作してください。
- 停止するときは、必ず主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻してからブレーキペダルを踏込んでください。
- カーブ・曲り角では早めにスピードを落としてください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。
- トレースマーカ・センターポール・線引マーカを収納状態にしたあと、線引マーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう、ゆっくりと運転してください。特に、苗のせ台の接触には注意してください。
- 機体が右又は、左に大きく傾き、転倒するおそれがあるので、傾きの大きいところでは走行しないでください。


1EAWQ00074A01

- ホッパ内やホッパの上などに物を乗せないで、荷物はめんどうでも、別にトラックなどで運搬するようにしてください。**[R：粒状施肥機仕様]**
- ホッパのふたを閉じてフックが掛かっていることを確認してください。**[R：粒状施肥機仕様]**

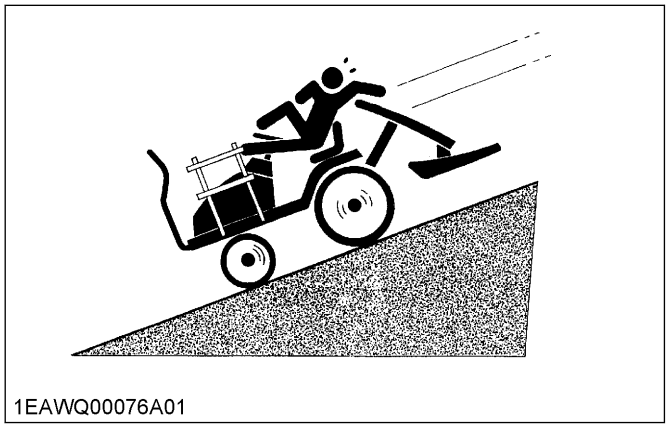
8. 坂道走行

- 坂の手前で一旦停止して、副変速レバーを**[圃場作業]**に切換えてから、坂道の登り降りをしてください。
- 発進・停止するときは、必ず主変速レバーを操作してください。
- 急発進は禁物。
- 坂が急で、前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は、後進で登るようにしてください。



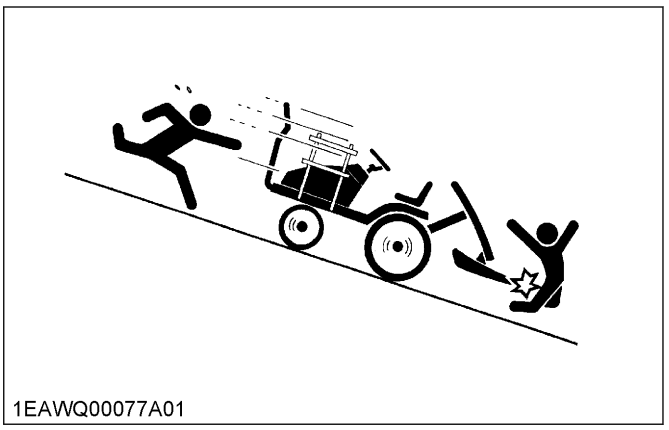
1EAWQ00075A01

- 坂の途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。



1EAWQ00076A01

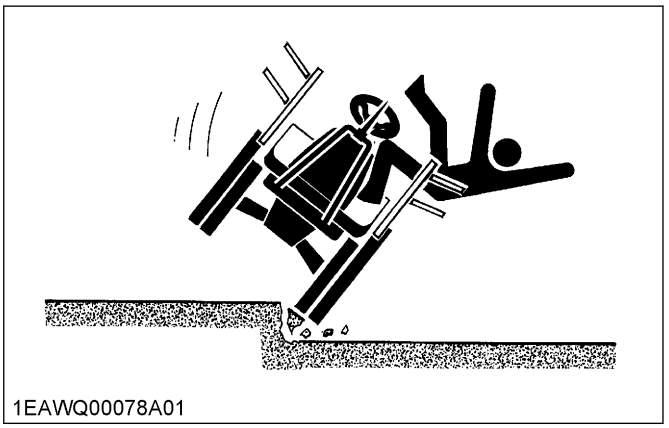
- 坂の途中で危険回避などのためにやむを得ずブレーキペダルを踏むときは、ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。
- 坂道では、特別なとき以外には駐車しないようにしてください。
- 駐車する場合は、駐車ブレーキを掛けて、石や木片などで下側の両輪に車止めをしてください。
- 駐車中は、副変速レバーを**[圃場作業]**又は**[移動]**に入れておいてください。



1EAWQ00077A01

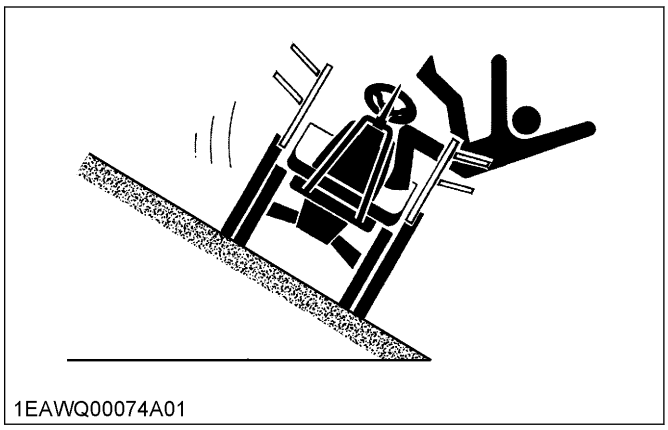
9. 農道、ほ場の移動

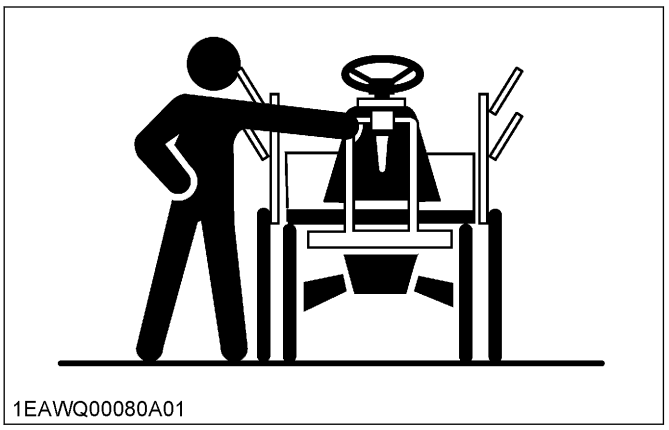
- 副変速レバーを**[移動]**にして、植付部を上昇させて、ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。



1EAWQ00078A01

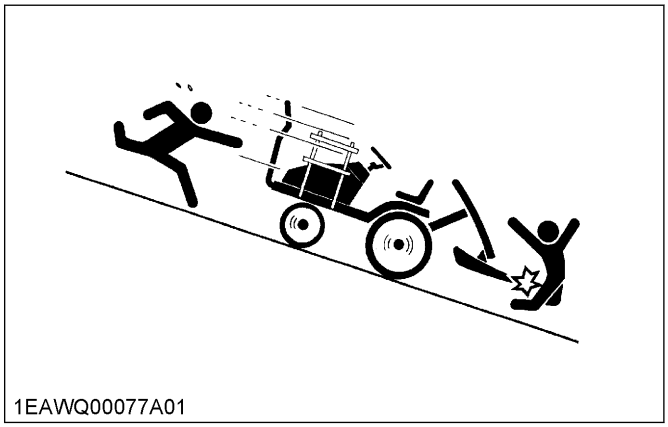
- 草などでおおわれていて路肩がわからないときや危ないと思われる所では、機械から降りて確認するようにしてください。このとき、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキを掛けて行なってください。
- 雨あがりのとき、狭い農道では、速度を落として慎重に走行するようにしてください。
- 対向車をさけるときは、無理に端いっぱいに寄らず、一旦停止して対向車をやりすごしてください。
- 油圧昇降ロックをし、植付部の落下を防止してください。
- レール状態の予備苗のせ台、トレースマーカ、センターポール、AZ(アゼ)アームを収納し、線引マーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう、ゆっくりと運転してください。
- 機体が右又は、左に大きく傾き、転倒するおそれがあるので、傾きの大きいところでは走行しないでください。


1EAWQ00074A01

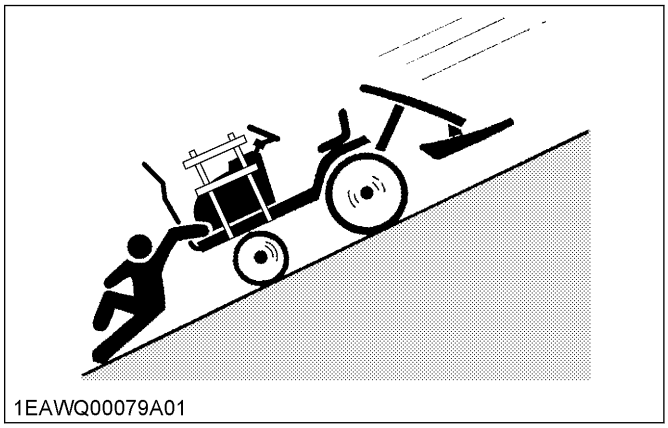

1EAWQ00080A01

10. 降りての走行

- 降りて走行するときは、必ず AZ(アゼ)アーム・AZ(アゼ)レバーを使用してください。
- 降りて走行するときはアクセルレバーを［🐢］位置にし、副変速レバーを**[圃場作業]**位置にしてください。
- 降りて走行するときは、機械の周囲に人を近づけないでください。特に、傾斜（坂道、あゆみ板上、あぜごえなど）のあるところでは機械後方に人がいないことを確認してください。


1EAWQ00077A01

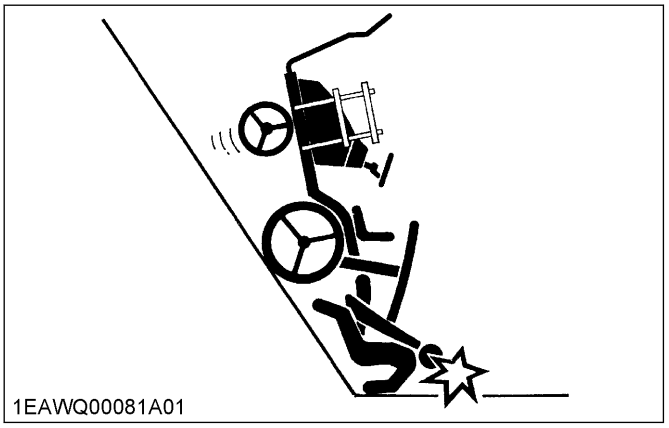
- 傾斜のあるところでは、機械前部を傾斜上方向にして上り降りしてください。


1EAWQ00079A01

- 傾斜のあるところでは、機械の正面で操作せずに、機械右側（AZ(アゼ)レバー側）の位置で操作してください。

11. ほ場の出入り

- 降りて走行するときは**［降りて走行のしかた］**（41 ページ）を参照してください。
- 農道が狭い場合は、ほ場に出入口の傾斜をつくり、溝は渡り橋をつくってください。
- ほ場の出入り、土手などの急斜面の登り降り、溝越えのときには、必ずあゆみ板を使うか、ほ場に出入口傾斜や渡り橋をつくって、後進で登ってください。


1EAWQ00081A01

- あゆみ板は、機械の重量に耐える強度（金属製）で、段差に対して 5 倍以上の長さのもの、また、横サンとスベリ止めのついたものを使用してください。
- あゆみ板を登り始める前に、前輪デフロックペダルを**踏む**ことを忘れないでください。また、前輪デフロックペダルを踏み込んだままの状態で登ってください。
- あぜ・溝に対して機械を直角に止め、左右の 2 枚のあゆみ板が機械の両輪に合い、平行になっているかを確認してください。
- ハンドルを真直ぐに直し、真直ぐに登ってください。
- 急傾斜面の移動で斜面を下るときは、副変速レバーを**[圃場作業]**で、前輪デフロックペダルを踏んで前輪を左右ロックしてください。
- 走行途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。



1EAWQ00076A01

- 走行途中で危険回避などのために本機を停止させたいときは、ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキペダルの踏込みが足らない場合は、暴走するおそれがあります。

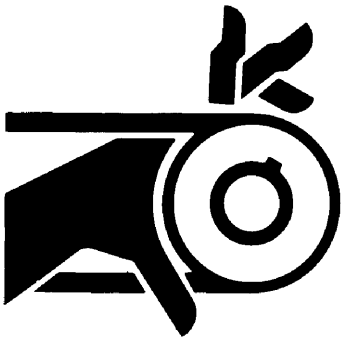
12. ほ場での作業

- 苗や肥料［**R：粒状施肥機仕様**］を補給するときは、主変速レバーと植付クラッチレバーを**[N]**（中立）にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し、なるべく枕地で行なってください。［**R：粒状施肥機仕様**］

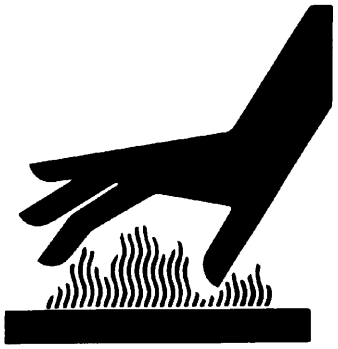


1EAWQ00083A01

- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。



1GAGG00028A01

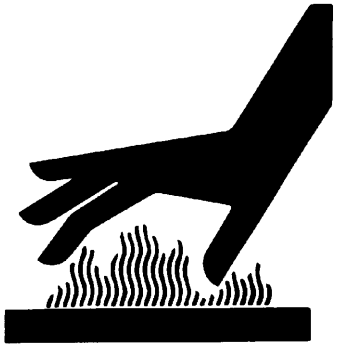


1GAGG00033A01

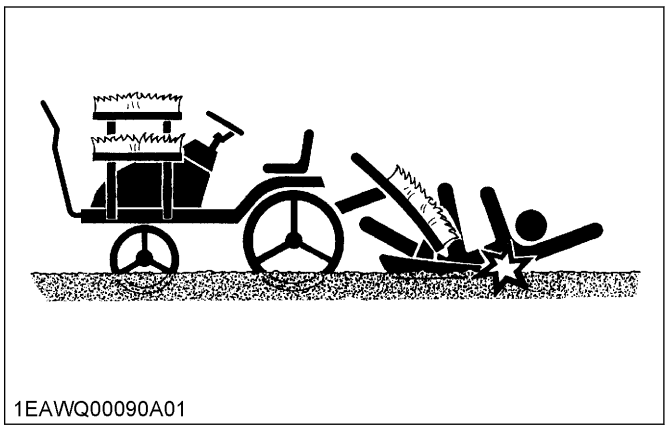
- あぜぎわで旋回するときは、あぜの周囲の人や物にじゅうぶん注意を払ってください。
- 作業中は、ほ場に人を入れたり、機械に人を近づけたりしないでください。
- ウエイト代りに、人や物を乗せないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。
- ビークなどに異物がかみこんだときは、エンジンを停止し、完全に止まったのを確認してから取り除いてください。
- エンジンを掛けた状態で、わらや雑草の上に駐車しないでください。

13. 機械から離れるとき及び走行、作業途中の駐車・点検

- 機械から離れるときは、坂道などの傾斜地を避け、平たんな場所へ移動してください。
- 駐車及び点検などで運転席を降りるときは、副変速レバーを**[圃場作業]**位置又は**[移動]**位置に入れたあと、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にしてエンジンを止め、駐車ブレーキを掛けて、キーを抜いてください。
- エンジンをかけたままで、草やワラの上に駐車しないでください。
- 高温部に触れないよう注意してください。



1GAGG00033A01



1EAWQ00090A01

- 植付部を上昇させて点検するときは、植付クラッチレバーで植付部を最上昇させ、油圧ロックレバーを必ず**[閉]**にするとともに、下に木の台などを置いて落下防止の歯止めをして、植付部の落下を防止してください。

14. ヤケド防止

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。

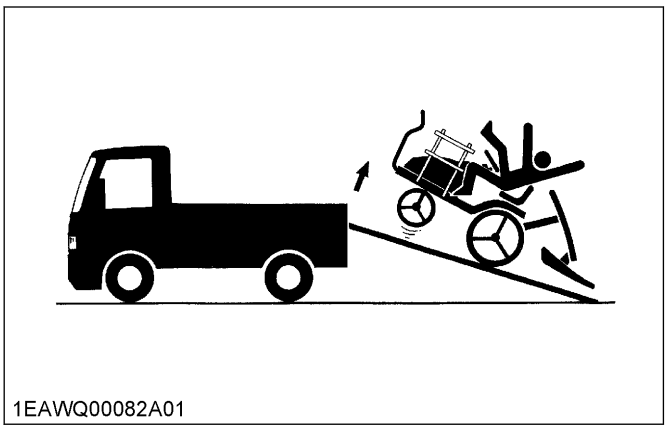


1GAGG00033A01

- ヘッドランプを点灯すると、ランプ表面も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。

15. トラックなどへの積み・降ろし

- 降りて走行するときは［降りて走行のしかた］（41 ページ）を参照してください。
- 乗って積み込むときは必ず後進で行ない、降りて積み込むときは前進前あがりで行なってください。



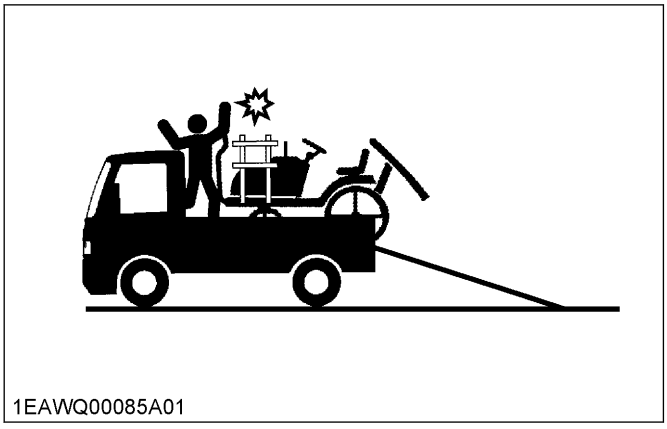
1EAWQ00082A01

- 積込み・積降ろしを開始する前に、トラックの駐車ブレーキがかかっているかを確認してください。
- 脱輪に注意してください。
- 前輪デフロックペダルを使用してください。
- 副変速レバーを**[圃場作業]**にし、主変速レバーをゆっくり操作してください。
- 途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。
- あゆみ板は、段差の 5 倍以上の長さのものを使ってください。

あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの 5 倍以上
幅	30 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 250 kg 以上の重量に耐えうる

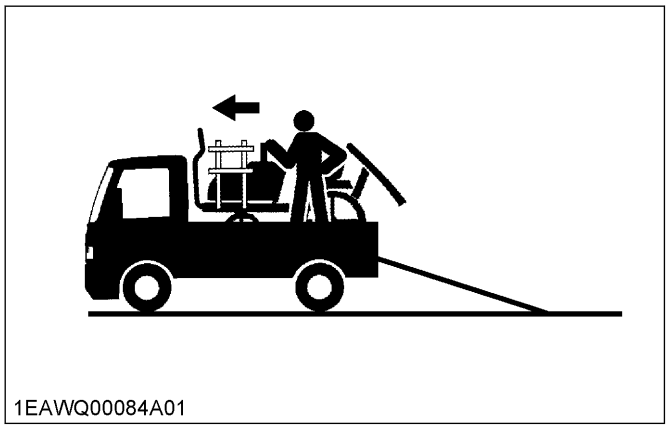
- 誘導者を付け、周囲の安全をじゅうぶん確認してください。また、機械の前には絶対に立たないでください。
- 途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱい踏込んでください。
- 途中でエンストしたときは、即ブレーキペダルをいっぱい踏込み、再びエンジンを始動して、アクセルレバーを**[始動]**位置まで動かしてエンジン回転数を上げてください。



1EAWQ00085A01

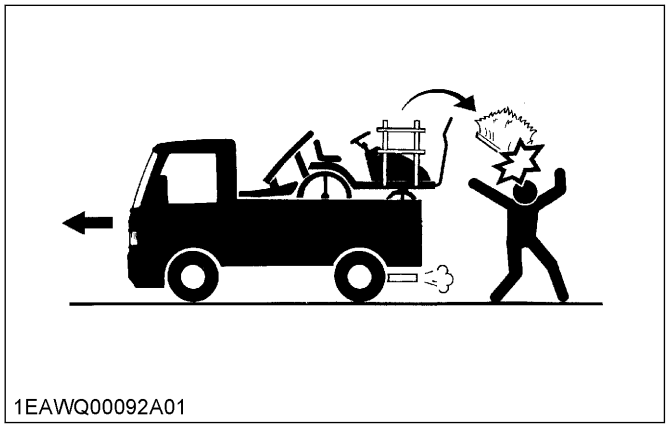
- トラックに積込むときは、降りて必ず操作してください。機械左前方に立って、主変速レバーをゆっくり前進側に操作してください。機械とキャビンの

間に挟まれるおそれがあるため、機械の後輪が荷台上に載ったとき、いったん停止し、機械の左側中央に回って、主変速レバーをゆっくり前進側に操作して前方に寄せてください。


1EAWQ00084A01

16. トラックなどでの運搬

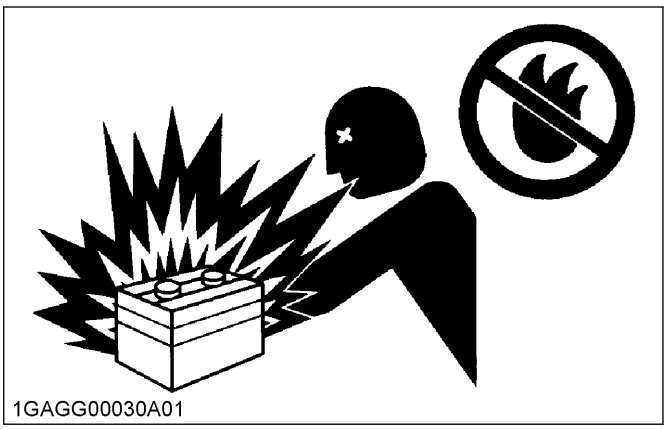
- 駐車ブレーキをかけてください。
- ロープは前輪と後輪に掛け、確実に固定してください。
- 苗のせ台・予備苗のせ台などに乗せてあるものは、必ず降ろしてください。


1EAWQ00092A01

- 苗のせ台を中央に移動させたあと、苗のせ台を最上昇させ、油圧ロックレバーを**[閉]**にしてください。

17. バッテリの取扱い注意

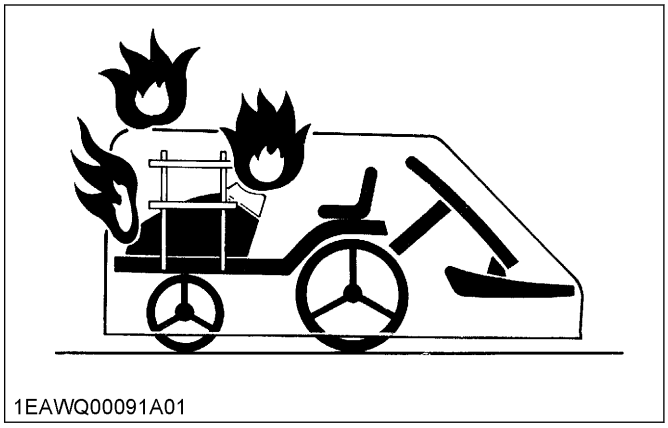
- バッテリのガスは爆発のおそれがあります。
- バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。


1GAGG00030A01

- バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。
- バッテリの充電時、交換時は、バッテリの安全ラベルをよく読んでください。
- バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに**[UPPER LEVEL]**（上限）と**[LOWER LEVEL]**（下限）の間に補水してください。**[補水タイプ]**
- 充電は、バッテリを機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうとバッテリが破裂するおそれがあり危険です。
- バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。
- バッテリ液（希硫酸）が目、皮ふ、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- バッテリ液（希硫酸）が目に入ったときは、水でよく洗った後、医師に治療を受けてください。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

18. 使用後の手入れ

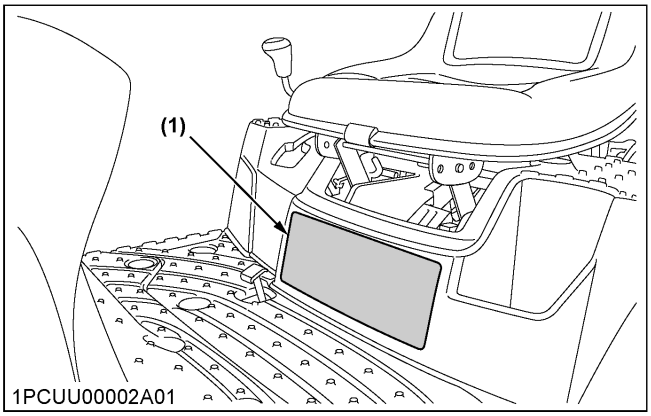
- 点検・手入れ・掃除・調整は、エンジンを止めて行なってください。
- 取外した保護カバーなどは、必ず元のとおりに取付けてください。回転部などがむき出しになり危険です。
- 格納するときは、平たんな場所に植付部を下げて置いてください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。
- 本機カバーなどをかける場合は、エンジンなど加熱部分がじゅうぶん冷えてからにしてください。火災の原因になります。



1EAWQ00091A01

- 長期格納時には、燃料タンク及び燃料コックのフィルタポット内のガソリンを抜取ってください。

安全ラベルと貼付位置



(1) 品番　95700000140

⚠ 警　　告

転倒・暴走事故防止のため、下記事項を守ること。



エンジン始動時
ブレーキペダルを踏み込み、主変速レバー及び植付レバーを『N（中立）』にしてからエンジンを始動すること。

走行全般
主変速レバーを『N（中立）』にしてからブレーキペダルを離すこと。
高速走行時は急停止、急旋回はしないこと。

作業時
苗等の補給時は主変速レバーを『N（中立）』にして駐車ブレーキをかけること。



トラックなどへの積み降ろし・畦越え・急な坂道での走行時
1．副変速レバーを『圃場作業』にして、田植機から降りてＡＺ（アゼ）アームを使用し、低速で走行すること。
2．段差の５倍以上の長さのあゆみを使用し、誘導者をつけること。
3．斜面に対して直角に走行すること。

機械から離れるとき
1．エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずキーを抜くこと。
2．スタンドを立て、植付部を降ろすこと。
3．坂道では車止めをすること。

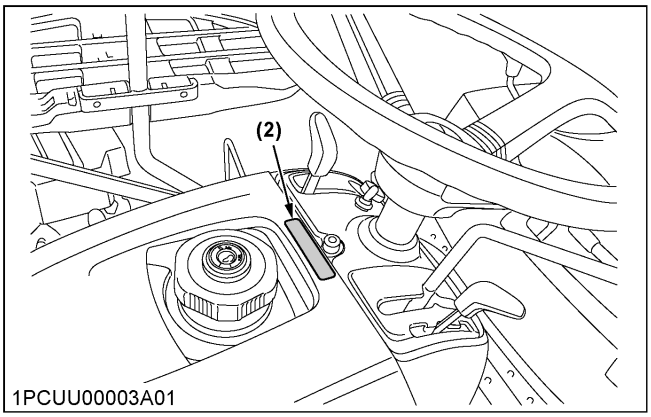
使用前
1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．屋内では排気ガスが溜まり易くガス中毒の危険があるため、換気を十分すること。

移動走行時
1．この機械は公道走行はできないため、トラックにのせて運搬のこと。
2．軽四トラック搭載時は①②行い、荷台横幅よりはみ出さないこと。
①植付部のしゅう動板を折りたたみ、しゅう動板ガードを縮める。
②回転マーカを外し、マーカをフックに固定する。
3．転倒などの危険があるため、傾斜地・路肩の軟弱な農道・がけ際は走行しないこと。
4．転落や破損の危険があるため、運転者以外の人や物を乗せないこと。
5．植付部が不意に下降してはさまれる危険があるので、植付部を上げて移動するときは、油圧ロックレバーを必ず「閉」にすること。

作業時
1．ヤケドをするおそれがあるので、清掃・点検・整備・調整・給油はエンジンを必ず止め、冷えてから行うこと。
2．衝突や転倒のおそれがあるため、夜間作業は絶対にしないこと。
3．植付作業中、安全クラッチが作動（ガッガッという大きな異音）したら、すぐに走行を停止し、エンジンを止めて植付爪先端の障害物を取り除くこと。

(2) 品番　26910007772



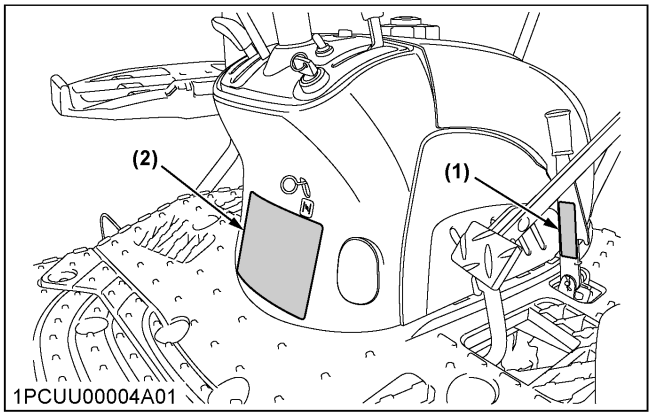


1SSHA00009A01jaJP

(1) 品番　95700000160

⚠ 警告

機械から離れるときは、このレバーで必ずペダルをロックしてブレーキを効かすこと。



(2) 品番　95700000130

⚠ 警　告

降りて機械を動かす時の注意
1. エンジン回転をアイドリングに下げ、副変速レバーを『圃場作業』にすること。
2. 機体が傾斜状態にあるときは、変速操作をしないこと。
3. ＡＺ（アゼ）アーム使用時は前輪を直進方向に向けること。

ボンネットをはずして点検・調整するときの注意
1. 回転物・高温部がありケガをするのでエンジンを必ず止めること。
2. 点検・調整後はボンネットを必ず取付けること。

乗車時の注意
ハンドル操作が重くなるので乗車時はＡＺ（アゼ）アームを立てること。

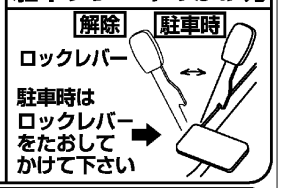
エンジン始動・停止要領

始動時 エンジンスイッチを"運転"位置に合わせブレーキペダルを深く踏込み、主変速レバーおよび植付レバーが『Ｎ（中立）』にあることを確認してエンジンスイッチを"始動"位置に回して下さい。

停止時 ブレーキペダルをロックし、主変速レバーおよび植付レバーが『Ｎ（中立）』にあることを確認してエンジンスイッチを"停止"の位置にして下さい。

不意に動かないように機械から離れるときは、必ず、ブレーキペダルをロックすること。

駐車ブレーキのかけ方



潤　滑　油

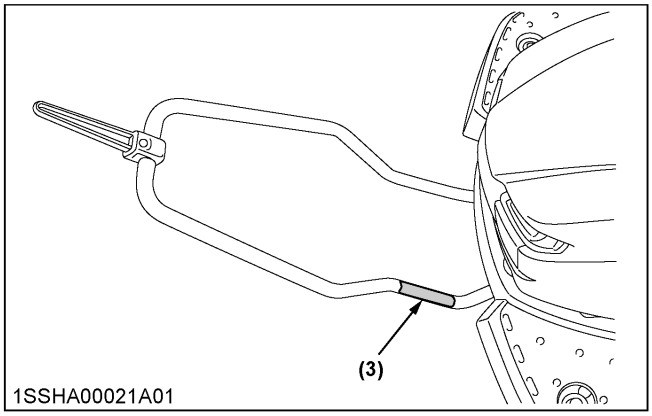
給油箇所	油量	指定オイル
エンジンオイル	0.6ℓ	マルチSTOU オイル
ミッションオイル	3.4ℓ	
後車軸 オイル	1.2ℓ	

M

(3) 品番　95700000170

⚠ 警告

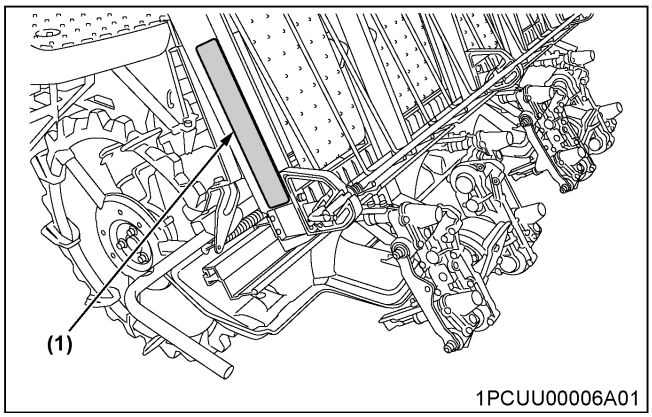
降りて走行するときは、
アクセルレバーを『🐢』位置に、
副変速レバーを『圃場作業』位置にすること。



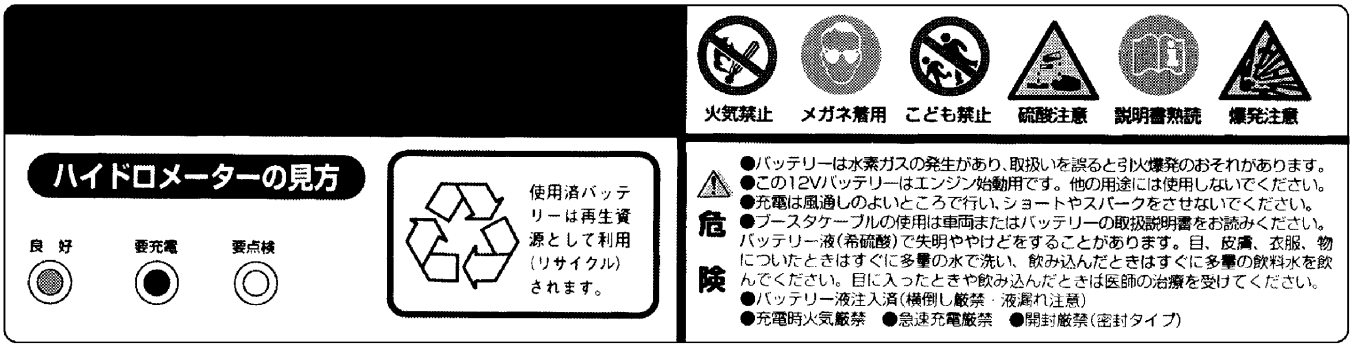
1SSHA00027A01jaJP

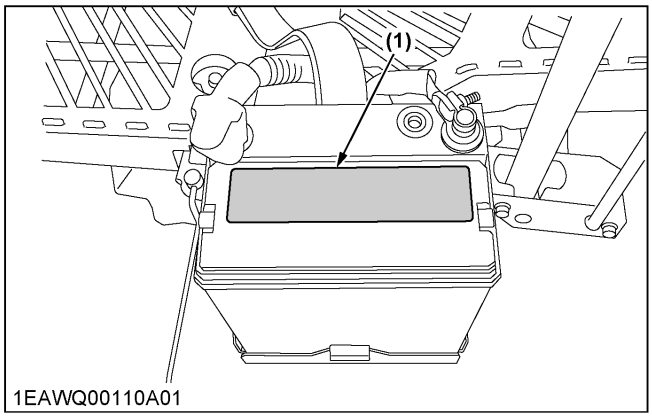
(1) 品番　95700000110





(1) 品番　99920000320





1SSHA00011A01jaJP

安全ラベルの手入れ

安全ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守る。

- 安全ラベルはいつもきれいにして、傷つけないようにしてください。
- 安全ラベルがよごれた場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布でふいてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接安全ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

⚠ 警告

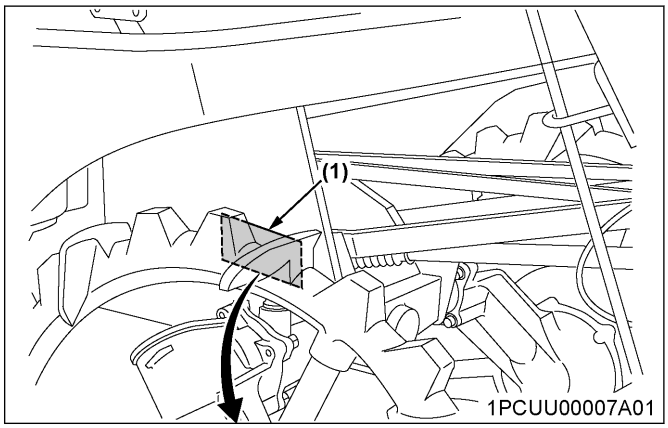
- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

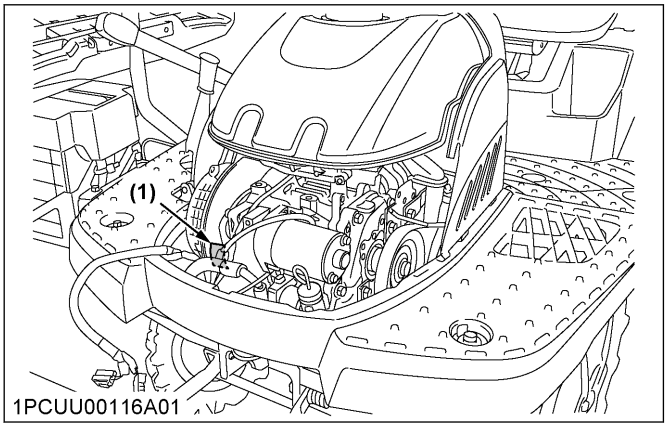
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ**【ご相談窓口】**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際、銘板に記載している
- 型式名・区分と製造番号
- 搭載機関（エンジン）の型式名と番号

をあわせてご連絡ください。
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。





(1) 銘板（型式名、区分及び製造番号）



(1) 銘板（エンジン番号、エンジン型式名）

補修用部品の供給年限について

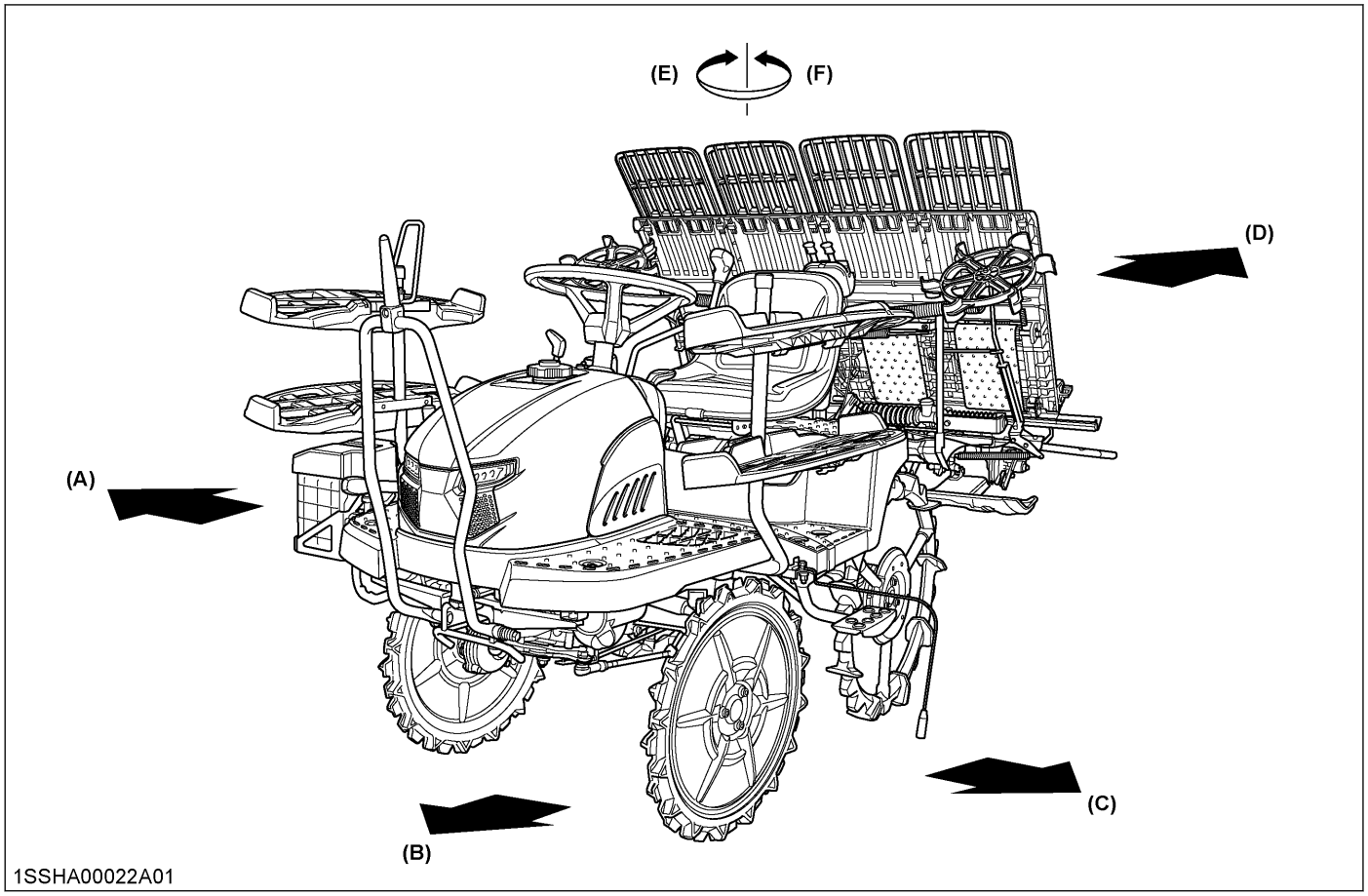
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 9 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は、図示の通りです。

※イラストは［LC41H］

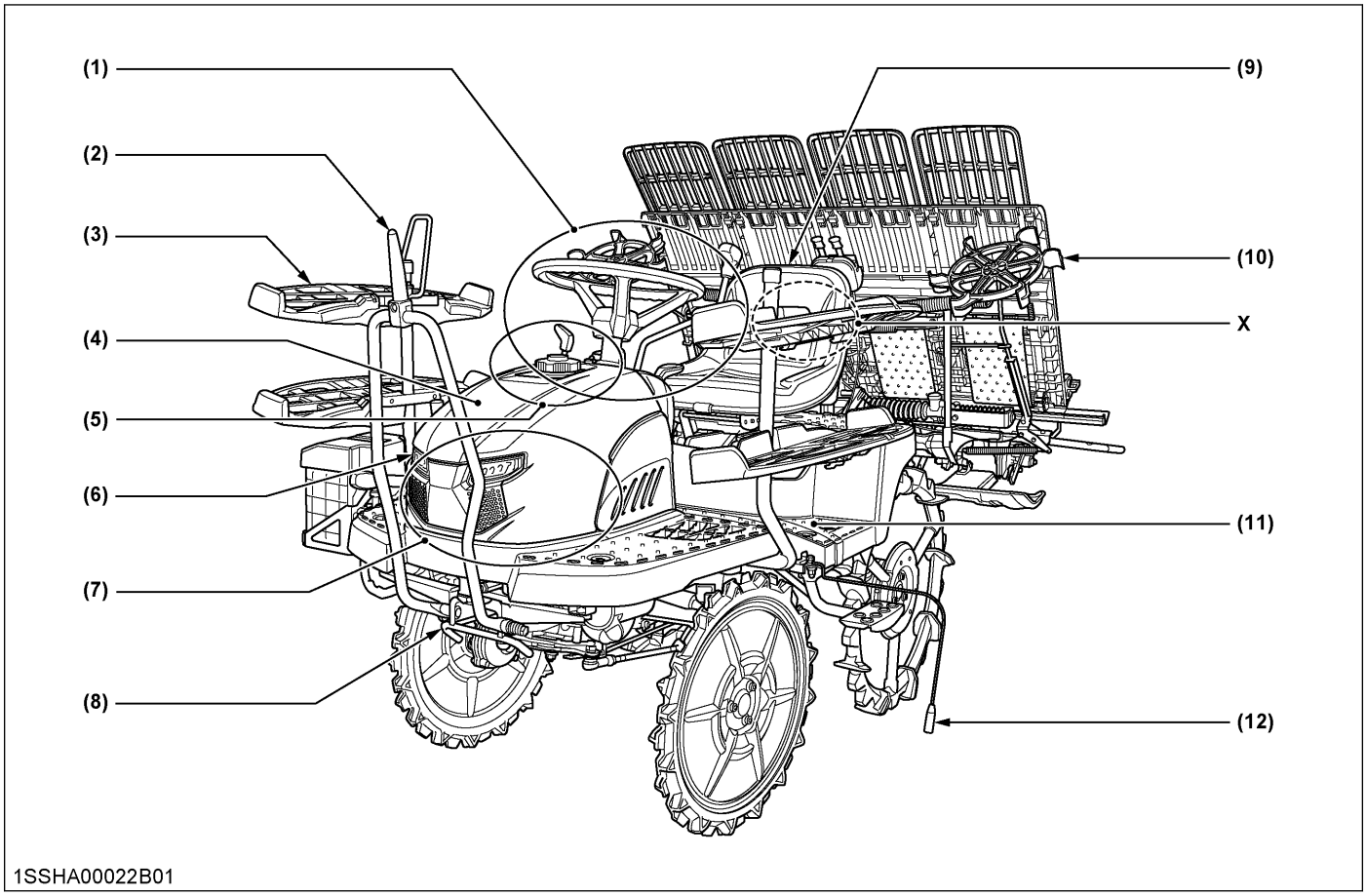


1SSHA00022A01

(A) 右側
(B) 前方
(C) 左側
(D) 後方
(E) 右回り（時計方向）
(F) 左回り（反時計方向）

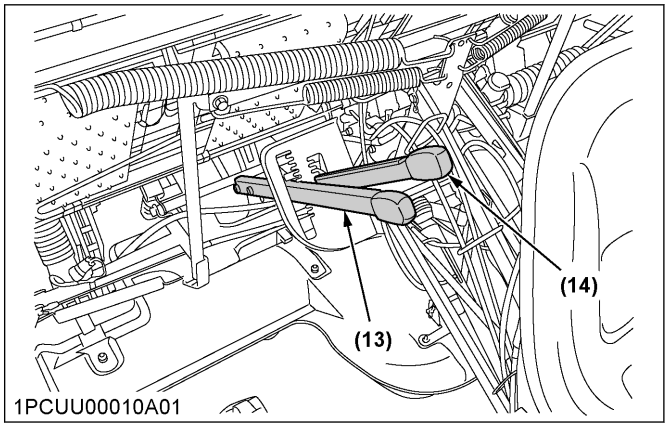
各装置の名称

※イラストは［LC41H］



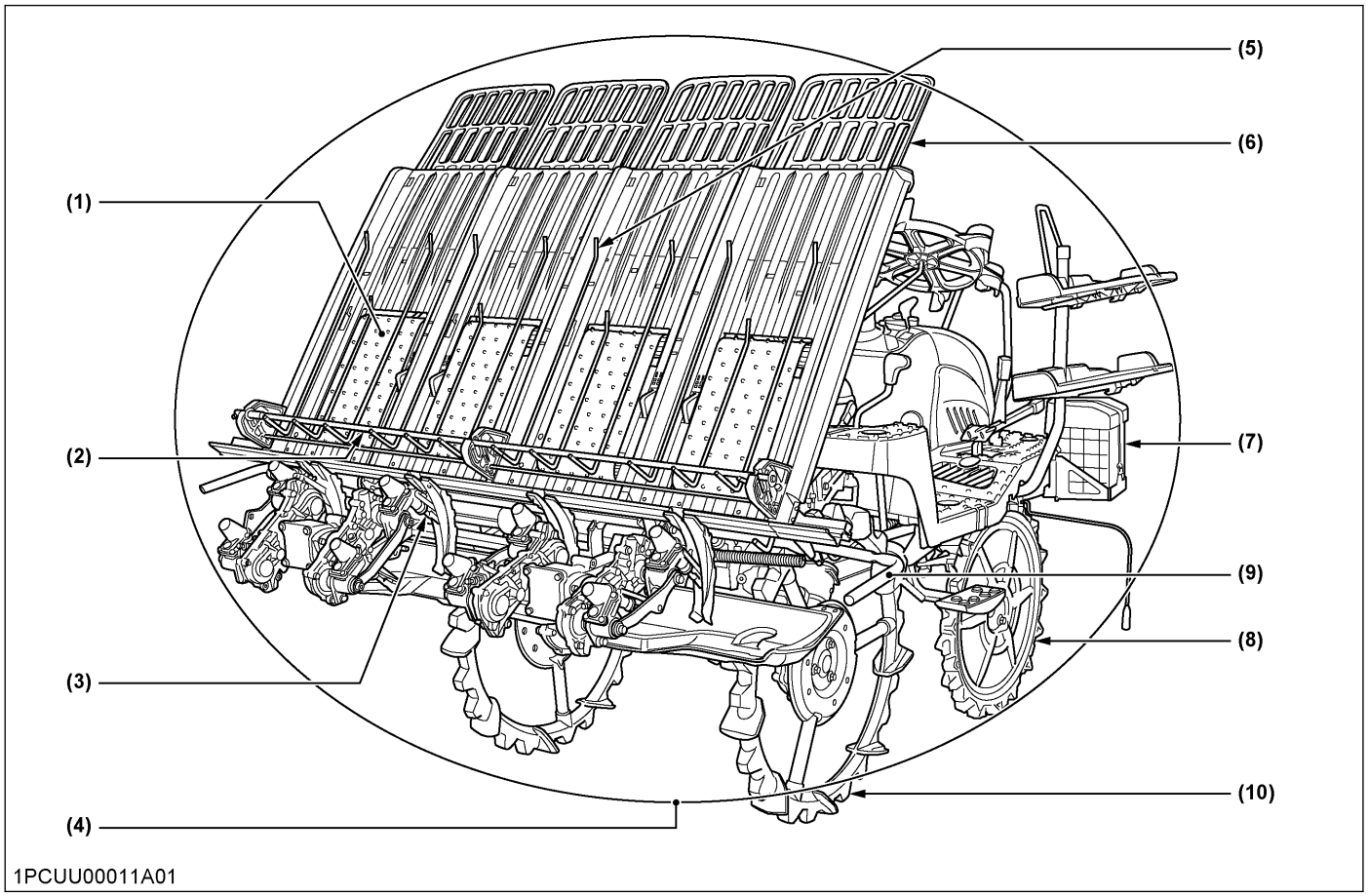
(1) 運転操作部
(2) センターポール
(3) 予備苗のせ台（段積み状態）
(4) ボンネット
(5) 燃料タンク部
(6) ヘッドランプ
(7) エンジン部
(8) けん引フック
(9) 運転席（シート）
(10) 線引マーカ
(11) ステップ
(12) トレースマーカ

X 部拡大図



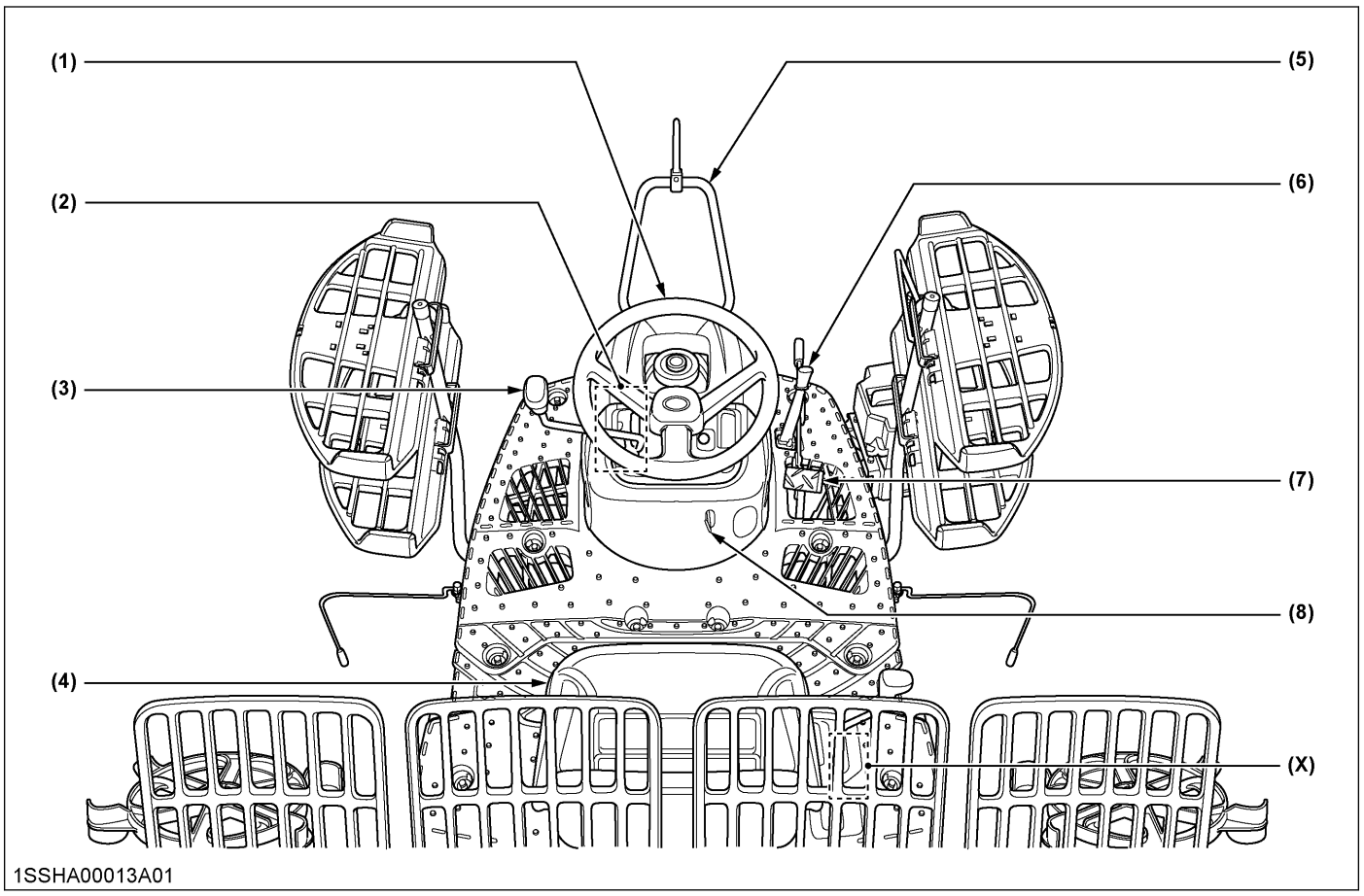
(13) 植付本数調節レバー
(14) 植付深さ調節レバー

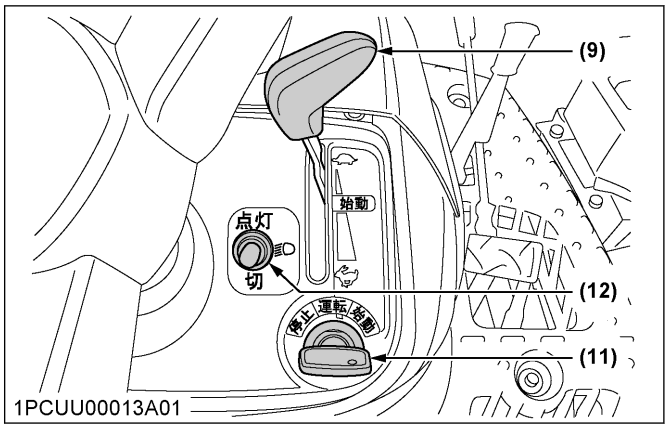
※イラストは［LC41H］



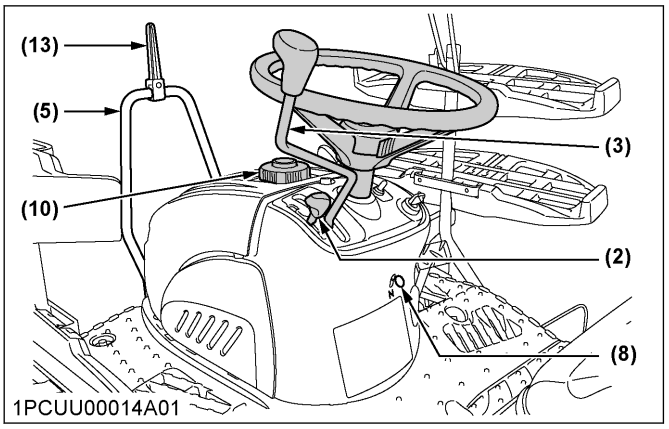
1PCUU00011A01

(1) 縦送りベルト
(2) 苗ホルダ
(3) ピーク
(4) 植付部
(5) 苗押さえ
(6) 苗のせ台
(7) バッテリ
(8) 前輪
(9) エプロンガード
(10) 後輪

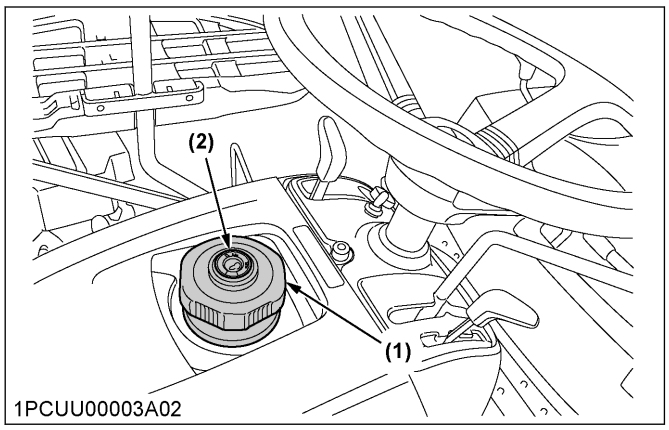




(1) パワーステアリングハンドル
(2) 副変速レバー
(3) 主変速レバー
(4) 運転席（シート）
(5) AZ(アゼ)アーム
(6) 駐車ブレーキロックレバー
(7) ブレーキペダル
(8) チョークレバー

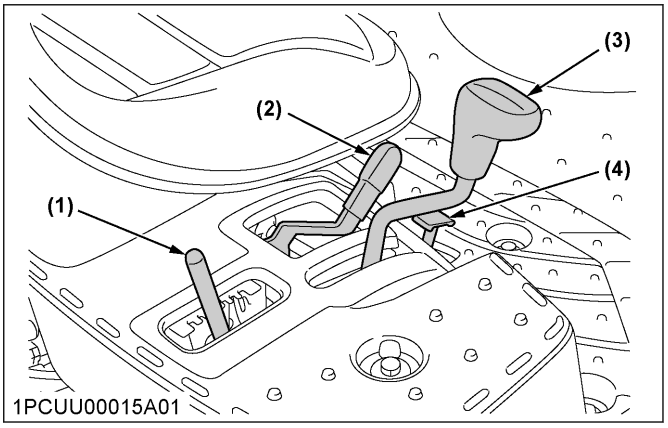


(9) アクセルレバー
(10) 燃料キャップ
(11) メインスイッチ
(12) ランプスイッチ
(13) センターポール



(1) 燃料キャップ
(2) 燃料計

X 部拡大図



(1) 油圧感度調節レバー
(2) 油圧ロックレバー
(3) 植付クラッチレバー
(4) 前輪デフロックペダル

走行装置の名称とはたらき

1. エンジン操作関係

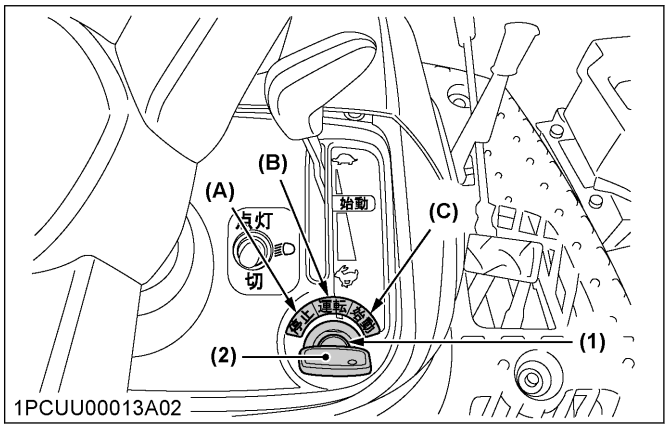
1.1 メインスイッチ

田植機の電源の**入・切**、及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

[停止]
メインスイッチのキーが抜差しできるエンジン停止中の位置

[運転]
電気（電装）装置がはたらく位置

[始動]
セルモータが回転し、エンジンが始動する位置



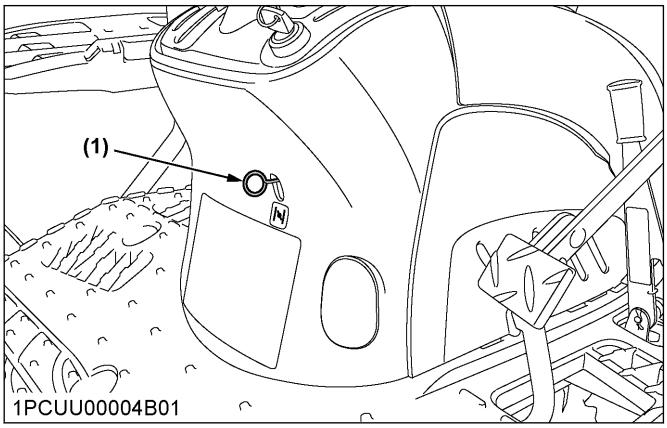
(1) メインスイッチ
(2) キー
(A) ***[停止]***
(B) ***[運転]***
(C) ***[始動]***

重要：
- **バッテリが上がっていると、植付性能に異常が発生するおそれがあります。植付作業を行なう前にバッテリの点検を行ない、補充電が必要な場合は必ず充電してください。また、バッテリが劣化した状態で植付作業はしないでください。**

補足：
- **エンジン始動後、メインスイッチのキーから手を離すとメインスイッチのキーは、[運転]位置に戻ります。**
- **ブレーキペダルをいっぱいまで踏込まないとエンジンは始動しません。また、ブレーキロックレバーでブレーキペダルをロックして駐車ブレーキを掛けてからエンジンを始動してください。**

1.2 チョークレバー

エンジンの始動を容易にするレバーです。レバーを引くと燃料の混合気が濃くなります。

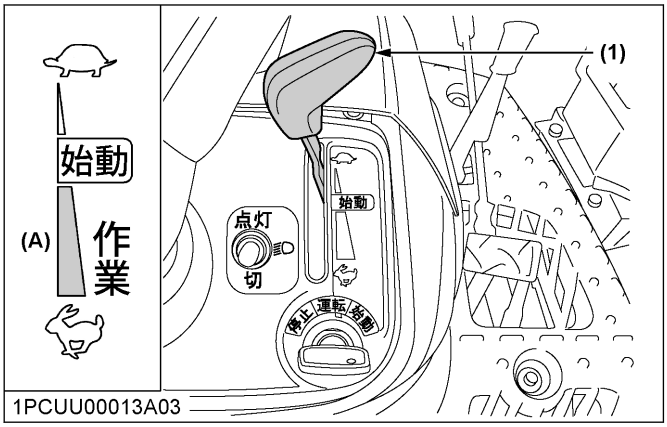


(1) チョークレバー

補足：
- **エンジンの始動以外には使用しないでください。**

1.3 アクセルレバー

エンジンの回転数をコントロールするレバーです。
レバーを後方に引く（ 方向）と回転数が上がり、前方に押す（ 方向）と回転数は下がります。



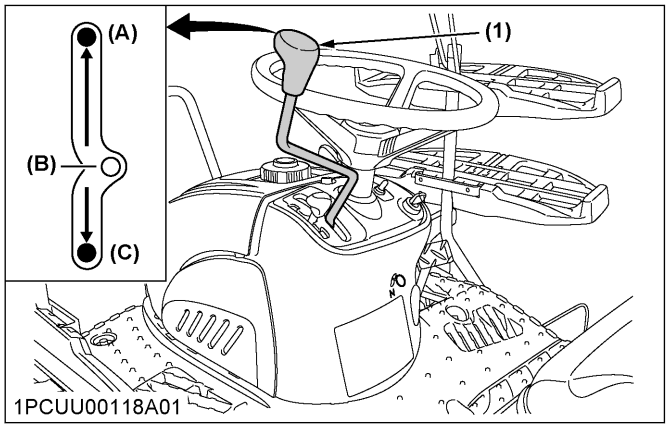
(1) アクセルレバー
(A) ***[作業]***範囲

補足：
- **作業時はアクセルレバーを[作業]範囲内まで引いてください。**
- **主変速レバーを操作するとエンジンの回転数が連動して増減します。**

2. 走行操作関係

2.1 主変速レバー

前進・後進・停止（中立）の操作及び走行速度の調整を行なうレバーです。



(1) 主変速レバー

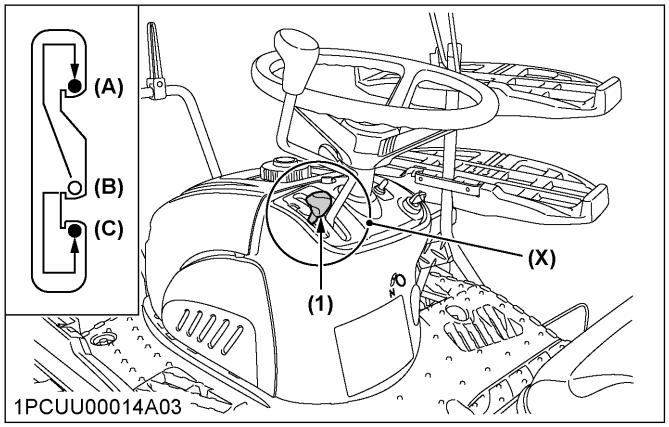
(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[後進]***

補足：

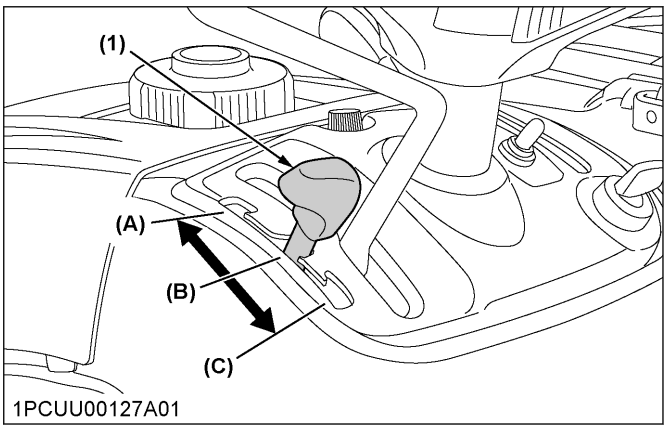
- **通常の走行を停止するときは、主変速レバーを操作してください。**
- **エンジン回転数の調整を行なうときは、主変速レバーを[N]（中立）位置にしたあと、アクセルレバーを操作してください。**

2.2 副変速レバー

[移動]位置と**[圃場作業]**位置の切換えを行なうレバーです。



X 部拡大図

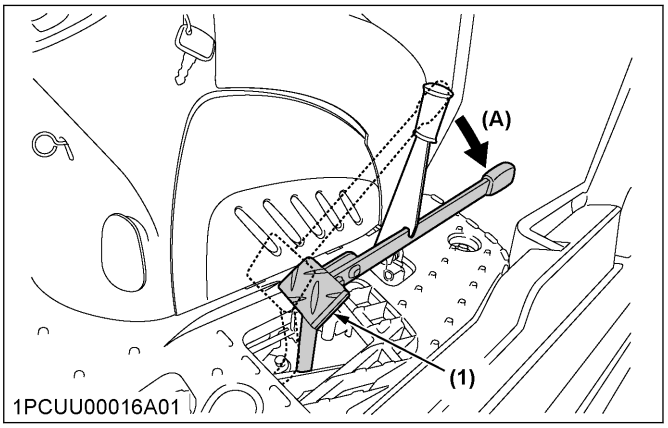


(1) 副変速レバー

(A) ***[移動]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[圃場作業]***

2.3 ブレーキペダル

踏込むとブレーキが掛かります。エンジンの始動時や緊急停止時に使用します。



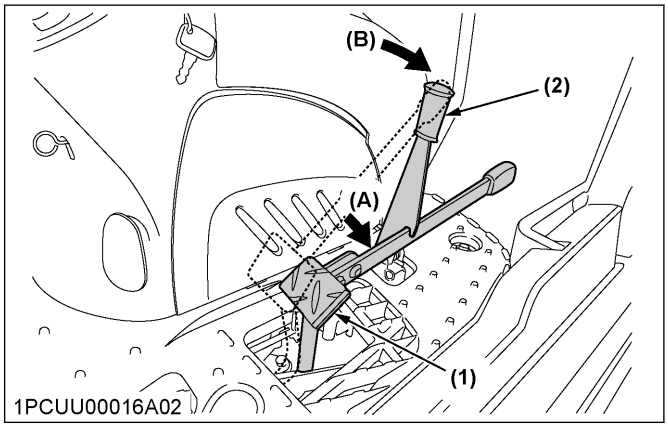
(1) ブレーキペダル

(A) 踏込む

2.4 ブレーキロックレバー

ブレーキペダルを踏込み、ブレーキロックレバーでペダルをロックすると駐車ブレーキが掛かります。また、ブ

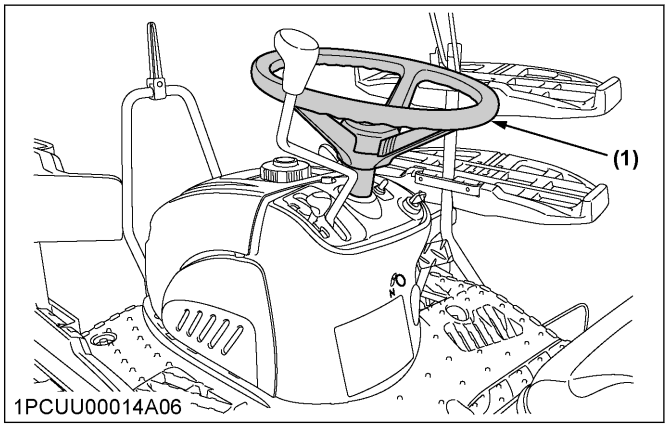
レーキペダルを踏込んでブレーキロックレバーを外すと駐車ブレーキが解除されます。



(1) ブレーキペダル
(2) ブレーキロックレバー
(A) 踏込む
(B) 掛ける

2.5 パワーステアリングハンドル

操向操作（旋回や進路変更）を行なう油圧式のハンドルです。



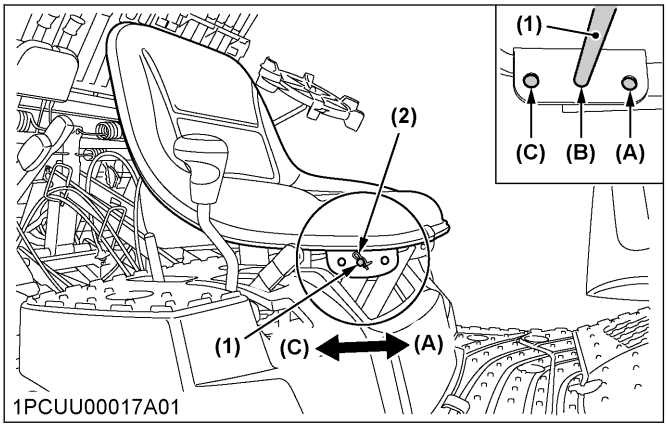
(1) パワーステアリングハンドル

重要：

- **ハンドル操作は、ブレーキペダルを踏込んでいるときや、エンジンが停止しているときは重くなりますので無理に操作しないでください。タイヤの摩耗が早くなったり、リムの破損の原因になります。**

2.6 運転席（シート）

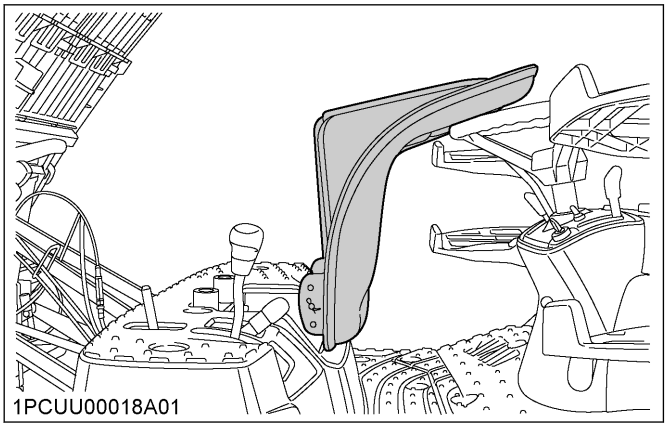
運転席は前後に調節することができます。
運転席の前方下にあるスナップピンとロッドを外し、穴を差換えて前 ⟷ 後に調節してください。



(1) ロッド
(2) スナップピン
(A) 前
(B) 出荷位置
(C) 後

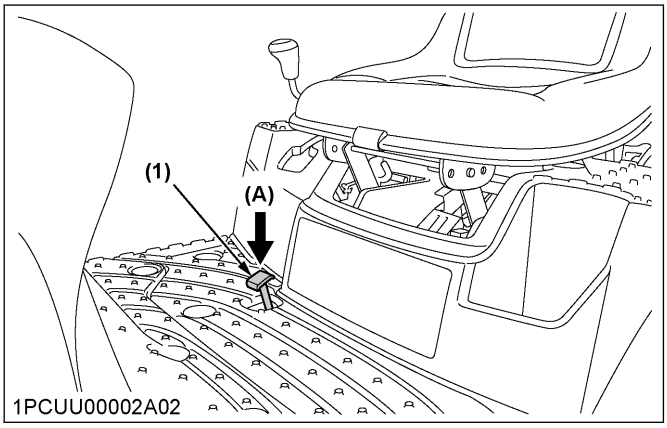
補足：

- **保管するときは、運転席を前方に倒しておくと、ほこりよけとなります。**



2.7 前輪デフロックペダル

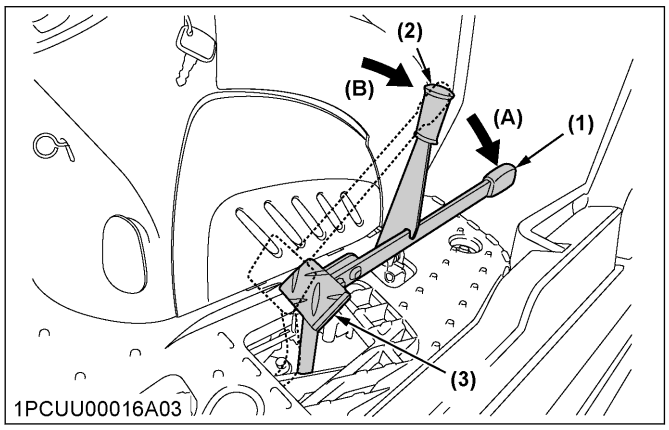
踏込むと、左と右の前輪が一体となって駆動します。あぜごえ、傾斜地（あゆみ板や急な坂道）や前輪がスリップするときに使用します。



(1) 前輪デフロックペダル
(A) 踏込む

2.8 AZ(アゼ)レバー

AZ(アゼ)レバーは AZ(アゼ)アームを使用し、機体から降りて走行する場合に機体の走行を一時停止するレバーです。
機体の走行を停止させるときは、AZ(アゼ)レバーを押下げてブレーキロックレバーの切欠部に掛けてください。解除するときは AZ(アゼ)レバーをいったん押下げてブレーキロックレバーのロックを解除してください。



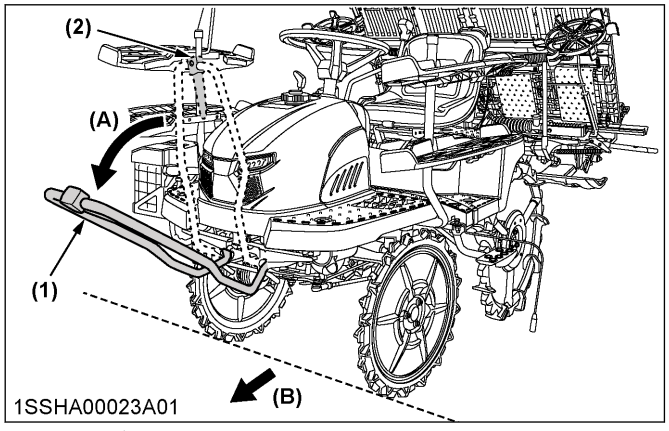
(1) *AZ(アゼ)レバー*
(2) ブレーキロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 下げる
(B) ロック

補足：

- **AZ(アゼ)レバーはブレーキペダルと連動させているため、AZ(アゼ)レバーを操作するとブレーキが掛かると同時に機体の走行が停止します。**

2.9 AZ(アゼ)アーム

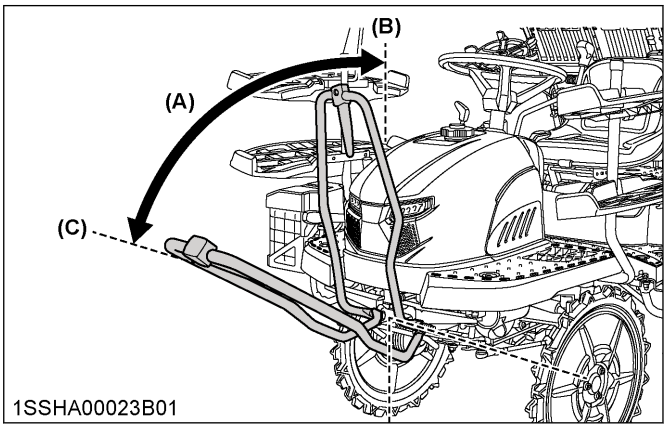
ほ場の出入りをするときのあぜごえや、トラックへの積み・降ろし、急な斜面を登り降りするとき、機械の浮き上がり防止・引上げ・方向修正などを行なうアームです。
AZ(アゼ)アームを操作するときは、センターポールを収納したあと、前輪を直進方向にしてから、アームをいっぱいまで倒します。このとき、前輪は直進状態に保持されます。



(1) *AZ(アゼ)アーム*
(2) センターポール
(A) 倒す
(B) 前輪タイヤを直進方向で保持

2.9.1 AZ(アゼ)アームの操作について

AZ(アゼ)アームは、作業内容及び作業状態により下記位置を基本として使用してください。



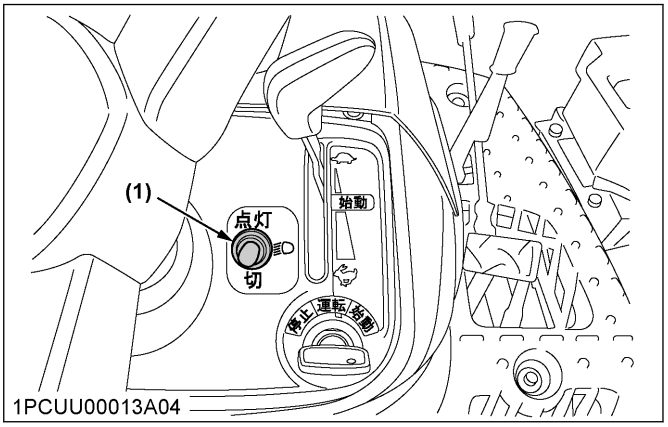
(A) 可動範囲 … AZ(アゼ)アームが動く範囲
(B) 収納位置 … 乗車しての移動、及びトラック輸送時、長期格納時
(C) 降りての操作位置 … あぜごえ時や急な坂道の登り下りなど降りて走行する時

重要：

- **AZ(アゼ)アームをいっぱいまで倒しての植付作業や路上走行は行なわないでください。破損の原因になります。**
- **AZ(アゼ)アームを押さえた状態でハンドルを回さないでください。破損の原因になります。**

2.10 ランプスイッチ

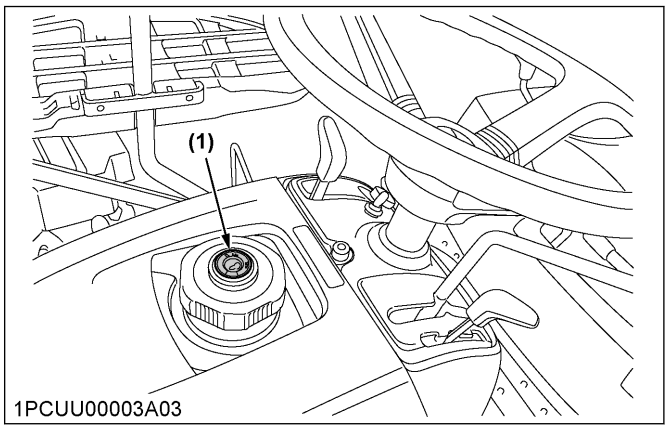
ヘッドランプの点灯・消灯の操作を行なうスイッチです。



(1) ランプスイッチ

2.11 燃料計

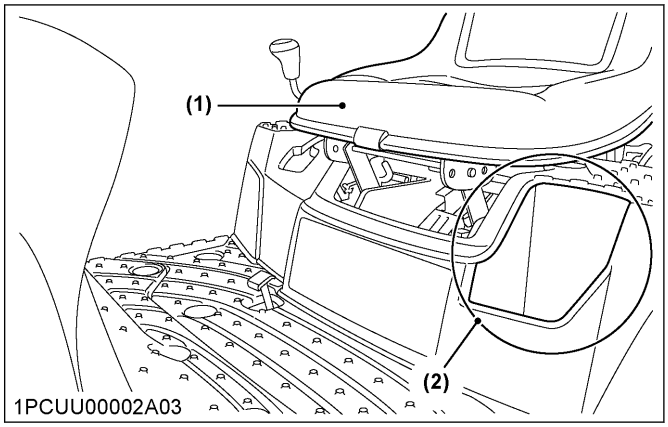
燃料の残量を針で表示（**[F]**〔満タン〕 ⟷補給準備）します。



(1) 燃料計

2.12 小物入れ

小物入れは、飲料水の置き場や工具入れなどとして使用してください。



(1) 運転席（シート）
(2) 小物入れ

作業装置の名称とはたらき

1. 植付クラッチレバー

植付部の**上昇・下降**、動力伝達の**入・切**、線引マーカのセットを操作するレバーです。
植付部操作

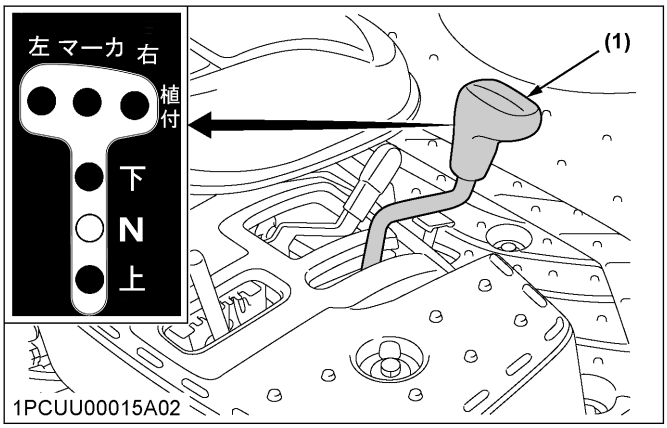
[上] … 植付部の駆動が停止し、上昇します。
[N]（中立） … 中立位置です。
[下] … 植付部が下降します。
[植付] … 植付部が駆動します。（ビークが回転し、苗のせ台が横送りします。）

補足：
- **植付部が最上昇すると、レバーは自動的に[N]（中立）位置に戻ります。**

重要：
- **エンジンを切った状態やブレーキをロックした状態で植付クラッチレバーは[N]（中立）位置から動かさないでください。[上]位置でも植付部は下降します。**

線引マーカ操作

[左] … 線引マーカが左側に倒れます。
[右] … 線引マーカが右側に倒れます。

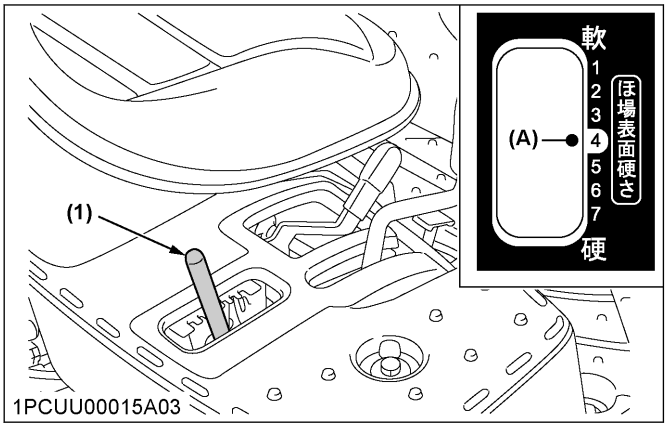


(1) 植付クラッチレバー

補足：
- **植付部を上昇させると線引マーカは自動的に収納されます。**

2. 油圧感度調節レバー

油圧感度調節レバーは、油圧の感度を変更するレバーです。ほ場の状態に合わせて 7 段階（1～7）の調節が行なえます。



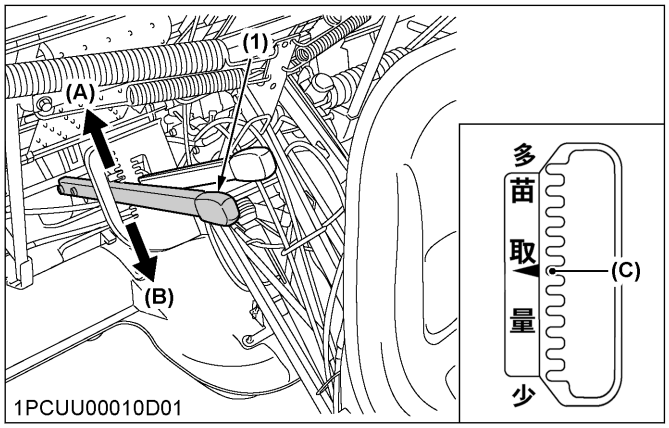
(1) 油圧感度調節レバー *(A)* 標準

補足：
- **出荷時は、[4]の位置です。**

- **油圧感度調節は、植付部の上下の動きに合わせてフロートが追従する感度を調節する装置です。ほ場の整地や泥押し状態を確認し、ほ場表面を最良の状態にするため、油圧感度調節レバーで調節を行なってください。（61 ページ参照）**

3. 植付本数調節レバー

苗の縦取り量を調節するレバーです。苗の状態や種類に合わせて 11 段階の調節が行なえます。

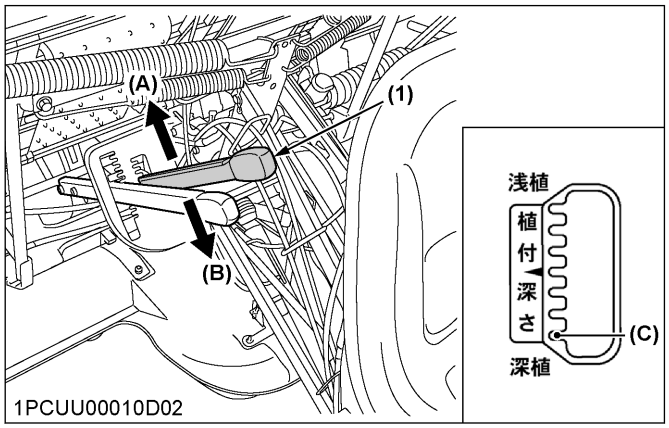


(1) 植付本数調節レバー
(A) 多い
(B) 少ない
(C) 標準位置（出荷位置）

補足：
- **標準位置および出荷時は、上[多]から 6 段目位置です。**

4. 植付深さ調節レバー

ほ場に適した苗の植付深さを調節するレバーです。苗の植付深さに合わせて 7 段階の調節が行なえます。

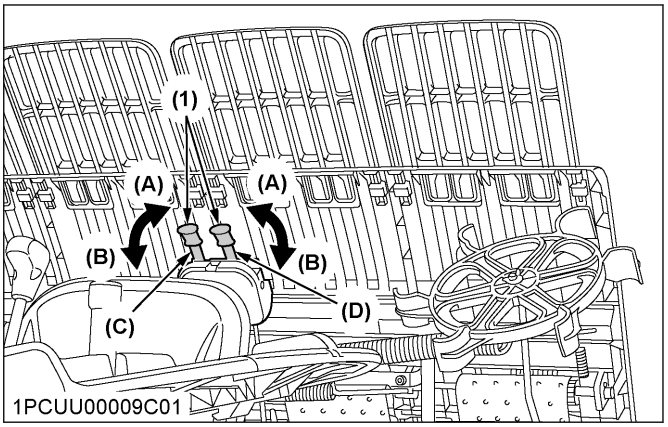


(1) 植付深さ調節レバー
(A) 浅い
(B) 深い
(C) 最深

補足：
- **出荷時は［最深］位置です。**

5. 条止めレバー

2 条ごとに苗の縦送りとビークの駆動を停止するレバーです。ほ場の形状にあわせて、必要なときに使用してください。



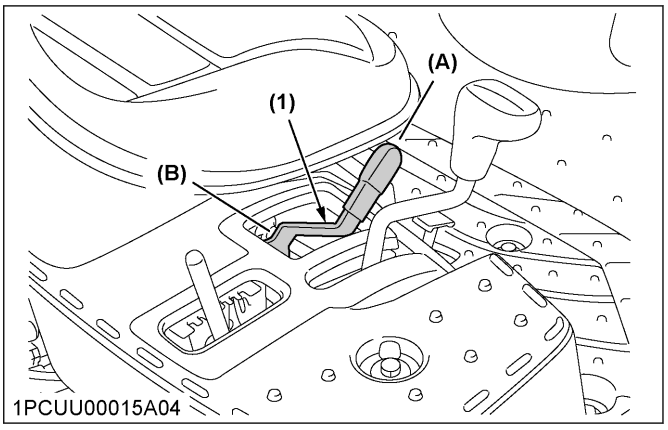
(1) 条止めレバー
(A) ***[入]***
(B) ***[切]***
(C) 右 2 条
(D) 左 2 条

重要：
- **以下の状態のとき、条止めレバーを操作すると、破損するおそれがあるため無理な操作をしないでください。**
  - **植付部が中間位置でレバーの操作できない場合**
  - **超深田のため、植付作業時にレバーが戻らない場合**

補足：
- **全条植えを行なうときは、必ずレバーを[入]位置にしてください。**

6. 油圧ロックレバー

植付部の下降防止を行なう油圧のロックレバーです。油圧ロックレバーを上げる（**[閉]**位置）と、エンジンが作動中に植付クラッチレバーを操作しても植付部は**下降⟷上昇**しません。解除するときは、油圧ロックレバーを下げて（**[開]**位置）ください。

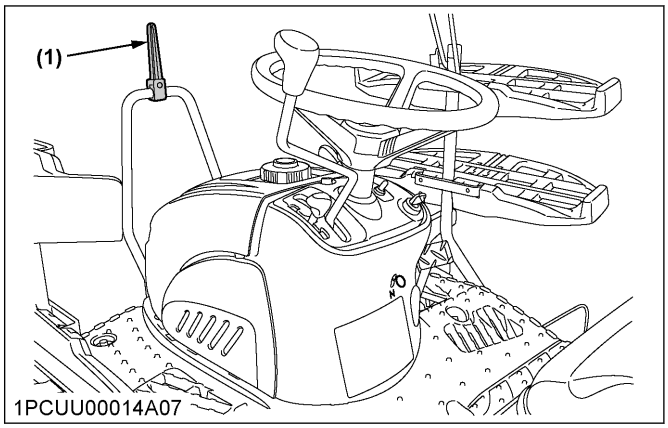


(1) 油圧ロックレバー
(A) ***[閉]***
(B) ***[開]***

補足：
- **油圧ロックレバーを操作するときは、上又は、下方向いっぱいまで操作してください。**

7. センターポール

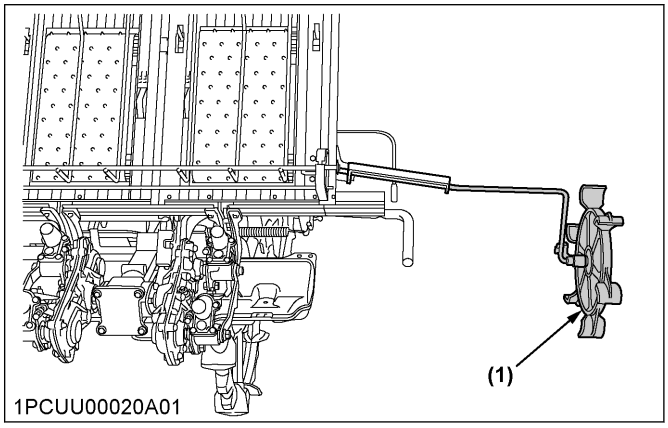
センターポールは、次行程の植付作業を行なうときに機体を直進方向に操作するため、線引マーカで引かれた線上に合わせる目印です。



(1) センターポール

8. 線引マーカ

線引マーカは、次行程の植付作業を行なうときに機体を直進方向に操作するため、ほ場面に目標となる目印の線を引きます。

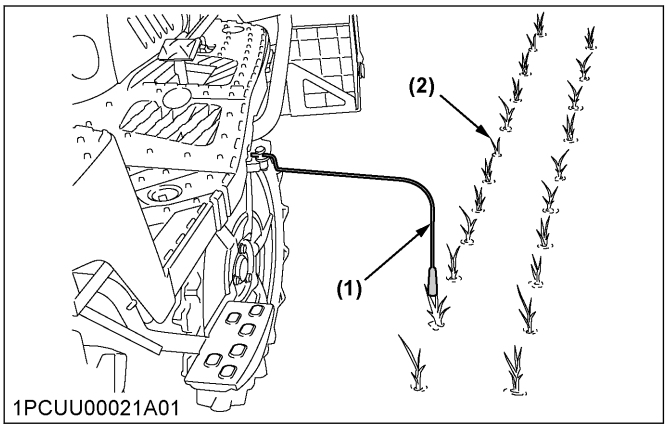


(1) 線引マーカ

補足：
- **線引マーカで線を引くと、適正な隣接条間が保てます。**
- **植付部を上昇させると線引マーカは自動的に収納されます。**

9. トレースマーカ

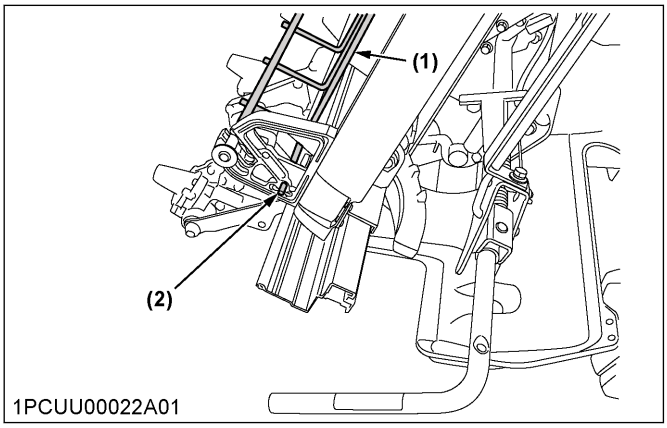
トレースマーカは、あぜぎわの植付け作業を行なうときや線引マーカで引かれた線が良く見えないとき、適正な隣接条間を保つため目印となります。
次行程の植始めに隣接する苗の真上にトレースマーカを合わせて、植付作業を行なってください。



(1) トレースマーカ
(2) 隣接苗

10. 苗押さえ・苗ホルダ

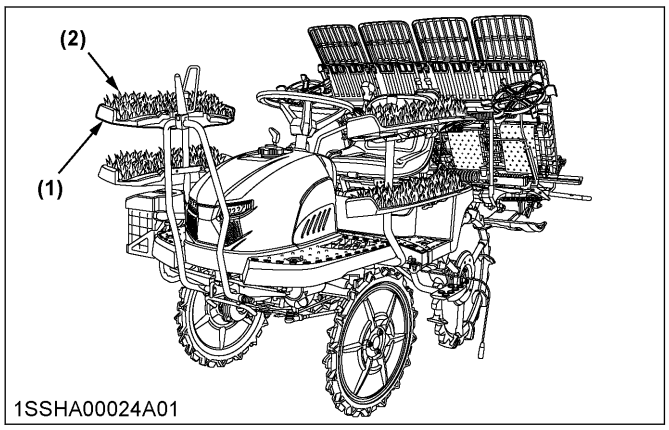
苗押さえは、薄くて軟弱な苗床や根張りの悪い苗床から、苗がくずれ落ちて発生する欠株を防ぎます。また、苗ホルダは、植付時の苗の倒れや欠株を防ぎます。



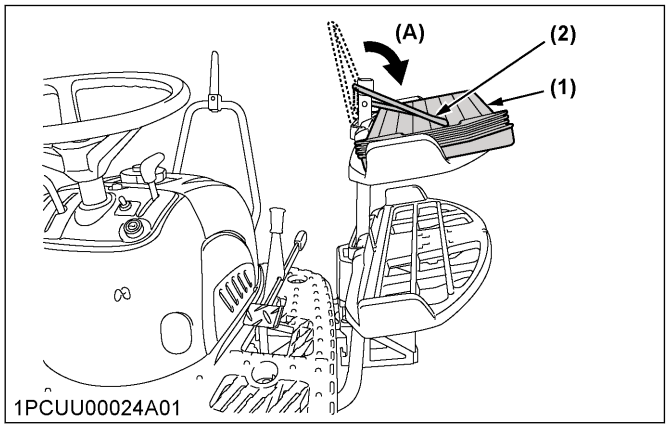
(1) 苗押さえ
(2) 苗ホルダ

11. 予備苗のせ台

予備苗を 4 枚載せることができます。
スクレーパの収納場所は右上段です。
スクレーパの押さえレバーで収納してください。



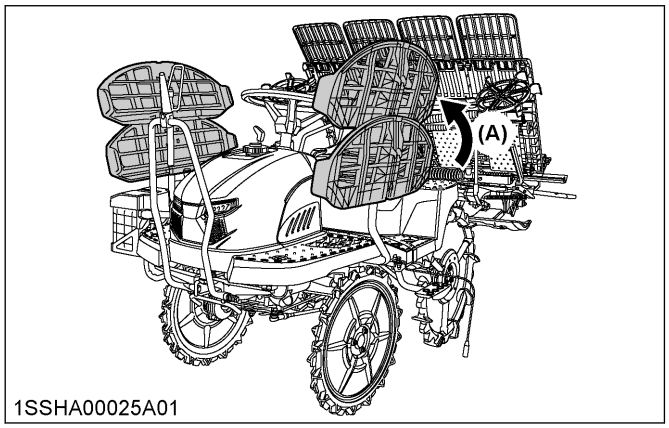
(1) 予備苗のせ台
(2) 予備苗



(1) スクレーパ
(2) スクレーパ押さえレバー
(A) 倒す

補足：

- **予備苗のせ台は、上側に収納（折りたたみ）することができます。納屋などに格納するときに収納してください。収納時に予備苗のせ台をフック部で止めてください。**



(A) 収納（折りたたみ）

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は、64 ページを参照。）

⚠ 警告

- **平たんな場所で駐車ブレーキを掛け、必ずエンジンを停止してから行なってください。**
- **燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。**
- **取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがあるので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。**
- **運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。**
- **燃料、オイルを補給したときは、キャップや給油栓を確実に締め、こぼれた燃料やオイルは、きれいにふき取ってください。**
- **バッテリ、マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。**

補足：
各部への給油と交換

- **点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、指定の［オイル・グリース］を必ず使用してください。**
- **燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **燃料のガソリンは１ヵ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内及びフィルタポット内のガソリンは抜取り、新しいガソリンを給油してください。**

前日の異常箇所
前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

田植機の周りを歩いて

- ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
- 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
- 油もれや水もれなどないか点検します。
- 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

1. 日常点検項目

<ここを> ⟶	<点検し異常があれば> ⟶	<こうする（処置）>	参照ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	• 損傷や変形はないか。	• 修理又は、交換する。	–
	• ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。	• 補充や増締めをする。	–
	• 油もれや水もれはないか。	• ホースやパイプの取付部の締付け又は、部品交換する。	77
	• ゴミや泥などがたまってないか。	• 掃除する。	65
	• 安全ラベル（⚠ マークのあるラベル）の損傷やはがれはないか。	• 新しいラベルに貼替える。	17
バッテリ	• 放電又は、劣化していないか。	• 充電又は、交換する。	86
タイヤ	• 摩耗や損傷はないか。	• 交換する。 • 調整する。	– 80
各ワイヤ、レバー支点部、しゅう動部	• たるみや損傷はないか。 • 作動状態に異常はないか。	• 交換する。 • 注油する。	– 66
ビーク・フォーク	• 摩耗や破損又は、変形していないか。	• 調整又は、交換する。	81、83
	• 石などの異物がはさまっていないか。	• 取除く。	56
燃料計	• 作業に必要な燃料はあるか。 • 表示は動くか。	• 自動車用無鉛ガソリンを補給する。	72
ボンネットを開けて			
エアクリーナ	• エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	• 掃除する。	76
エンジンオイル	• 油量は規定量（オイルゲージの**上限と下限の間**）あるか。	• 規定量まで補給する。 …三菱スーパーマルチ GD オイル又は、API 分類 SE 級以上	73
ホース、パイプ	• 油もれや水もれはないか。	• 取付部の締付け又は、交換する。	77
配線コード	• コネクタの外れはないか。 • 被覆の損傷はないか。	• 接続をする。 • 交換する。	89 –
運転席に座って・メインスイッチを入れて			
ヘッドランプ・ブザー	• ランプは点灯するか。	• バッテリの充電又は、交換する。	86
	• ブザーは鳴るか。	• ランプ切れ、ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して交換又は、接続をする。	89、89
バッテリ	• エンジンは始動するか。	• 充電又は、交換する。	86
エンジンを始動して・機体を動かしてみて			
エンジン・マフラ	• 始動するか。 • 異音はしないか。 • 排気ガスの色に異常はないか。	• バッテリの充電又は、交換する。 • ヒューズ切れがないか点検して交換又は、購入先に連絡してください。 • 購入先に連絡してください。	–
各操作レバー	• 各操作レバーの作動と各作動部に異常はないか。	• 購入先に連絡してください。	–
ブレーキペダル	• 踏込むと停止するか。	• 購入先に連絡してください。	26

重要：
- **外観に亀裂や破損個所がある場合は、購入先又は整備工場にご相談ください。**
- **処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡してください。**

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる田植作業は避けてください。
田植機の性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

1. ならし運転について

- 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- 寒い日や冬期、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
- エンジンは規定田植作業回転数以上に回さないでください。
- 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

⚠ 警告

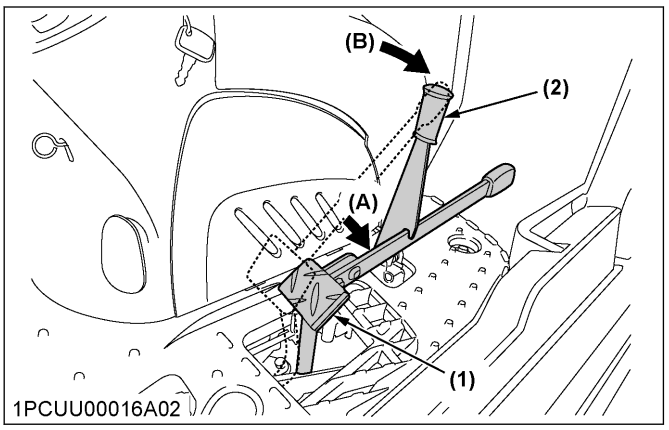
- **エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。**
- **この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。**
- **田植機に貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **田植機に乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。**
- **周囲の人に始動の合図をして、始動操作は運転座席に必ず座ってから行なってください。**
- **運転席へ乗り降りするときは、必ず両側のステップより行なってください。転倒してケガをするおそれがあります。**

1. 始動のしかた

⚠ 注意

- **セル始動の場合、エンジンの始動は必ず運転席（シート）に座って行なってください。**

1. **駐車ブレーキを掛けます。**
   ブレーキペダルを踏込み、ブレーキロックレバーでブレーキペダルをロックします。

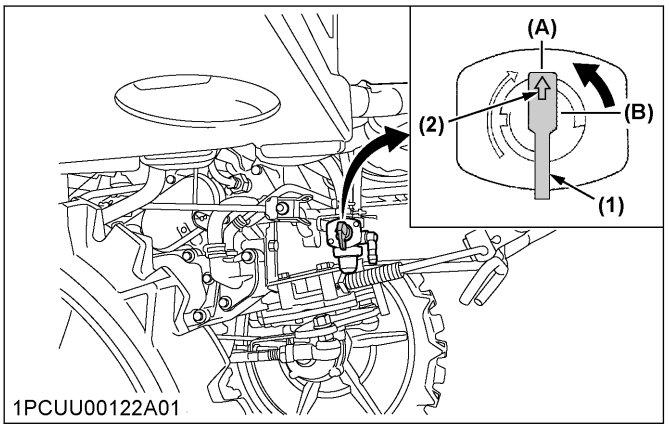


(1) ブレーキペダル　*(A)* 踏込む
(2) ブレーキロックレバー　*(B)* 掛ける

補足：

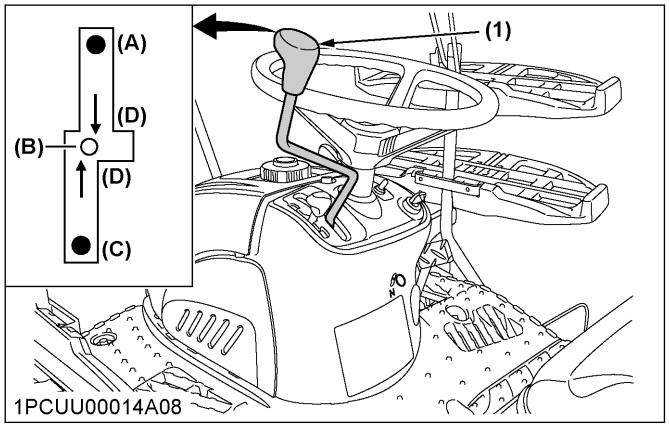
- **駐車ブレーキを掛けていないときは、ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンが始動しません。**

2. **燃料コックを開きます。**
   機体の前方右下（ステップの右下）にある燃料コックレバーの矢印を**[運転]**位置に合わせます。



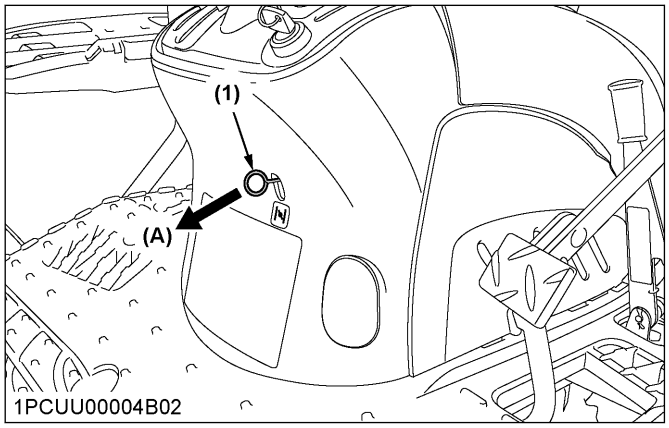
(1) 燃料コックレバー　*(A)* ***[運転]***
(2) 矢印　*(B)* ***[停止]***

3. **各レバー位置の確認をします。**
   a. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



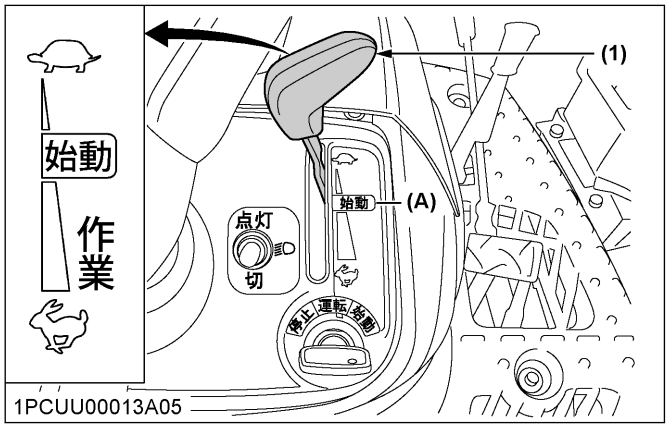
(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[後進]***
(D) 戻る

4. **エンジンを始動します。**
   a. チョークレバーを引きます。



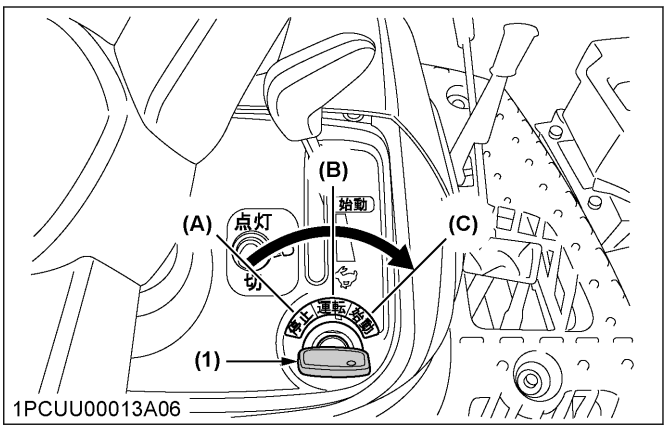
(1) チョークレバー *(A)* 引く

   b. アクセルレバーを操作して**[始動]**位置に合わせます。



(1) アクセルレバー *(A)* ***[始動]***

   c. メインスイッチのキーを**[始動]**位置まで回します。



(1) キースイッチ
(A) ***[停止]***
(B) ***[運転]***
(C) ***[始動]***

補足：
- **暖機運転をじゅうぶん行なわないと、主変速レバーを[前進]側または[後進]側に操作したときに、エンジンが停止することがあります。**
- **メインスイッチのキーを[始動]位置に回して 5 秒たっても始動しないときは、いったんキーを[停止]位置にして、30 秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。5 秒以上の使用は故障の原因になります。**
- **エンジン回転中に、メインスイッチのキーを[始動]位置に回すと故障の原因になります。**

エンジン始動後、エンジンの調子を確認しながらゆっくりとチョークレバーを押込んだあと、約 5 分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重要：
- **オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。**

2. バッテリが上がったときの始動のしかた

危険
- **バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、(+) 端子と (-) 端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上がりによりセル始動でエンジンが始動できなくなったときは、バッテリの補充電又は、交換を行なってください。

3. 停止のしかた

1. アクセルレバーを［🐢］位置にします。

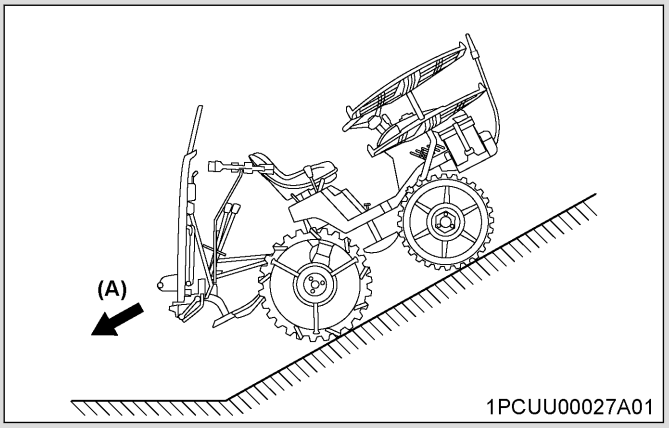
2. 主変速レバーが**[N]**（中立）位置にあることを確認します。
3. メインスイッチのキーを**[停止]**位置にしてエンジンを停止します。

重要：
- **エンジン停止中でメインスイッチのキーが[運転]位置の状態のまま長時間放置するとバッテリ上がりの原因となります。**
- **エンジン停止時の爆発音を防ぐため、必ずアクセルレバー［🚗］位置に戻してからエンジンを停止してください。**

移動走行について

この田植機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。従って、公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

⚠ 警告
- **安全のためヘルメットを着用してください。**
- **周りが暗いときは、ヘッドランプを点灯してください。**
- **10 cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。**
- **機械には運転者以外は乗らないでください。また、苗のせ台及び予備苗のせ台の苗やホッパ内の肥料［R：粒状施肥機仕様］は取出し、ステップなどには障害物となるような物は置かないでください。**
- **植付部は上昇位置で油圧をロックし下降防止を行なってください。また、線引マーカ・トレースマーカ・センターポール・AZ(アゼ)アームは収納状態にしてください。**
- **暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので、あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは、下記事項に注意し、予備苗のせ台を中央位置にしてください。**
  - **走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）**
  - **主変速レバーで走行と停止を行なう。（ブレーキペダルは操作しない。）**
  - **あぜや斜面に対して直角に走行する。**
  - **あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行し、前輪デフロックペダルを踏込む。**
  - **あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。**
- **下記のようなところを走行するときは、暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので注意してください。**
  - **両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩**
  - **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
  - **路肩の弱い道路**
  - **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**
  - **左又は、右に 15 度以上傾斜しているところ**
- **機械から降りて走行するときは、下記事項に注意してください。**
  - **主変速レバーを最低速で操作し、周囲の安全や足元に注意しながら走行してください。**
  - **傾斜地では、副変速レバーを絶対に操作しないでください。副変速レバーを[N]（中立）位置にするとブレーキが効かずに、機械が自重で動き出し、急降下します。**



(A) 急降下

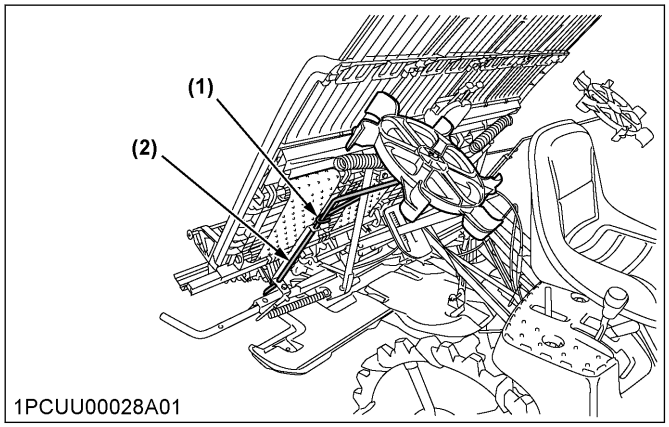
重要：
- **植付部を下降した状態で走行すると、フロートや作溝器が破損することがあります。**
- **苗押さえは、後方に倒れないようにラックの取付部に取付けてください。**

1. 移動走行前の準備

⚠ 警告
- **苗のせ台及び予備苗のせ台にある苗やスクレーパは、すべて降ろしてください。**
- **ステップの周りに物は置かないでください。**
- **水平で平たんな場所で行なってください。**

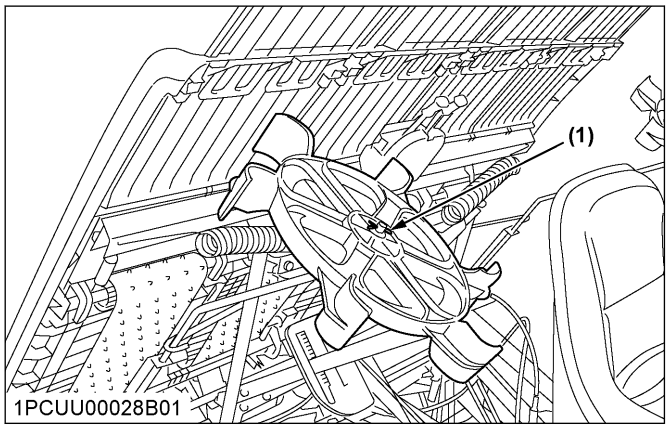
1. 平たんな場所に機体を止め、エンジンを停止します。

2. 左、右の線引マーカをフックに引っ掛けて固定します。



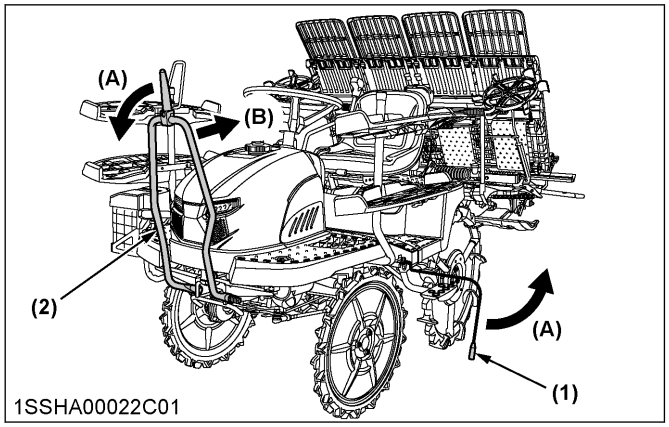
(1) 固定フック
(2) 線引マーカ

3. マーカを取外すときはベータピンを外してください。



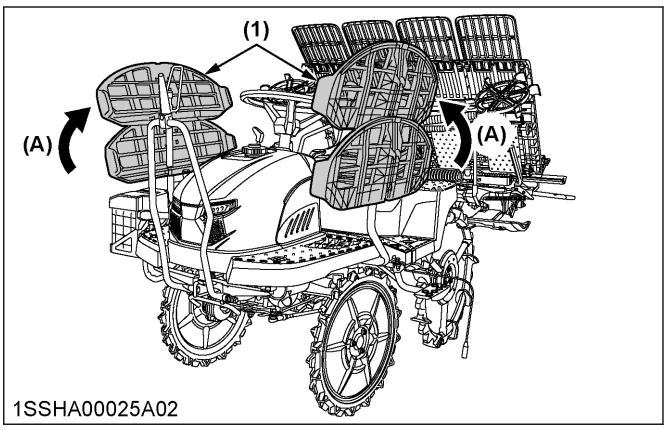
(1) ベータピン

4. 左、右のトレースマーカを後方に収納します。
5. センターポールを収納したあと、AZ(アゼ)アームをボンネット側に倒します。



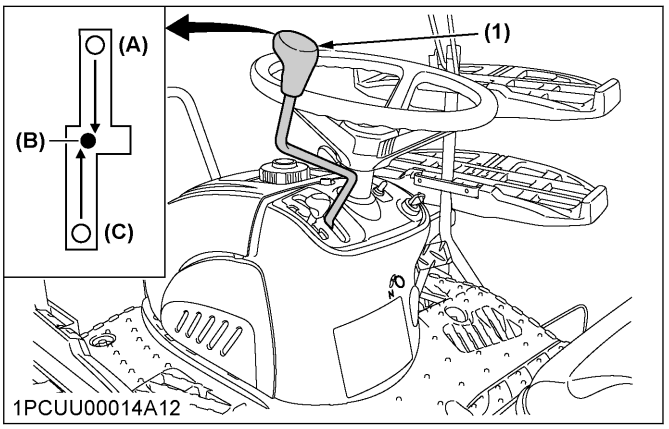
(1) トレースマーカ
(2) AZ(アゼ)アーム
(A) 収納
(B) 倒す

6. 予備苗のせ台を収納状態にします。（49 ページ参照）



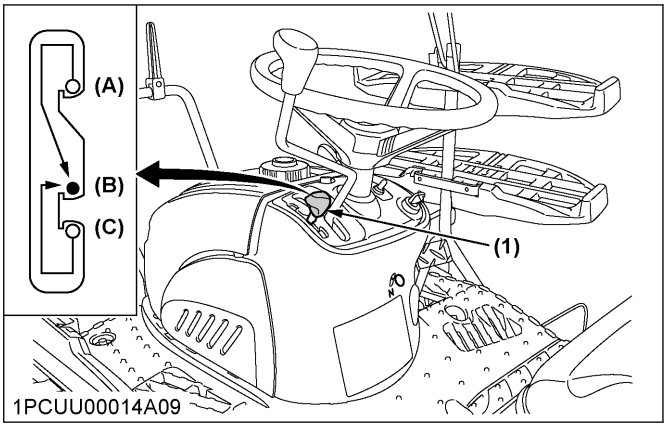
(1) 予備苗のせ台
(A) 収納

7. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



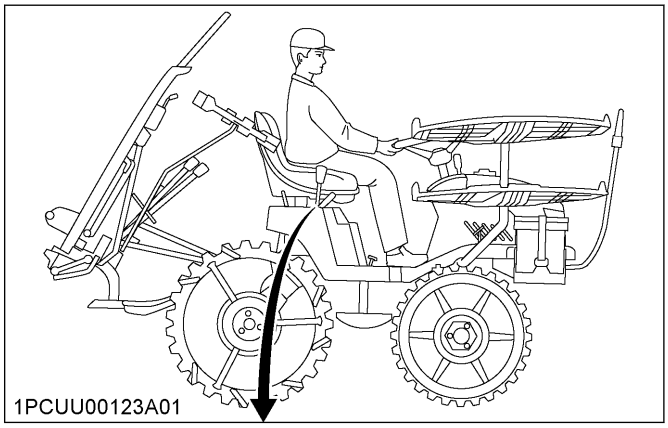
(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***
(C) ***[後進]***

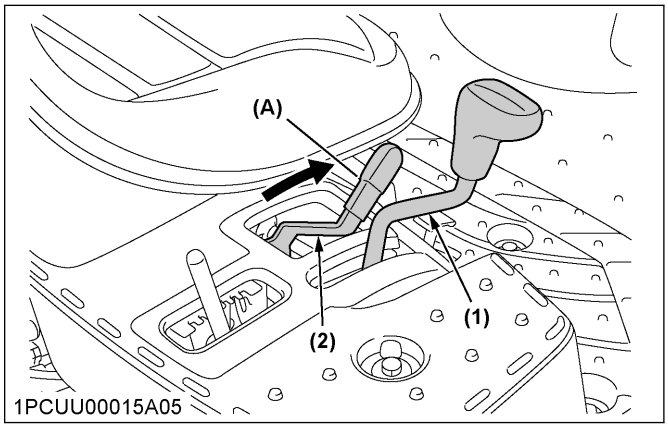
8. 副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



(1) 副変速レバー
(A) ***[移動]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[圃場作業]***

9. エンジン始動後、駐車ブレーキを解除して植付クラッチレバーを操作し、植付部のリンク部を地面と平行となる位置にしたあと、植付クラッチレバーを**[N]**（中立）位置にしてください。その後、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして油圧をロックし、植付部の下降防止をします。



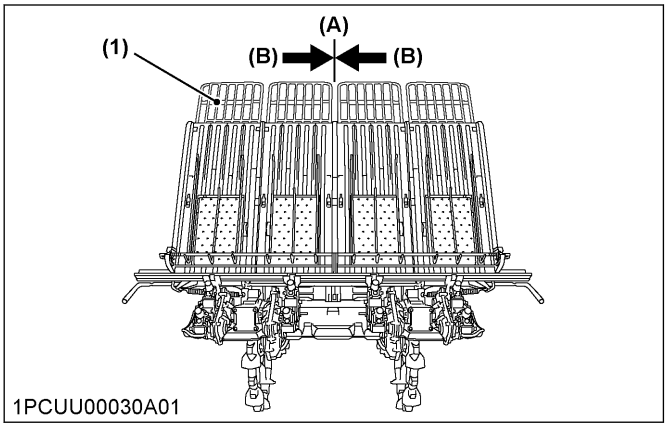


(1) 植付クラッチレバー
(2) 油圧ロックレバー
(A) ***[閉]***

補足：

- **駐車ブレーキを掛けた状態又は、ブレーキペダルを踏み込んだ状態では、植付部は上昇しません。**
- **油圧ロックレバーは植付クラッチレバーが[N]（中立）位置で操作してください。**

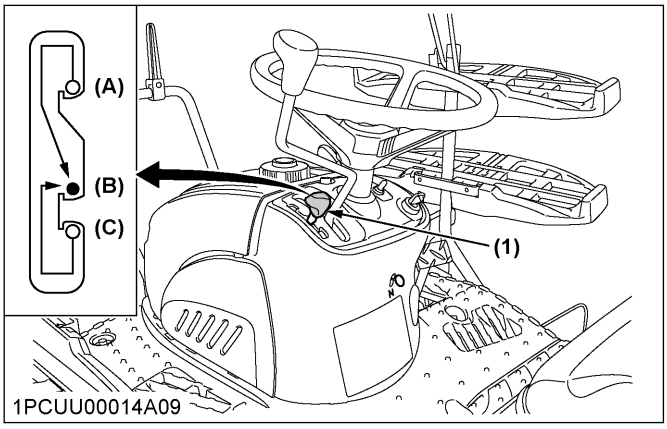
10. 苗のせ台を機体中央の位置に移動します。



(1) 苗のせ台
(A) 中央
(B) 寄せる

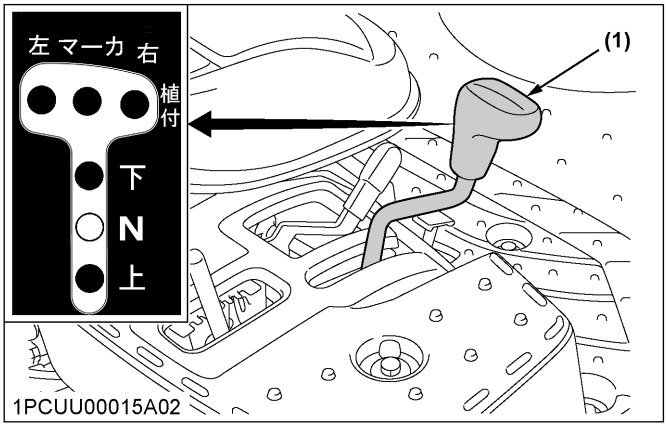
補足：

- **左、右のバランスを保つために中央に寄せてください。**
  a. 駐車ブレーキを解除して副変速レバーを[N]（中立）位置にします。



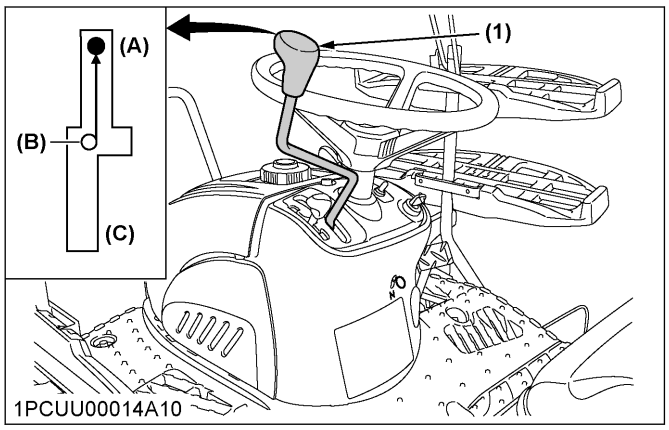
(1) 副変速レバー
(A) ***[移動]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[圃場作業]***

b. 植付クラッチレバーを[植付]位置にします。



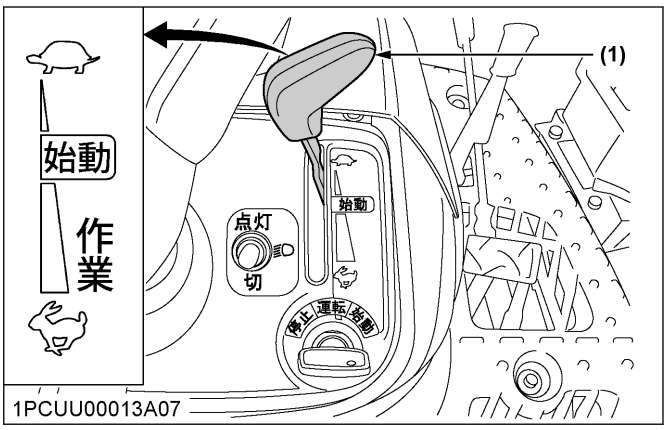
(1) 植付クラッチレバー

c. 主変速レバーをゆっくり[前進]側に動かします。



(1) 主変速レバー

(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***
(C) ***[後進]***



(1) アクセルレバー

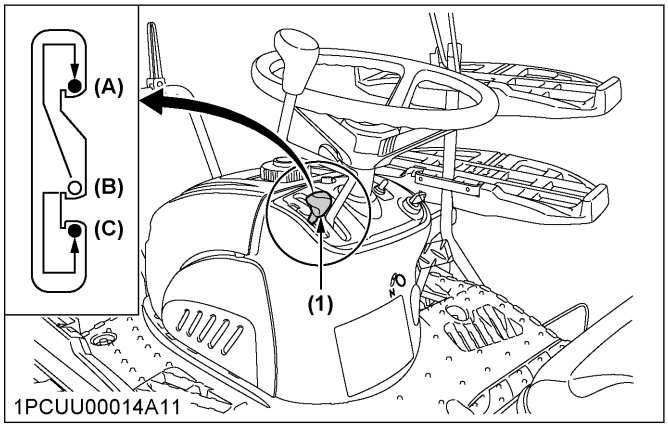
d. 後方の苗のせ台の動きを確認しながら、機体中央の位置で植付クラッチレバーを[下]（下降）位置にして植付部の駆動を停止します。
e. 主変速レバーを[N]（中立）位置に戻します。
f. 駐車ブレーキを掛けます。

2. 発進のしかた

⚠ 警告
- **始動操作は、運転席で必ず行なってください。**
- **周囲の人に合図をしてから始動してください。**
- **急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。**
- **坂道など傾斜地で発進するとき、副変速レバーを操作するときはブレーキペダルを必ず踏込んでください。機体が動き出して急降下するおそれがあります。**
- **ブレーキペダルを踏込んだあと、再発進するときは主変速レバーを[N]（中立）位置にいったん戻してください。**

1. **運転席の調整をします。**
   運転席下のスナップピンとロッドを抜いて調整します。（27 ページ参照）
2. **エンジンを始動します。**
   （35 ページ参照）
3. **アクセルレバーを操作します。**

4. **走行速度を選んで発進します。**
   a. 副変速レバーで速度を選びます。

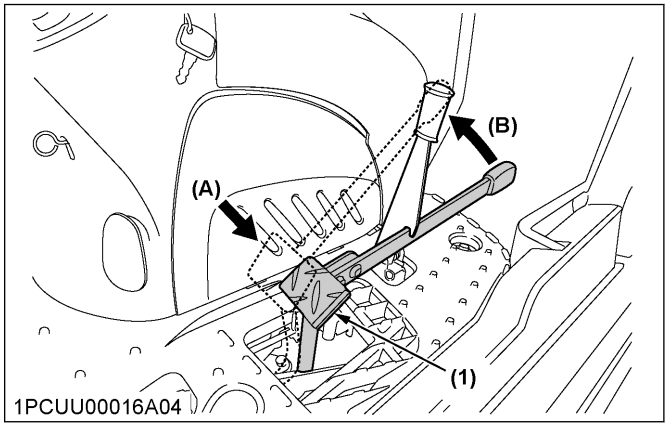


(1) 副変速レバー

(A) ***[移動]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[圃場作業]***

重要：
- **副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを[N]（中立）位置にし、走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。**

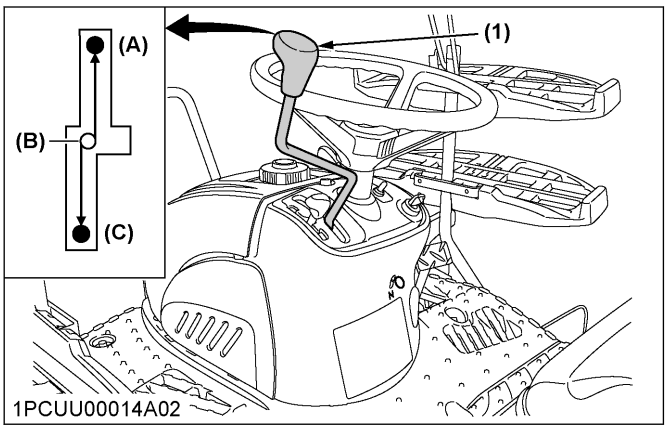
   b. ブレーキペダルを離します。駐車ブレーキが掛かっているときは、ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。



(1) ブレーキペダル

(A) 踏込む
(B) 解除

   c. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置より前に押すと前進し、後に引くと後進します。



(1) 主変速レバー

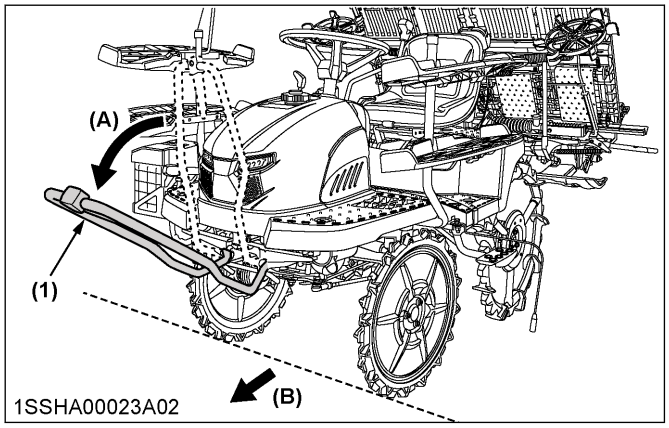
(A) ***[前進]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[後進]***

補足：
- **植付部が上昇していることを確認してください。**

3. 降りて走行のしかた

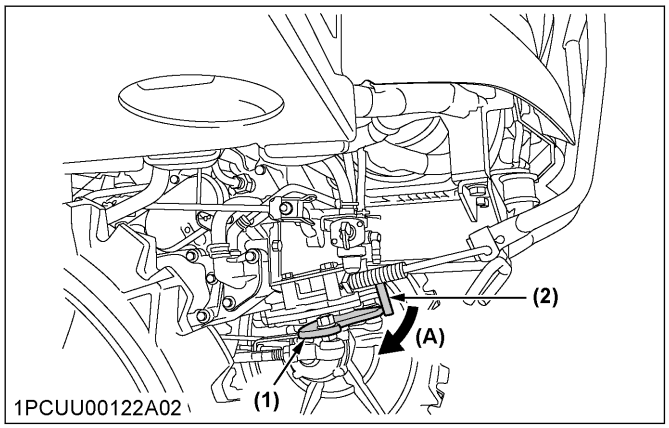
1. 乗って走行したあと、機械を平たん地で停止させます。
2. アクセルレバーを 位置、副変速レバーを**[圃場作業]**位置にします。
3. 主変速レバーが**[N]**（中立）位置にあることを確認したあと、駐車ブレーキを解除します。
4. 植付部が最上昇位置にあることを確認します。

5. 機械から降りて AZ(アゼ)アームを前方いっぱいに倒し、前輪を直進方向に保持するため次のことを確認します。
   a. ステアリングハンドルを操作して前輪を直進方向にします。
   b. AZ(アゼ)アームを前方いっぱいまで倒します。



(1) *AZ(アゼ)アーム*
(A) 倒す
(B) 前輪タイヤを直進方向で保持

補足：
- **AZ(アゼ)アーム取付部付近にあるロックピンが、ピットマンアームにはまり込んでいるか確認します。はまり込んでいないときは、ステアリングハンドルを回してはめ込んでください。**



(1) ピットマンアーム
(2) ロックピン
(A) *AZ(アゼ)アームを倒してはめ込む*

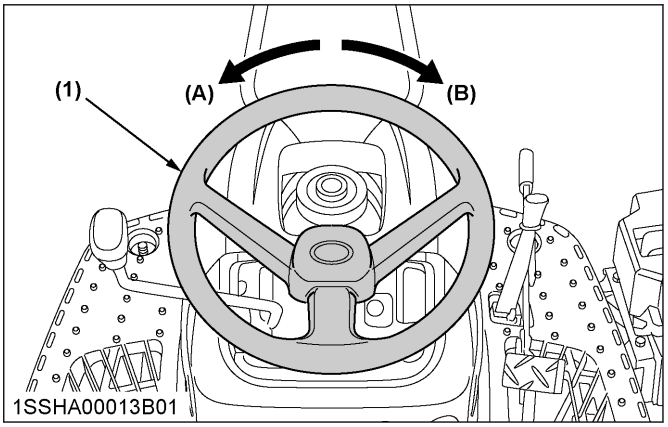
6. AZ(アゼ)アームを前方いっぱいに倒した状態で周囲を確認しながら主変速レバーを操作して走行します。

重要：
- **AZ(アゼ)アームを押さえた状態でハンドルを回さないでください。ロックピン破損の原因となります。**

4. 旋回のしかた

⚠ 警告
- **高速走行時、ハンドルを急に操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。**

旋回する方向にハンドルを回します。回す角度に応じて旋回力が変わり、回す角度が大きいほど旋回半径が小さくなります。



(1) ハンドル
(A) 左旋回
(B) 右旋回

重要：
- **砂利道での急旋回は、前輪が早く摩耗しますので避けてください。**

5. 停車・駐車のしかた

⚠ 警告
- **田植機を離れるときは、平たんで安全な場所に置き、植付部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めて、キーを抜いてください。**
- **走行を停止するときは、ブレーキペダルを踏込まず主変速レバーを操作して停止してください。**
- **坂道で駐車するときは、ブレーキペダルを踏込み、副変速レバーを[圃場作業]または[移動]位置にし、駐車ブレーキレバーを掛け、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。**

1. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
2. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置または、**[移動]**位置にします。
3. 停止するときはブレーキペダルを踏込み、駐車するときは駐車ブレーキを掛けます。
4. アクセルレバーを［🐢］位置にします。
5. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

輸送について

1. トラックとあゆみ板の準備

⚠ 警告

- **積込み・積降ろしは平たん地を選び、トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。**
- **あゆみ板はフックが付いているもので、じゅうぶんな強度、幅（30 cm 以上）、長さ（高さの 5 倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し、田植機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**
- **あゆみ板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。**

あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの 5 倍以上
幅	30 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 250 kg 以上の重量に耐えうる

2. トラックへ積込み時の田植機の準備

1. 苗のせ台及び予備苗のせ台の苗やスクレーパはすべて降ろします。
2. 施肥機付きの場合は、肥料をすべて排出します。
3. 線引マーカ・トレースマーカ・センターポール・AZ(アゼ)アーム・予備苗のせ台を収納します。
4. 苗のせ台を機体中央位置に移動します。
5. 植付部を上げて最上昇位置にし、油圧ロックして下降防止を行ないます。
6. トラックのあおりに接触しないように、延長エプロンおよび左、右のエプロンガードを収納状態にします。（90 ページ参照）

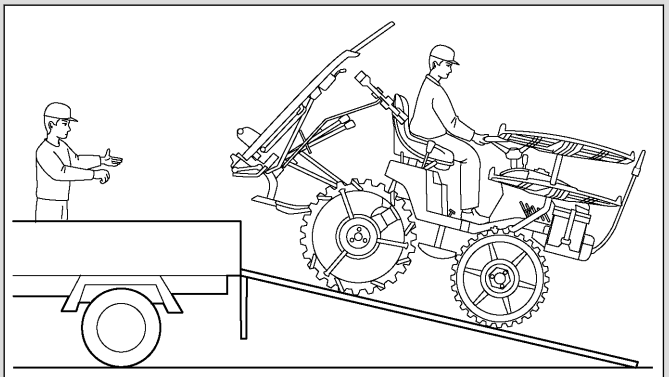
補足：

- **トラックから降ろしたあと、田植作業を行なうときは、エプロン及びエプロンガードを作業状態に戻してください。**
- **エプロンを作業状態に戻すときは泥をきれいにふき取って、エプロンに段差やすき間が出来ないように締付けてください。**

3. トラックへの積込み･積降ろしのしかた

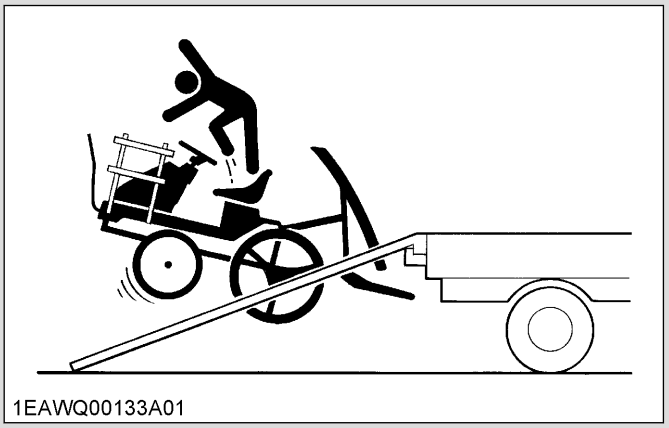
⚠ 警告

- **積込みは後進、積降ろしは前進で、エンジン回転を[始動]位置にして低速で走行してください。**
- **共同作業者は、あゆみ板上を走行中の田植機からは離れてください。**
- **平たん地を選び、できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なってください。また、田植機の周辺に人を近づけないでください。**



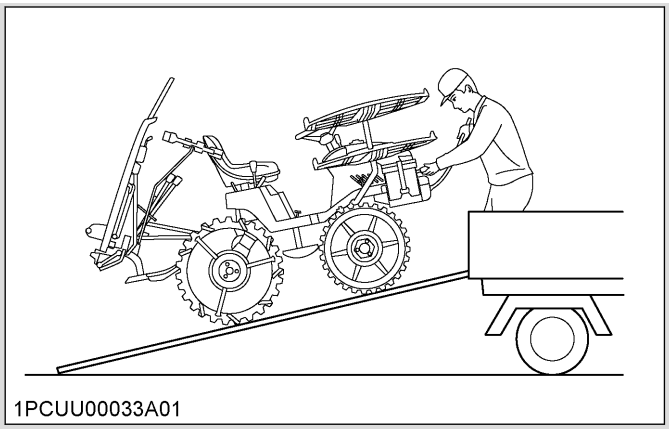
1PCUU00032A01

- **あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作をすると、機械が急降下したりあゆみ板から脱輪して落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。**

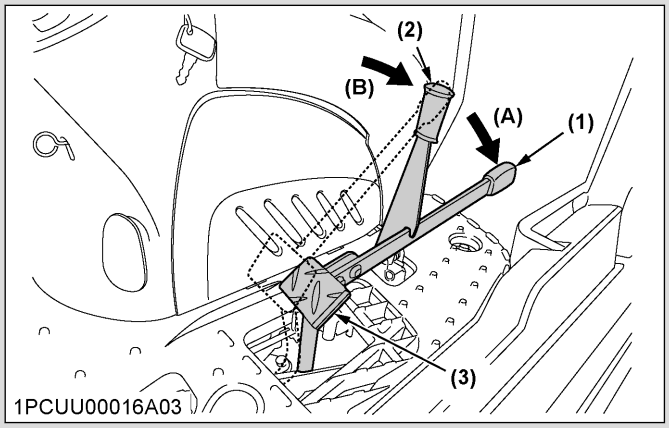


1EAWQ00133A01

- **機械から降りて、積込み・積降ろし作業を行なう場合は下記事項に注意してください。**
  - **AZ(アゼ)アーム、AZ(アゼ)レバーを必ず使用して走行してください。**
  - **アクセルレバーを［🚗］位置にし、副変速レバーを[圃場作業]位置、主変速レバーを[N]（中立）位置にしてください。（41 ページ参照）**
  - **周囲の安全や足元に注意しながら走行してください。**
  - **走行する際、積込みは前進で、積降ろしは後進で行なってください。**


1PCUU00033A01

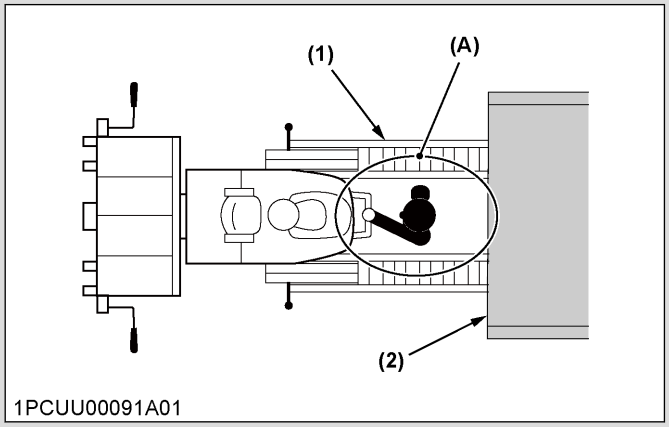
- **あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作をしないでください。機械が急に降下し落下する危険があります。**
- **方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。**



1PCUU00016A03

(1) *AZ(アゼ)レバー*
(2) ブレーキロックレバー
(3) ブレーキペダル
(A) 下げる
(B) ロック

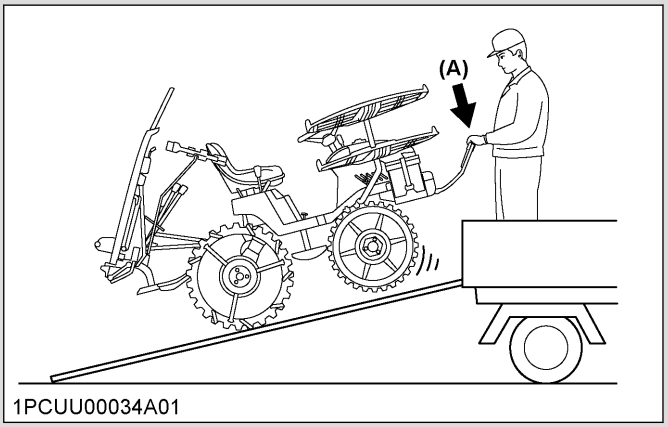
- **積込むときは、あゆみ板の間に入らないでください。機械とトラックにはさまれ、ケガをするおそれがあります。**



1PCUU00091A01

(1) あゆみ板
(2) トラック荷台
(A) ここには入らないこと

- **トラックへの積込み・積降ろしの時、前輪が浮き上がるときは、AZ(アゼ)アームを押さえ、浮き上がりを防止してください。**
- **AZ(アゼ)アームに力を入れるときは、足元にじゅうぶん注意してください。**



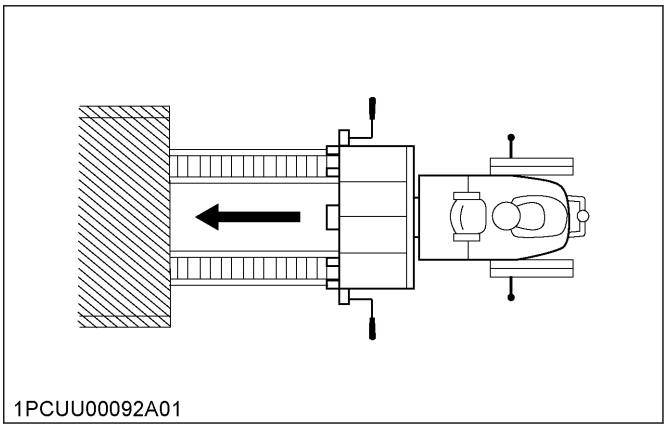
1PCUU00034A01

(A) 押さえる

- **積込むときは、トラックのキャビンに AZ(アゼ)アームがあたらないように収納位置に戻してください。**

4. 乗車走行をする場合

1. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にし、積込みするときは**[後進]**側に、積降ろしするときは**[前進]**側に主変速レバーをゆっくり操作して、低速で走行します。
2. あゆみ板の前でいったん停止し、あゆみ板の中央に左、右の前輪と後輪の中心を合わせ、あゆみ板と平行になっているか確認してから前輪デフロックペダルを踏込み、斜面に対して直角に積込み・積降ろしをしてください。

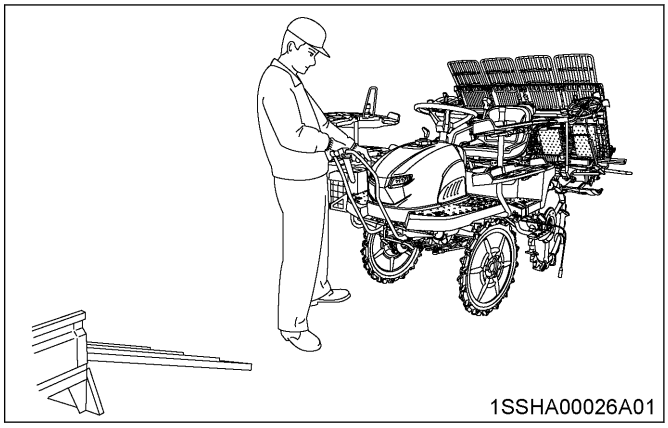

1PCUU00092A01

3. 荷台に乗り終わると駐車ブレーキを掛けて、走行を停止します。

5. 降りて走行をする場合

1. 乗って走行したあと、機械をあゆみ板の前でいったん停止します。
2. 植付部を最上昇位置にします。
3. 駐車ブレーキを掛けたあと、機械から降ります。

4. アクセルレバーを 位置にし、副変速レバーを**[圃場作業]**位置、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
5. 駐車ブレーキを解除したあと、あゆみ板の中央に左、右の前輪と後輪の中心を合わせ、あゆみ板と平行になっているか確認してから機械右前方（AZ(アゼ)レバー側）に立ちます。
6. AZ(アゼ)アームを前方に倒し、アームを持ちながらAZ(アゼ)レバーのロックを解除して右側のあゆみ板を渡ります。

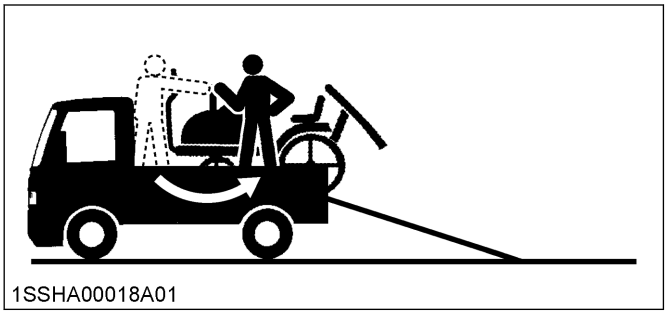

1SSHA00026A01

7. 荷台への積込みが終わると主変速レバー**[N]**（中立）位置にして走行を停止します。
8. エンジンを停止したあと、AZ(アゼ)アームを収納します。

補足：
- **荷台から積降ろしを行なうときは、積込みの逆の作業手順で行なってください。**

6. 軽四トラックに積込みをする場合

1. **降りて走行をする場合**の手順１、２を行ないます。降りて必ず操作してください。
2. 駐車ブレーキを解除したあと、植付部を最上昇位置にし、主変速レバーを**[N]（中立）**位置にして機械から降ります。
3. 軽四トラックに積込むときは、機械左前方に立って、主変速レバーをゆっくり前進側に操作してください。
4. 機械とキャビンの間に挟まれるおそれがあるため、機械の後輪が荷台上に載ったとき、いったん停止し、機械の左側中央に回って、主変速レバーをゆっくり前進側に操作して前方に寄せてください。

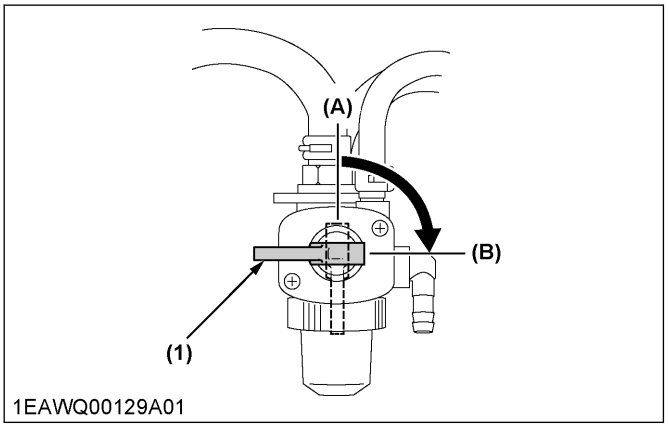

1SSHA00018A01

5. **降りて走行をする場合**の手順６、７を行ないます。

7. トラック上での処置

警告
- **駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。**

1. エンジンを停止します。
2. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にします。
3. 燃料コックを閉じ（**[停止]**位置）ます。

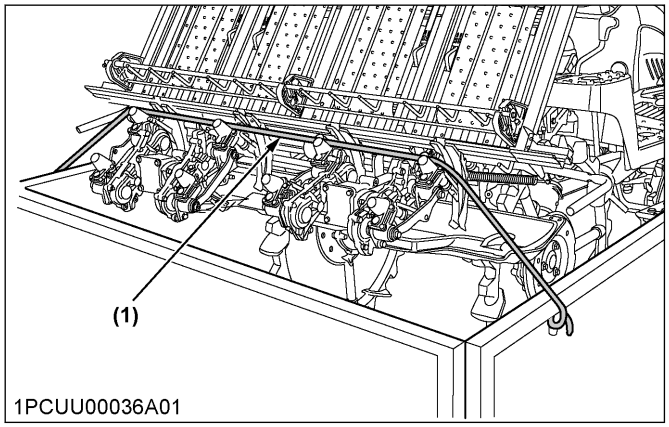


1EAWQ00129A01

(1) 燃料コックレバー
(A) ***[運転]***
(B) ***[停止]***

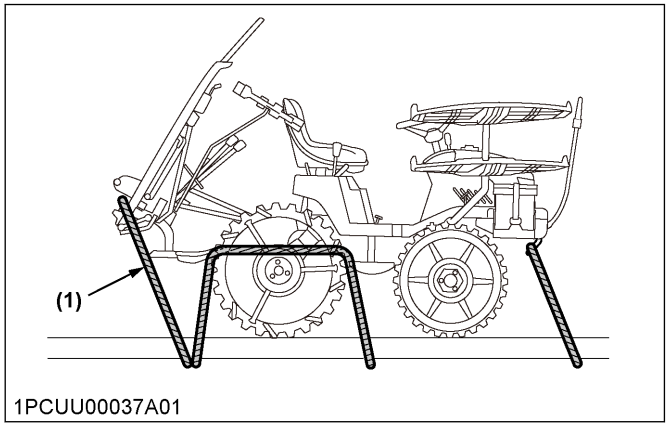
補足：
- **トラック輸送時に燃料もれの原因になります。**

4. 植付部を最上昇位置にし、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして、植付部の下降防止を行なって植付部がバウンドしないように、軽くロープ掛けします。

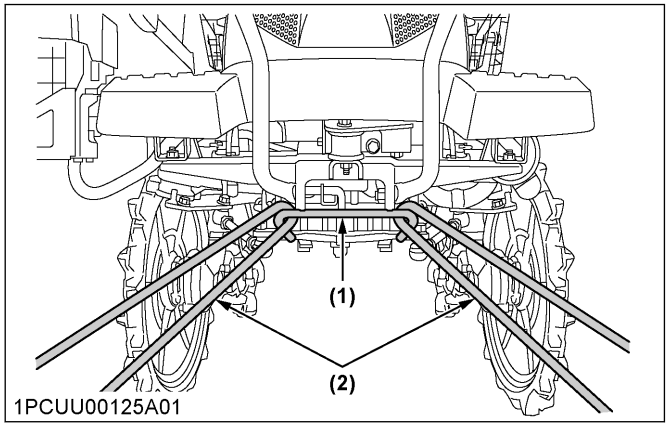


(1) ロープ

5. 車輪にロープを掛けて固定します。



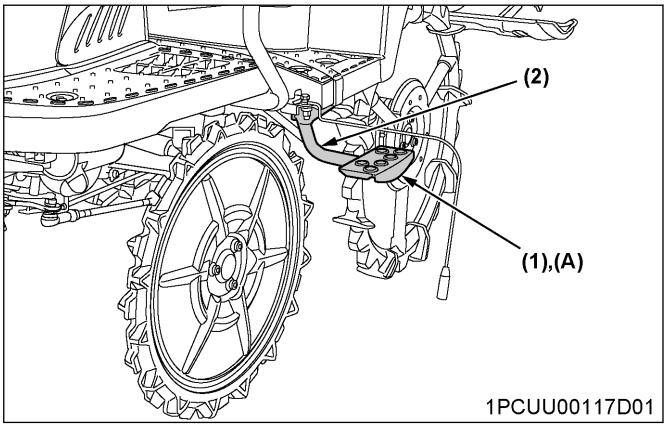
(1) ロープ



(1) けん引フック
(2) ロープ

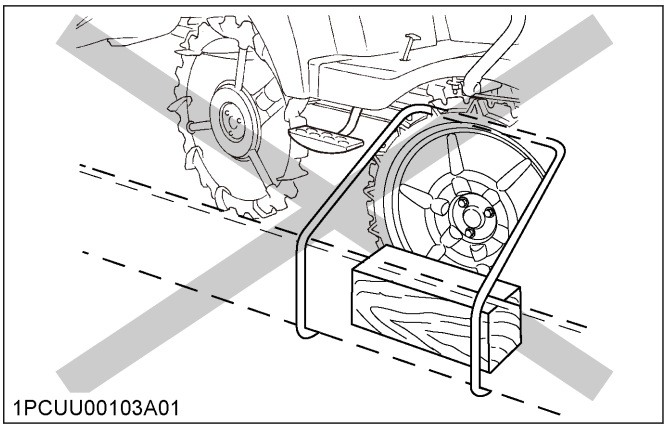
重要：

- **機体前部にロープを掛けるときは、けん引フックに必ず掛けてください。また、予備苗押さえにはロープを絶対に掛けないでください。予備苗押さえが破損します。**
- **エプロンガードにはロープを絶対に掛けないでください。エプロンガードが破損します。**
- **左右補助ステップのフレームにはロープを絶対に掛けないでください。左右補助ステップのフレームが破損します。**
- **フロートをあおり板の上に乗せた状態で移動すると、植付機構部品が破損するおそれがあります。**



(1) 補助ステップ
(2) フレーム
(A) ロープ掛け禁止

- **前輪に後輪と同様のロープがけをやむをえず行なう場合は，前輪とあおり板の間に荷物などをはさまないでください。前輪が変形することがあります。**



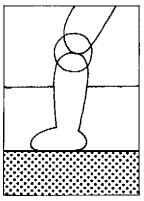
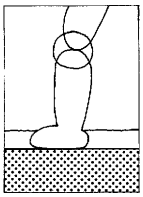
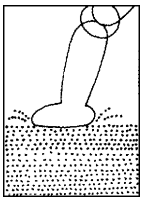
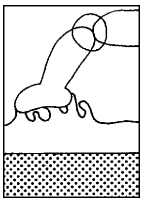
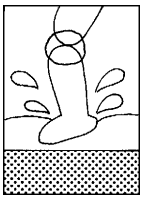
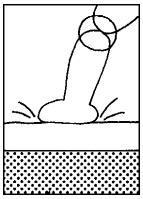
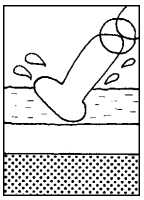
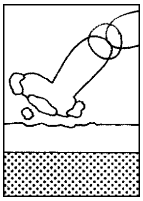
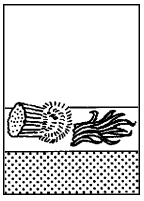
田植作業のしかた

ほ場と苗の条件

ほ場の条件、苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

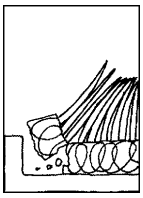
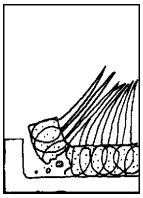
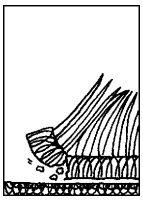
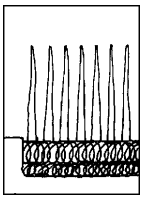
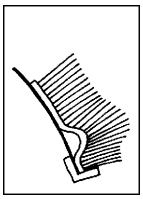
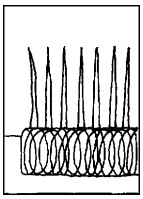
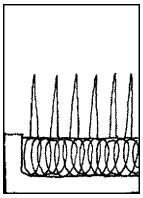
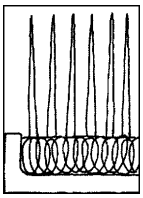
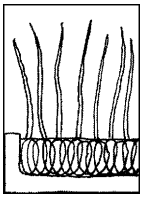
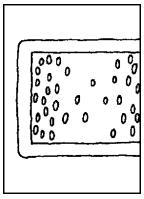
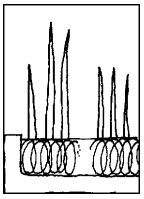
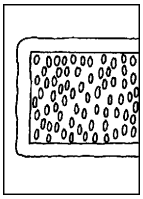
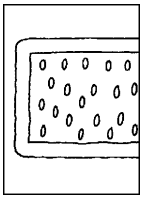
1. ほ場条件

ほ場づくりは、作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので、最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）や経験者に相談して、作物に適したほ場づくりをしてください。

項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
深さ	 • 耕盤までの深さが 30 cm 以上ある深いほ場。	 • 耕盤までの深さが 10 cm 以下の浅いほ場。
土質	 • 砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場）。	 • 強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）。
硬さ	 • 代かき直後のほ場、又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。	 • 代かき後、日数がたって硬くなったほ場、又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。
水深	 • 水深の平均が 3 cm を越える水の多いほ場。	 • 水気がなく、車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 • 裏作跡などで、刈り株・排わら又は雑草がじゅうぶん腐らず、代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

2. 苗条件

苗づくりは、各地の指導指針や最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）の指導を仰いだり、経験者に相談して、良い苗（健苗）づくりを行なってください。

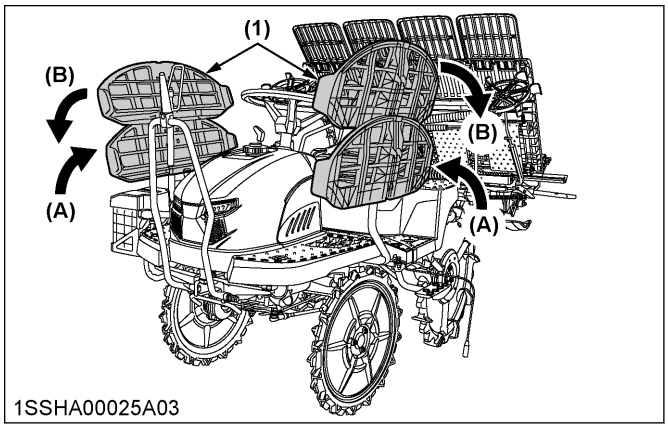
項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
苗床	 • 砂質が多く、苗床が崩れやすい苗。	 • 根張りが悪く、苗床が崩れやすい苗。
	 • 根張りはよいが、根を切ったために苗床が崩れやすい苗。	 • 根の張り過ぎた、ビークのささりにくい苗。
	 • 苗床厚（マット厚）が 2 cm 以下の、薄い苗。	 • 苗床厚（マット厚）が 4 cm 以上の、厚い苗。
草丈	 • 草丈が 8 cm 以下の、短い苗。	 • 草丈が 25 cm 以上の、長い苗。
素質	 • 軟弱徒長苗。  • 播種ムラのひどい苗。	 • 成育ムラや成育不良のある苗。
播種量	 • 催芽もみで、1 箱当り 250 g 以上の、厚播きの苗。	 • 催芽もみで、1 箱当り 100 g 以下の、薄播きの苗。

田植作業前の準備

⚠ 警告
- **平たんな場所に置き、エンジンは必ず止めてください。**
- **取外したカバー類は必ず取付けてください。**

1. 予備苗のせ台の準備

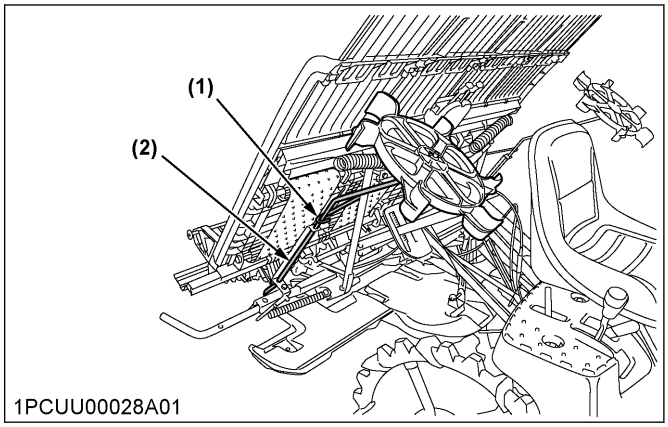
予備苗のせ台をいったん押上げて、取付穴からフック部を外して作業状態にします。



(1) 予備苗のせ台
(A) 押上げる
(B) 作業状態にする

2. 線引マーカの準備

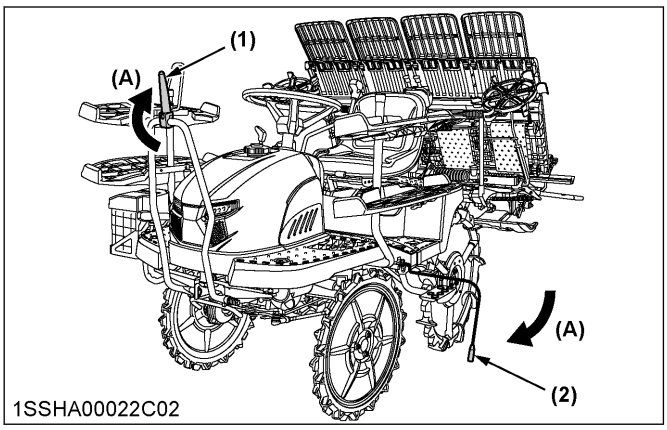
マーカをフックから外して作業状態にします。



(1) 固定フック
(2) 線引マーカ

3. トレースマーカとセンターポールの準備

トレースマーカとセンターポールを作業状態にセットします。



(1) センターポール
(2) トレースマーカ
(A) セット

重要：
- **AZ(アゼ)アームを収納位置から 30 度以上倒して植付作業や移動は行なわないでください。AZ(アゼ)アームを 30 度以上倒すと車輪ロックがはたらき、前輪の操作が固定されるため、無理なハンドル操作を行うと機械が破損する原因になります。（42 ページ参照）**
- **AZ(アゼ)アームを押さえた状態でハンドルを回さないでください。破損の原因になります。**

4. 延長エプロン･エプロンガードの準備

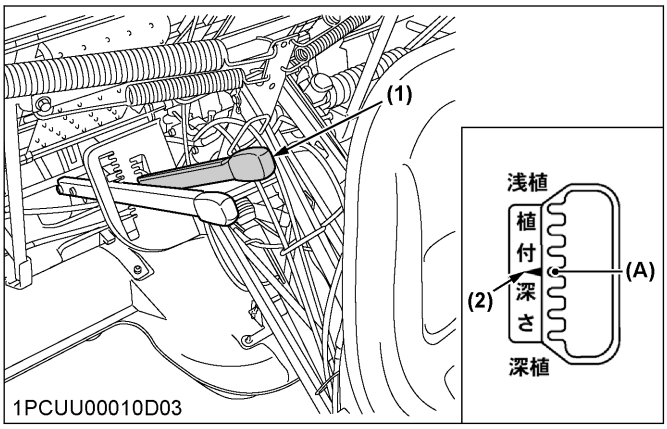
延長エプロンおよびエプロンガードが収納されているときは、作業状態にします。（90 ページ参照）

5. 各レバーの準備

各レバーの設定を行ないます。

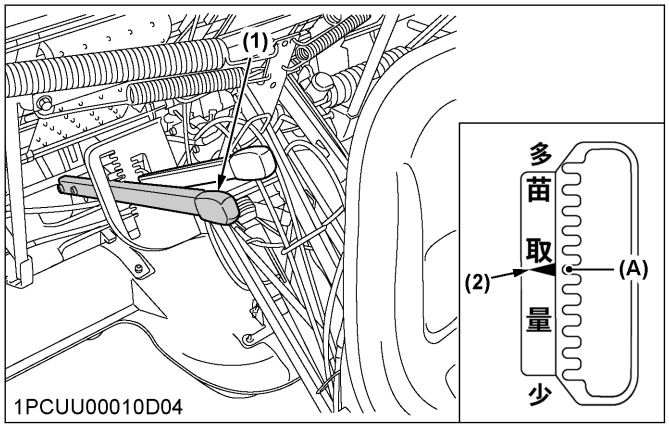
補足：
- **下記各レバーの設定位置は目安です。**

植付深さ調節レバー
植付深さ調節レバーを上（**[浅植]**）から**4 段目**（ラベルの赤印）の切欠位置にします。



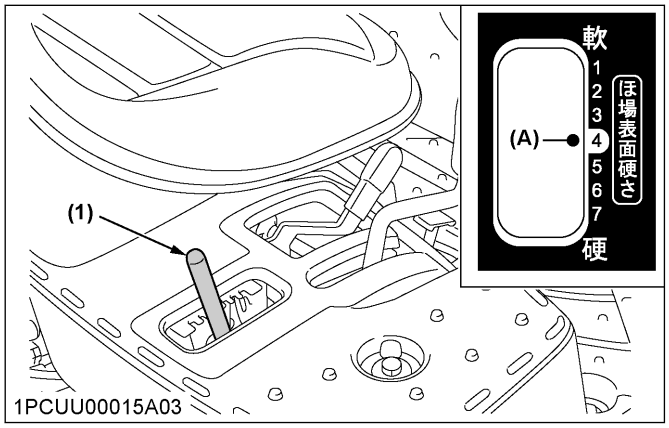
(1) 植付本数調節レバー
(2) 赤印
(A) 上から *4* 段目位置

植付本数調節レバー
植付本数調節レバーを標準位置の上（**[多]**）から**6段目**（ラベルの赤印）の切欠位置にします。



(1) 植付本数調節レバー　　*(A)* 標準位置
(2) 赤印

油圧感度調節レバー
油圧感度調節レバーを**[4]**の位置にします。



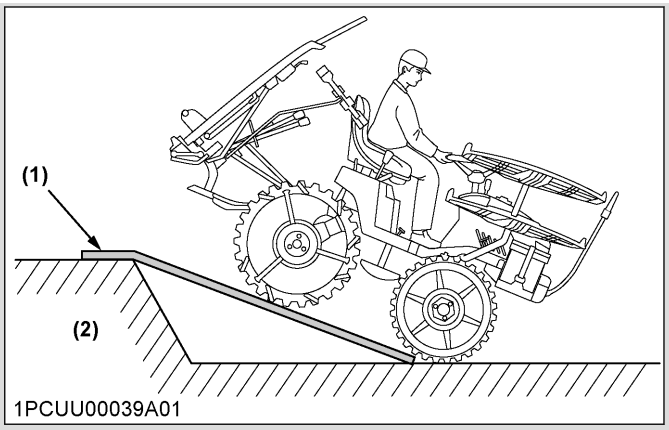
(1) 油圧感度調節レバー　　*(A)* 標準

植付作業のしかた

⚠ 警告
- **夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **後進する場合、後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないようにじゅうぶん注意してください。**
- **機体への乗り降りや機体の上で作業を行なうとき（苗や肥料の補給時など）、主変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進するおそれがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

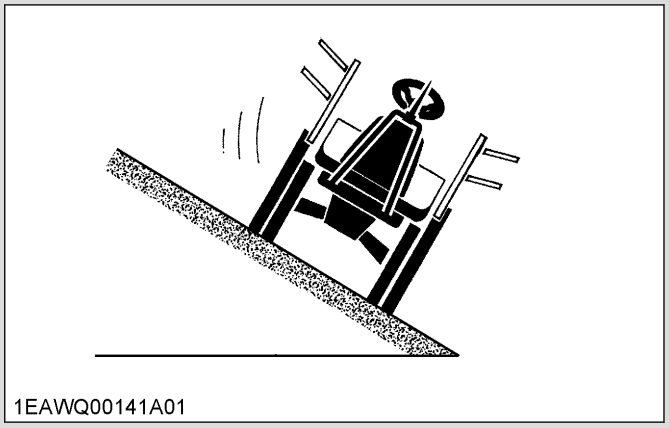
1. ほ場の出入りのしかた

⚠ 警告
- **10 cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。**

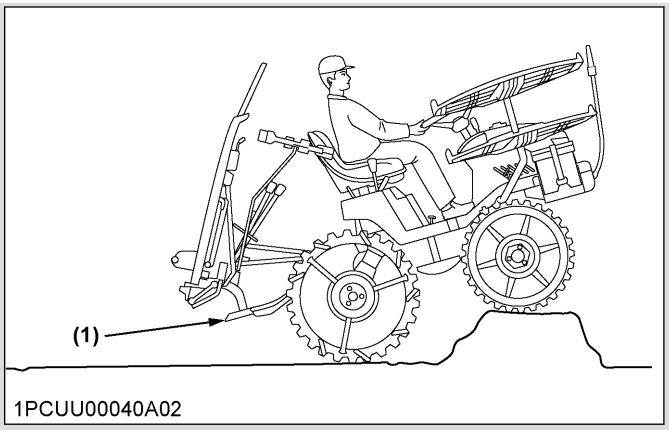


(1) あゆみ板
(2) 農道・あぜ

- **暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので、あぜごえや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは、下記事項に注意してください。**
  - **走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）**
  - **主変速レバーで走行と停止を行なう。**
  - **あぜや斜面に対して直角に走行する。**
  - **あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行し、前輪デフロックペダルを踏込む。**
  - **あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作及びブレーキペダルを急に踏込まない。**
  - **変速レバーが[圃場作業]位置になっていることを確認する。**
- **機械が右又は、左に大きく傾くような場所では転倒するおそれがあるので、傾斜が大きいところでの走行はしないでください。**
- **AZ(アゼ)アームは下記条件の場合は使用を避け、必ずあゆみ板を使用してください。**
  - **機械が傾くと滑り落ちるところ**
  - **機械が右又は、左に大きく傾くところ**

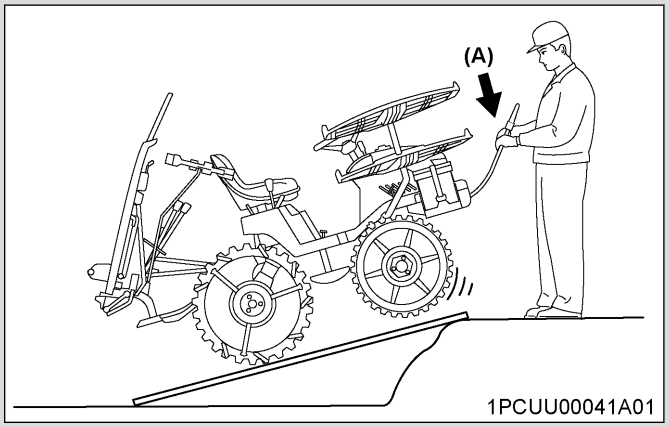


  - **あぜなどの段差や傾斜の角度が大きいとき、植付部が最上昇位置でもフロートが地面に当たるところ**



(1) フロート

- **アクセルレバーを［🐢］位置に、副変速レバーを[圃場作業]位置にしてください。**
- **周囲の安全や足元に注意しながら走行してください。**
- **あぜごえ、坂道走行、トラックへの積込み・積降ろしの時、前輪が浮き上がるときは、AZ(アゼ)アームを押さえ、浮き上がりを防止してください。**
- **AZ(アゼ)アームに力を入れるときは、足元にじゅうぶん注意してください。**



(A) 押さえる

2. 植付作業の手順

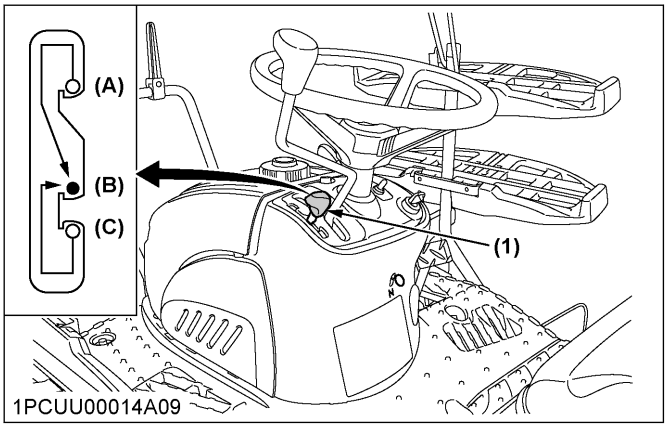
⚠ 警告

- **異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。**
- **小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。**
- **ほ場の外で苗のせ台を移動させているときは、機体が動かないように水平で平たんな場所で必ず行ってください。**

重要：

- **副変速レバーを[移動]位置にして植付作業はしないでください。トラブルの原因になります。**
- **ブレーキペダルを踏み込んだ状態にしておくと、油圧が作動しないため、植付部は上昇しません。**

1. ほ場に入ったら平たんな場所で走行を停止します。
2. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



(1) 副変速レバー

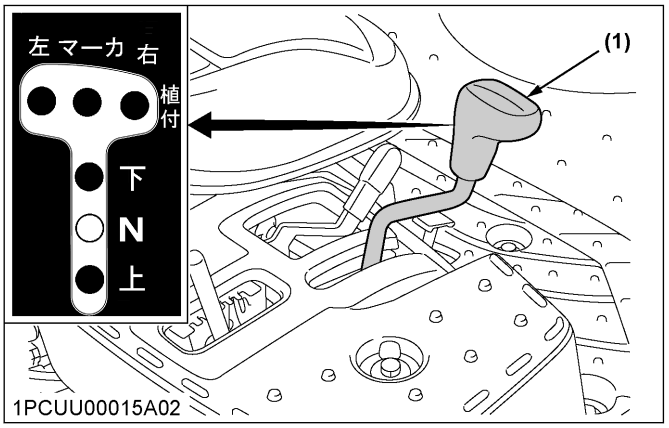
(A) ***[移動]***
(B) ***[N]***（中立）
(C) ***[圃場作業]***

3. 植付クラッチレバーを**[上]**（上昇）位置にして植付部を上昇させたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をします。

補足：

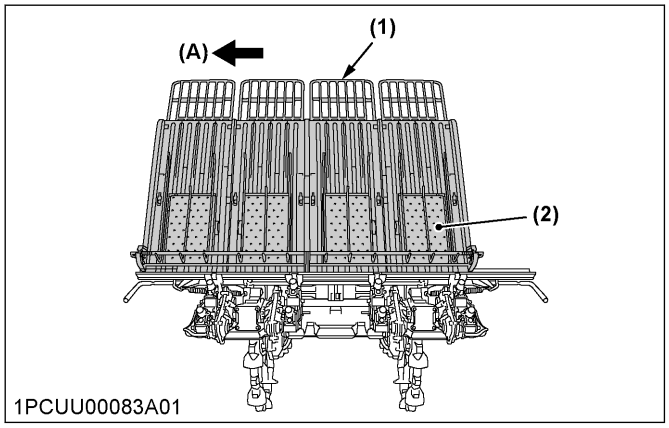
- **駐車ブレーキが掛かっていると、植付クラッチレバーを[上]（上昇）位置にしても植付部は上昇しません。**

4. 植付クラッチレバーを**[植付]**位置にします。



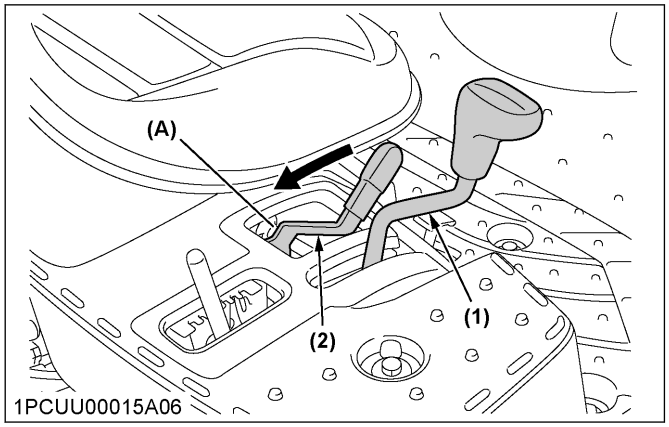
(1) 植付クラッチレバー

5. 主変速レバーをゆっくりと"前進"側に操作して、植付部を駆動させ、苗のせ台が右端または、左端まで移動して縦送りベルトが作動した直後に、植付クラッチレバーを**[下]**（下降）位置にして植付部の駆動を停止します。



(1) 苗のせ台 *(A)* 寄せる
(2) 縦送りベルト

6. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻します。
7. 植付クラッチレバーを**[N]**（中立）位置にします。
8. 油圧ロックレバーを**[開]**位置にします。

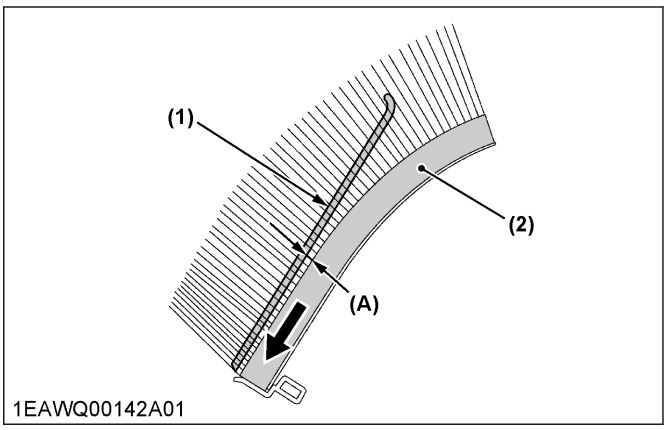


(1) 植付クラッチレバー *(A)* ***[開]***
(2) 油圧ロックレバー

9. 植付クラッチレバーを**[下]**位置にして植付部を降ろします。
10. エンジンを停止します。
11. 苗のせ台に苗をのせます。

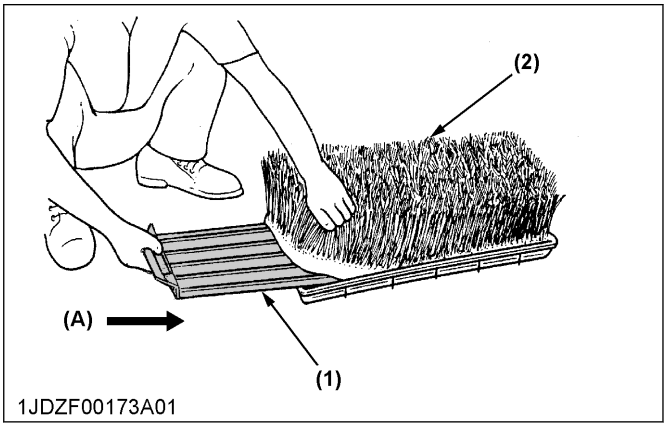
補足：

- **苗がくずれ落ちないように苗押さえとのすき間を確認してください（63 ページ参照）**



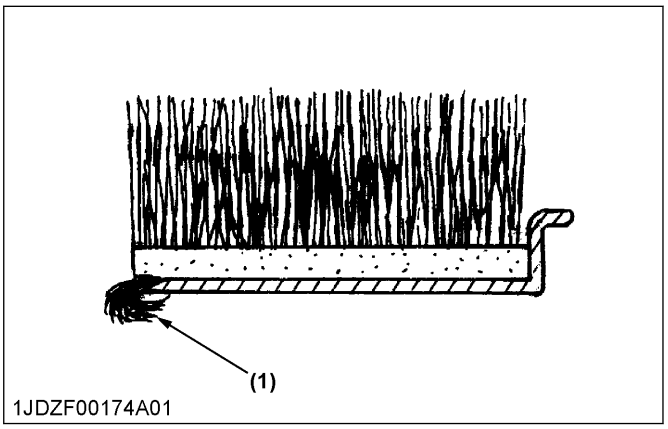
(1) 苗押さえ *(A)* すき間
(2) 苗床

- **苗箱から苗を取り出すときは、苗床（苗マット）の端を持上げて、スクレーパを苗床の下に差込み苗をすくい出してください。**



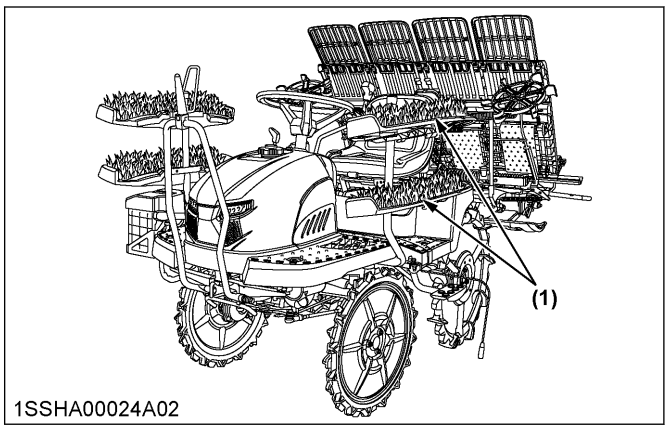
(1) スクレーパ *(A)* 苗箱と苗の間へ差込む
(2) 苗（苗床）

- **スクレーパの先端に苗の根がからみついて、固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると、欠株の原因になります。**



(1) 苗の根

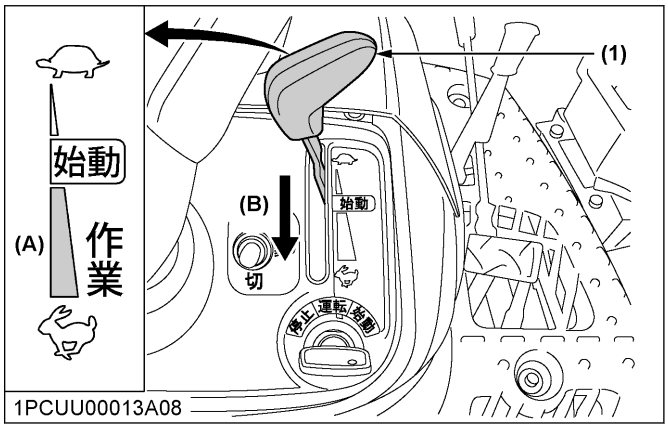
- **スクレーパのニギリ部を機体の後方にし、予備苗のせ台へのせてください。**



(1) スクレーパ

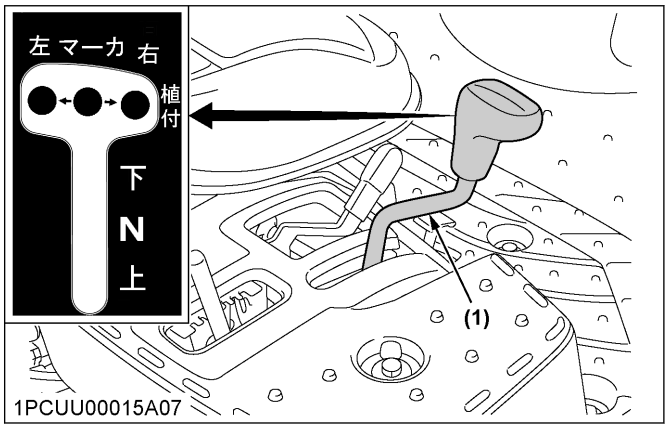
- **予備苗のせ台には苗以外の物は乗せないでください。また、予備苗は 2 枚以上のせないでください。**

12. エンジンを始動したあと、アクセルレバーを操作して、エンジンの回転数を**[作業]**位置に調整します。

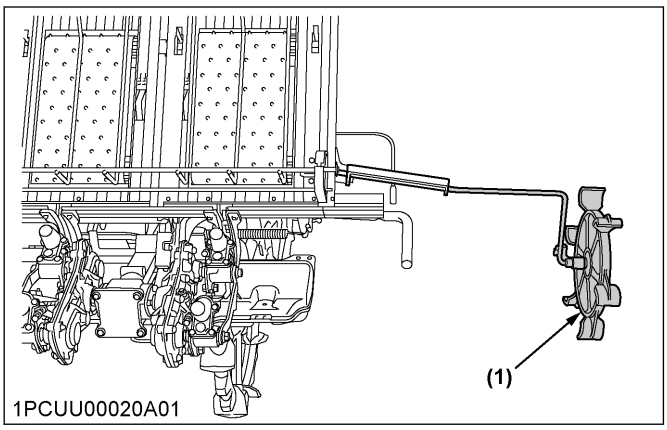


(1) アクセルレバー
(A) ***[作業]***
(B) 引く

13. 植付クラッチレバーを操作して植付部の駆動準備と線引マーカのセットを行います。
セットするときは、植付クラッチレバーを**[植付]**位置にしたあと、次に植える条側へ**[右]**または、**[左]**位置にして線引マーカを倒すと植付準備となります。



(1) 植付クラッチレバー



(1) 線引マーカ

14. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にし、主変速レバーを［**前進**］側へ操作して試し植えを行います。

補足：

- **植付速度が極端に遅いときは、ビークの回転が不安定になり植付状態に異常が発生する場合があります。植付作業を行うときは、主変速レバーを 1 ノッチ以上にしてください。**

15. 5 m 前後植付けたあと、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にして走行を停止します。
16. 植付状態を確認し、異常があれば各部の調整や調節を行います。また、異常がなければ植付作業を行います。

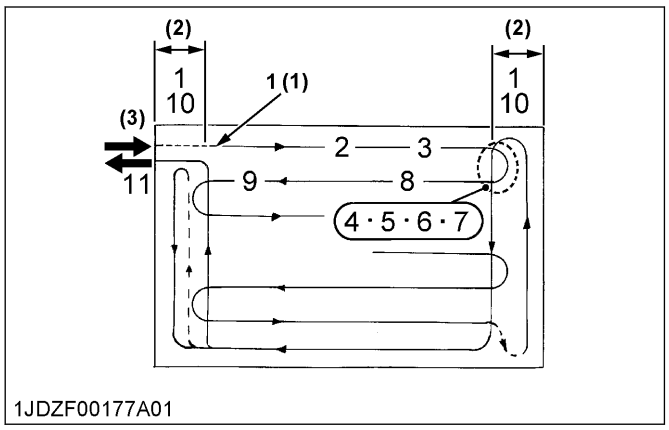
補足：

- **植付状態の確認については、以下の確認項目および調整または、調節箇所を参照して再調節または、再調整を行ってください。（58 ページ参照）**

確認項目	調整または、調整箇所
1 株本数	植付本数調節レバー、横送り切換えギヤ
植付深さ	植付深さ調節レバー、油圧感度調節レバー
植付株数	株間調節
植付姿勢	油圧感度調節レバー、苗押さえ
欠株	苗ホルダ

3. 植付けかたと旋回のしかた

ほ場の大きさや形状によって植付方法は異なりますので作業を始める前に、植付手順を決めてから植付作業を行なってください。

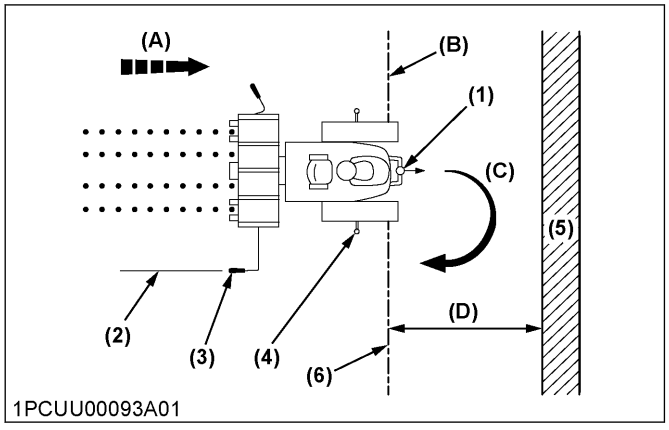


(1) 植始め位置
(2) 枕地
(3) 出入口

補足：
- **上図は、植付手順の一例です。また、上図内と下記の手順の番号 1.～11.を合わせて説明しています。**

1. 植始めは、1 往復分残した位置から植付けます。また、反対方向の枕地も 1 往復分残します。

   補足：
   - **1 往復分の目安**
     2.4～2.7 m（8～9 条分）
2. ほ場の長辺方向に植付けます。
3. 枕地が近づくと、主変速レバーを操作して減速します。そのあと、植付クラッチレバーを操作して植付部を上昇させます。
4. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。

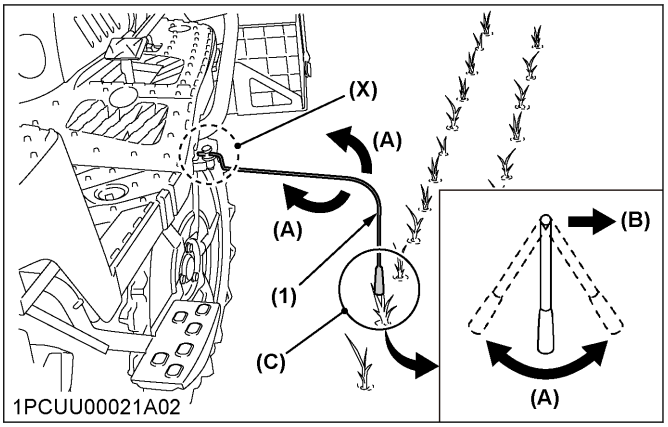


(1) センターポール
(2) マーカ跡
(3) 線引マーカ
(4) トレースマーカ
(5) あぜ
(6) 次行程植付部下降、次行程植始め位置
(A) 減速
(B) 植付部上昇
(C) 旋回
(D) *1* 往復分

補足：
- **深田などで前輪がスリップするときは、前輪デフロックペダルを踏込んでください。**
- **植付クラッチを切って前後進したとき、ビークが正転方向又は、逆転方向に最大半回転程度回転する場合があります。**

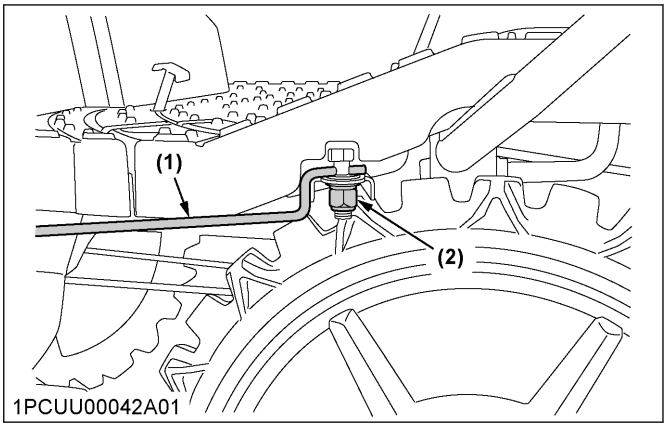
5. 旋回するときにセンターポールを目印にして、マーカ跡の線とセンターポールの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

   補足：
   - **マーカ跡の線が見えにくいときは、トレースマーカが、植え終わった隣の苗（隣接苗）の上になる位置に合わせてください。**
   - **トレースマーカは必要に応じて前後方向の角度及び上下方向の高さを調整してください。また、トレースマーカ調整時の動きが硬い又は、軟らかい場合は調整ナットをゆるめる又は、締付けて調整を行なってください。**



(1) トレースマーカ
(A) 調整
(B) 前方
(C) 隣接苗の上に合わす

X 部拡大図



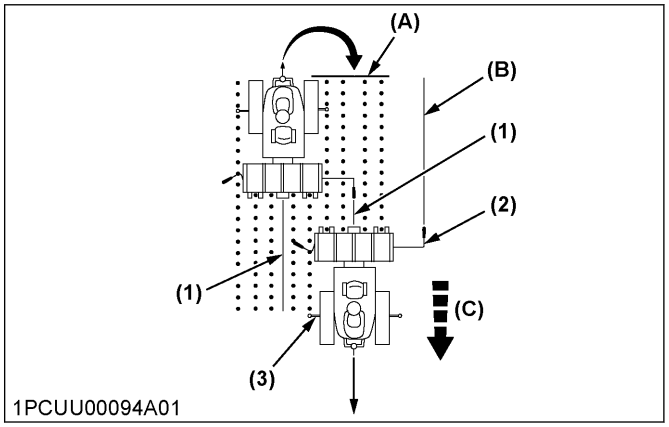
(1) トレースマーカ
(2) 調整ナット

6. 植付クラッチレバーを下側**[下降]**に押して、植付部を下降させます。

7. 植付部が接地したことを確認したあと、線引マーカを次行程植付側にセットします。

補足：
- **植付部が接地していないときに、植付部が駆動するとビークから苗が落下します。**

8. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



(1) マーカ跡
(2) 線引マーカ
(3) トレースマーカ
(A) 条合せ・植付け
(B) マーカセット
(C) 増速

9. 次行程から同じ作業を繰返します。
10. 長辺方向の最終行程の前に条合わせが必要なときは、あぜぎわ植えを行ないます。

補足：
- **57 ページ参照**

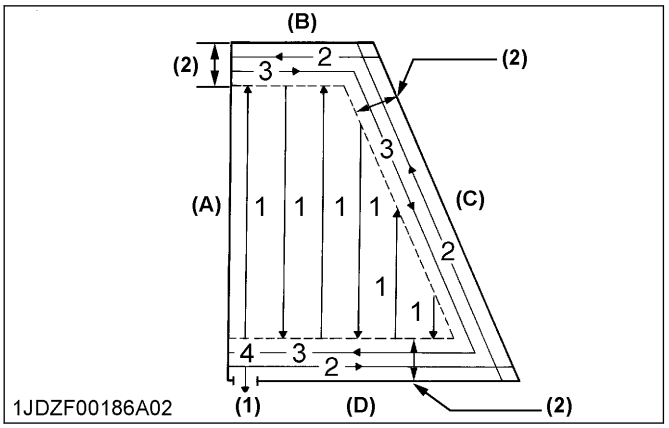
11. 枕地を植付けて出入口から出ます。

補足：
- **極端にほ場が凸凹だったり、夾雑物が多過ぎると、きれいに整地できない場合がありますので、適正な代かきを行なってください。**

4. 変形田の植付けかた（参考）

変形田を植付けるときの参考例です。

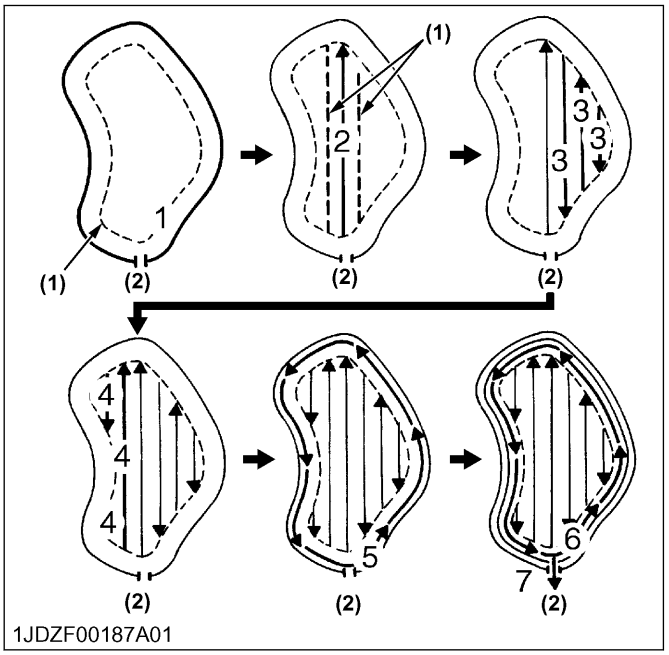
4.1 台形田の植付けかた（A 面基準）



(1) 出入口
(2) *1* 往復分
(A) *A* 面
(B) *B* 面
(C) *C* 面
(D) *D* 面

1. B 面、C 面、D 面に各 1 往復分の枕地を残して A 面（長辺方向）に植付けます。
2. D 面、C 面、B 面の順にあぜ側から植付けます。
3. B 面、C 面、D 面の順に残ったところを植付けます。
4. 出入口から出ます。

4.2 複雑な変形田の植付けかた



(1) マーカ線
(2) 出入口

1. あぜにそってマーカ線を引きます（目安線）。
2. 左、右共線引マーカをセットして長辺部を植付けます。
3. 2.で植付けたところを基準に植付けます。

4. 反対面を植付けます。
5. あぜにそって 1 周を植付けます。
6. 5.の枕地残り分を植付けます。
7. 出入口から出ます。

5. トルクリミッタについて

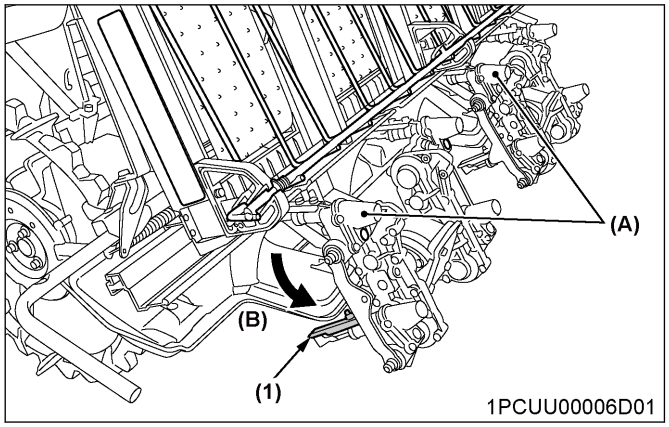
⚠ 注意
- **トルクリミッタがはたらいたときは、植付作業を中止してエンジンを停止してください。**

5.1 ビークのトルクリミッタについて

トルクリミッタは、植付作業中のビークに石など硬い異物がはさまったときに、破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは、作業をすみやかに中止し、エンジンを停止してから異物を取除いてください。

重要：
- **トルクリミッタがはたらいている状態を続けると、ビークやフォークが破損したり、トルクリミッタの摩耗によりトルクリミッタがはたらきやすくなり、植付不良が起こりやすくなります。**

補足：
- **トルクリミッタがはたらいたとき、他のビークと位置ずれを起こすことがあります。位置ずれが起きたときは、植付部を上昇させたあと、油圧ロックレバーで下降防止を行い、必ずエンジンを停止してから異物を取除き、位置ずれを起こしたビークを手で回して他のビークと位置をそろえてください。位置がそろうと手では回らなくなります。**



(1) ビーク
(A) 揃っていること
(B) 回す

5.1.1 異物を取除いたあとの処置

異物を取除いたあとビークやフォークが破損や変形していないか確認し、異常があれば交換や修理を行なってください。また、ビークを手で回したときにエプロンに当たったり、重い場合は購入先に連絡してください。

6. 苗の補給のしかた

⚠ 注意
- **主変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進するおそれがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。**

苗が残り少なくなると苗のせ台のセンサがはたらいて、ブザーが鳴ります。

補足：
- **苗を補給する又は、植付クラッチレバーを[N]（中立）位置にすると、ブザーは停止します。**

1. 主変速レバーを操作して走行を停止します。

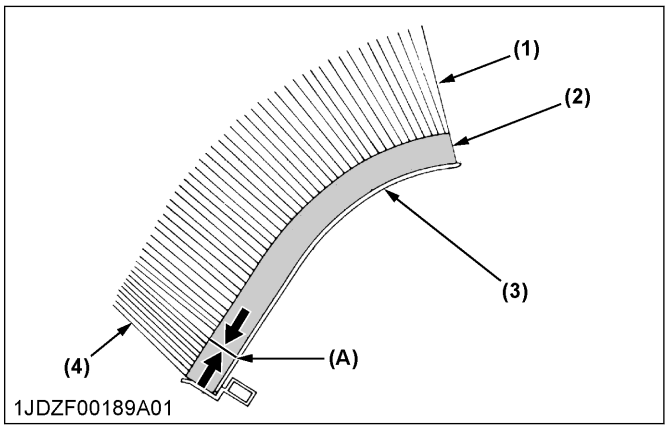
   補足：
   - **苗補給であぜぎわに移動するとき、マフラで苗をこがす場合があるため、苗がない場所に機体を停止してください。**

2. 植付クラッチレバーを**[N]**（中立）位置にします。
3. 駐車ブレーキを掛けます。

4. 予備苗のせ台の苗や準備した苗を補給します。

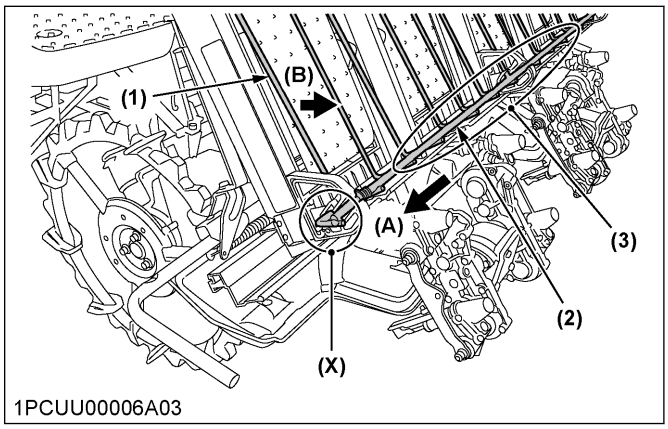
重要：
- **苗を押さえるステー部を持つと、曲がったり破損するおそれがありますので、ステー下端部を持って操作してください。**

補足：
- **苗を補給するときは、苗が崩れないようにていねいに扱い、補給苗と残り苗の床土にすき間のないようにぴったりと合わせてください。**



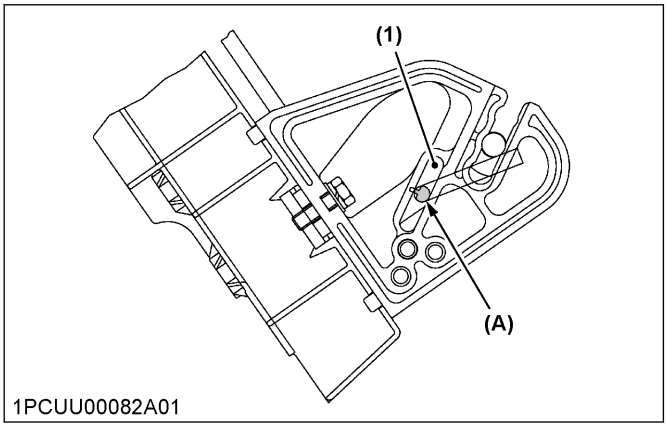
(1) 補給苗
(2) 床土
(3) 苗のせ台
(4) 残り苗
(A) ぴったり合わせる

- **残った苗を取出すときは、エンジンを必ず停止して苗押さえ下端部を左側に引き、ロックを解除したあと、苗押さえ下端部を後方に倒してください。苗を取出したあとは必ず苗押さえ下端部を左側に引いた状態から右側に押し込んでロックし、元の状態に戻してください。**



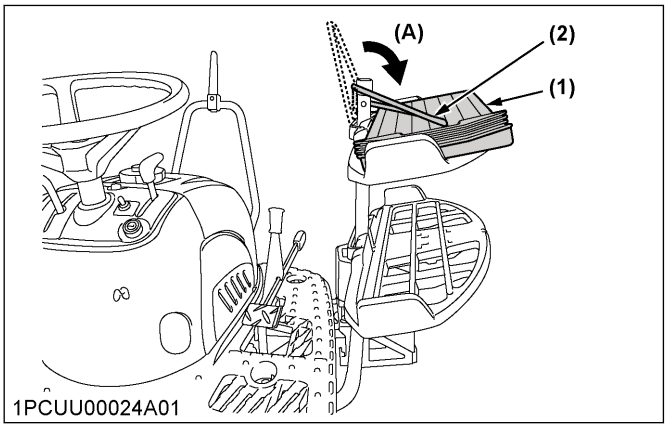
(1) ステー部
(2) 苗押さえ
(3) ステー下端部
(A) 左側に引く
(B) 倒す

X 部拡大図



(1) 長穴
(A) 元の状態に戻すときは、長穴に押込んでロックする

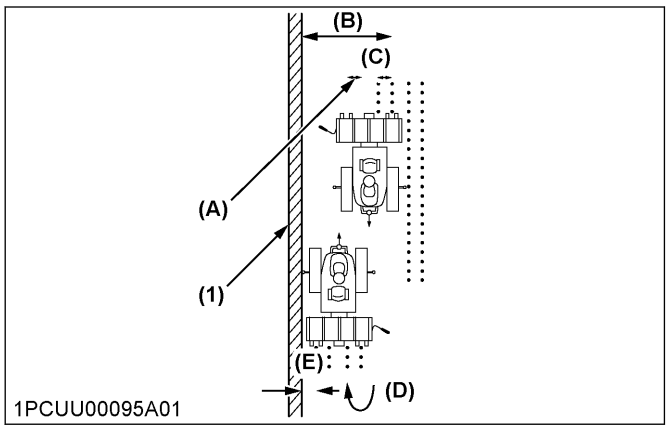
- **苗を補給したあとのスクレーパは、右側の予備苗のせ台上側にある押さえレバーを倒して固定してください。**



(1) スクレーパ
(2) スクレーパ押さえレバー
(A) 倒す

7. あぜぎわの植付けかた

植付作業の最終段階で、最終の植付けを全条植えで終わらせるため、あぜぎわの調整の植付けを行なってください。



(1) あぜ
(A) 条止めレバー**［切］**
(B) *6* 条分残り
(C) *2* 条
(D) *4* 条植え
(E) あぜぎわ植付寸法

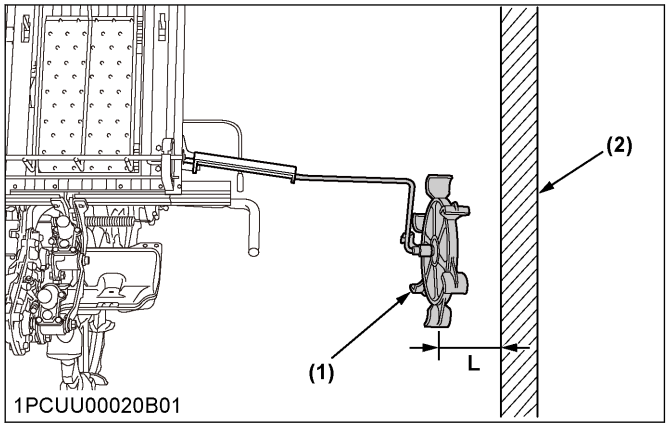
1. あぜぎわから 6 条分残ったとき、条止めレバーで右側 2 条分の植付けを停止し、2 条分植付けをします。

   補足：
   - **条止めレバーを操作するときは、主変速レバーを操作して植付速度を遅くしてから行なってください。**
2. 最終は線引マーカを出さずに（収納状態）4 条で植付けます。
3. 植付作業が終わると条止めレバーを**［入］**位置にします。

7.1 最終行程の前での植付条数の決めかた

センターポールとトレースマーカで条合わせを行なったあと、線引マーカを出して植付条数を決めてください。

※あぜぎわ植付寸法が 30 cm の場合の目安



(1) 線引マーカ（回転式）
(2) あぜ

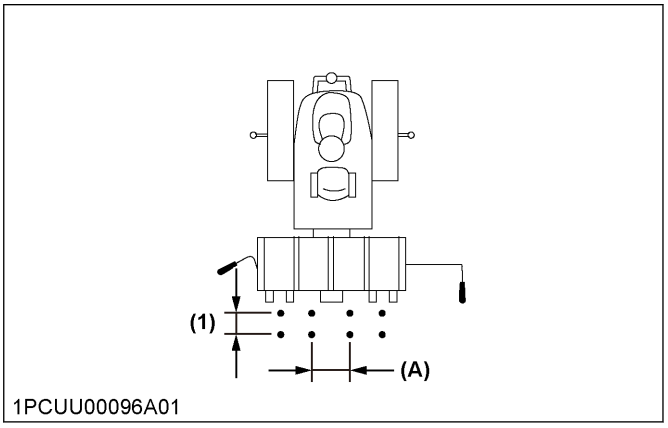
L の距離	前行程 植付条数
約 75 cm	4 条植え
約 15 cm	2 条植え

作業に合わせた各部の調節・調整のしかた

⚠ 警告
- **平たんな場所で行なってください。**

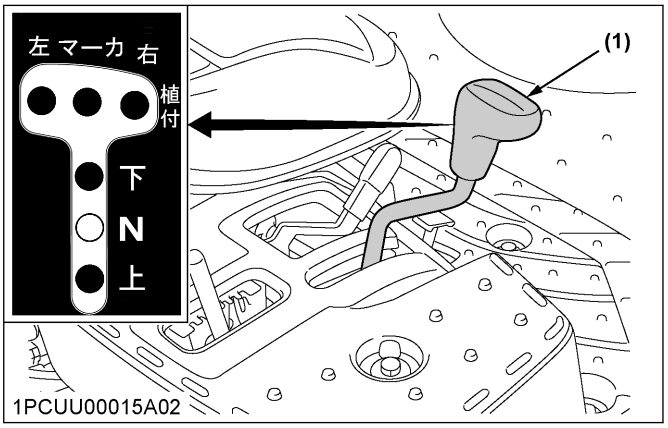
1. 植付株数の調節

植付株数は、株間ギヤの組換えを行ってください。調節はギヤの組換えまたは、付属のギヤの入換えにより 6 段階行えます。植付株数は、株間が狭くなると多くなり、株間が広くなると少なくなります。



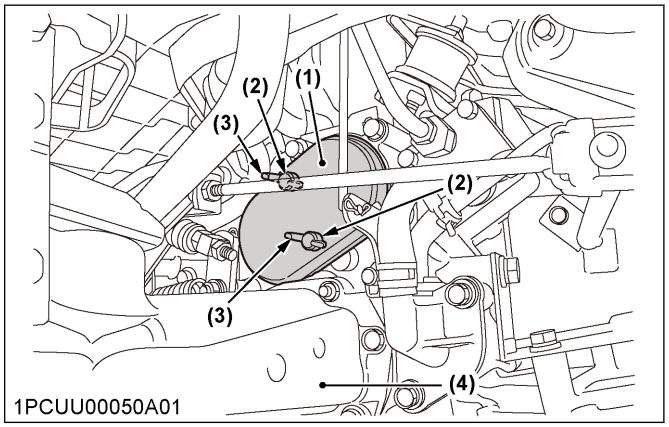
(1) 株間　　*(A)* 機械条間：*30 cm*

1. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にしたあと、エンジンを停止します。
2. 植付クラッチレバーを**[N]**（中立）位置にします。



(1) 植付クラッチレバー

3. 前車軸右側本機取付部の上側にある株間ギヤケースのカバーの蝶ボルトとゴム付座金を取り外して、カバーを取り外します。



(1) 株間ギヤケースカバー
(2) ゴム付座金
(3) 蝶ボルト
(4) 前車軸

4. ギヤの入換えまたは、組換えを行います。
   a. 株間ギヤケース内にあるギヤ 2 個（ギヤ A とギヤ B）を取り外します。
   b. 次の株間ギヤ組合せ表を参照してギヤの入換えまたは、付属部品のギヤとそれぞれ交換します。

補足：

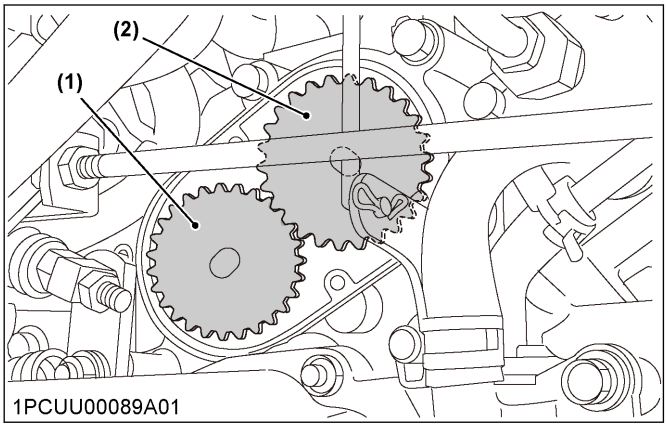
- **株間によりギヤ A とギヤ B に組み付けるギヤの歯数は異なるため、組間違いに注意してください。**
- **仕様（[クランク仕様］または、[H：ロータリー仕様]）によりギヤ A とギヤ B に組み付けるギヤは異なるため、組間違いに注意してください。**

株間ギヤ組合せ表：[クランク仕様]

株間（cm）	14	16	18	20	24	26
株数（株/3.3m^2）	80	70	60	55	45	42
ギヤ A（歯数）	24	26	27	28	31	33
ギヤ B（歯数）	28	27	26	24	22	21

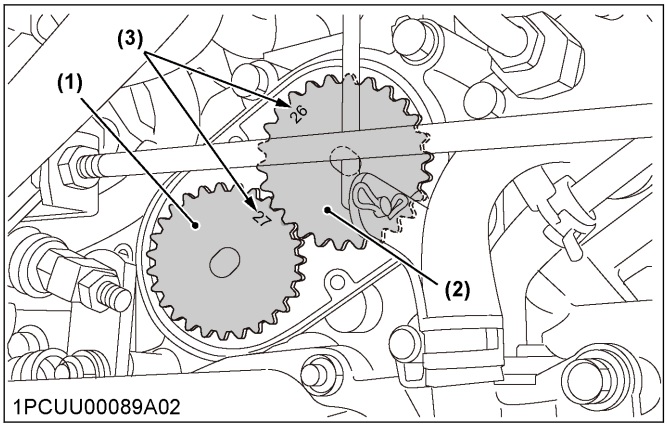
株間ギヤ組合せ表：[H：ロータリー仕様]

株間（cm）	14	16	18	20	24	26
株数（株/3.3m^2）	80	70	60	55	45	42
ギヤ A（歯数）	22	24	26	27	30	31
ギヤ B（歯数）	31	28	27	26	24	23



(1) ギヤ *A*（左側）
(2) ギヤ *B*（右側）

- **株数は、車輪のスリップ率が 10%の場合です。**
- **出荷時の株数は下記の通りです。**
  - **[クランク仕様］18 cm/60 株（ギヤ A の歯数：27 枚、ギヤ B の歯数：26 枚）**
  - **[H：ロータリー仕様］18 cm/60 株（ギヤ A の歯数：26 枚、ギヤ B の歯数：27 枚）**
- **付属部品の入れ換え用のギヤは下記の通りです。**
  - **[クランク仕様］21 ギヤ、22 ギヤ、24 ギヤ、28 ギヤ、31 ギヤ、33 ギヤ**
  - **[H：ロータリー仕様］22 ギヤ、23 ギヤ、24 ギヤ、28 ギヤ、30 ギヤ、31 ギヤ**
- **各ギヤの表面には歯数を刻印していますので調節を行うときは歯数を確認してください。また、ギヤを取り付けるときは、刻印が見える位置（手前）にして取り付けてください。**



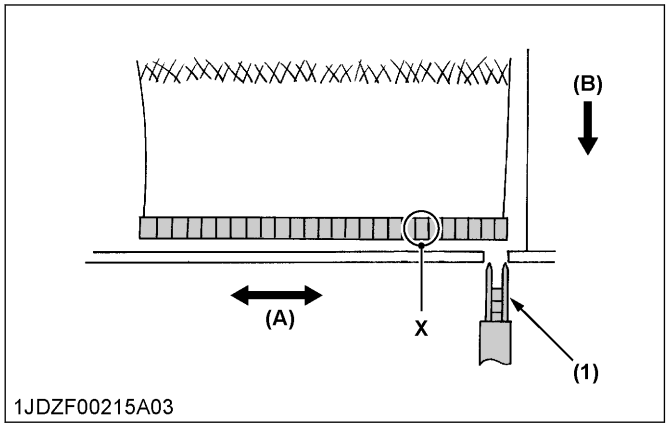
(1) ギヤ *A*（左側）
(2) ギヤ *B*（右側）
(3) 刻印

ギヤの組換えおよび入換えを行うときは、株間の組換え表以外のギヤの組合せはしないでください。

5. 株間ギヤケースのカバーを取り付けます。
6. 5、6 株または 1～2 m 植付後の確認を行って、異常がなければ作業を続けます。

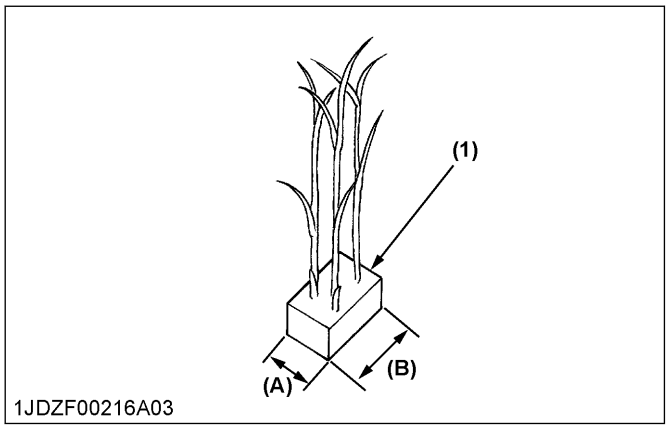
2. 苗取り量（1 株本数）の調節

ビークが取出す 1 株あたりの本数を、横送りギヤ交換（横送り量）と植付本数調節レバー（縦取り量）で調節を行なってください。



(1) ビーク
(A) 横送り
(B) 縦送り

X 部拡大図



(1) *1* 株
(A) 横（*14・11 mm*）
(B) 縦（*8～18 mm*）

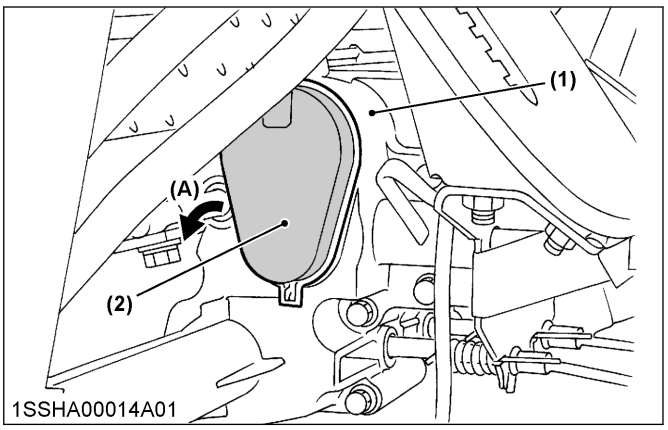
補足：
- **1 株あたりの本数は条件によって異なりますが、3～5 本が標準です。**

2.1 横送り量の調節

横送り量の調節はギヤの組換えで行ってください。

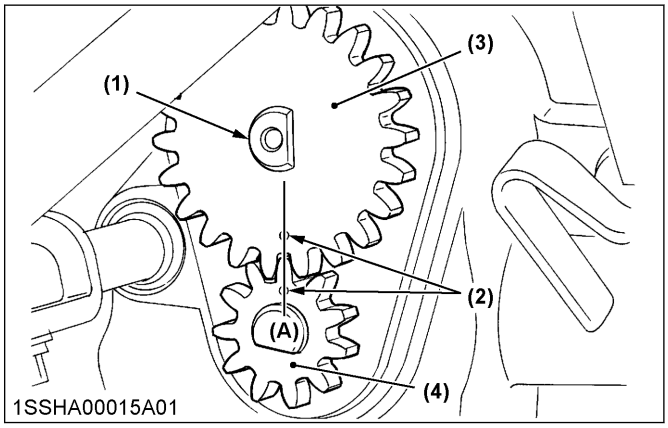
補足：
- **出荷時は 26 回（稚苗）位置です。**
- **横送り量は、20 回で 14 mm、26 回で 11 mm です。**

1. **植付作業のしかた**の**植付作業の手順**（51 ページ参照）の行程 1.～5.を行い苗のせ台を右または左端まで寄せます。
2. 植付本数調節レバー下側にある横送りギヤケースのカバーを取り外します。



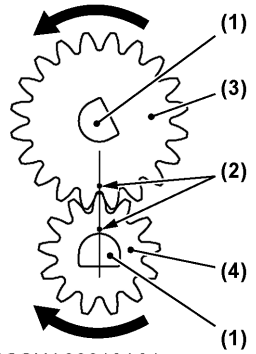
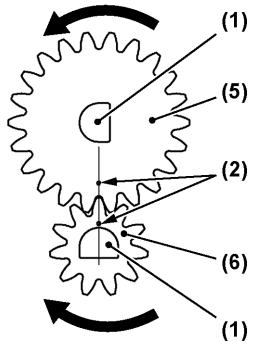
(1) 横送りギヤケース
(2) カバー
(A) 取り外す

3. ギヤに刻印されている合マークが一直線上に合っているか確認します。



(1) 軸
(2) 合マーク
(3) *A*： *22* ギヤ
(4) *B*： *11* ギヤ
(A) 一直線上に並ぶように合わす

補足：
- **出荷時は A： 22 ギヤ、B： 11 ギヤです。**
- **付属部品の中苗用のギヤは、A： 20 ギヤと B： 13 ギヤです。**
- **合マークが合っていない場合は、植付アームを下図のように回して合わせてください。**

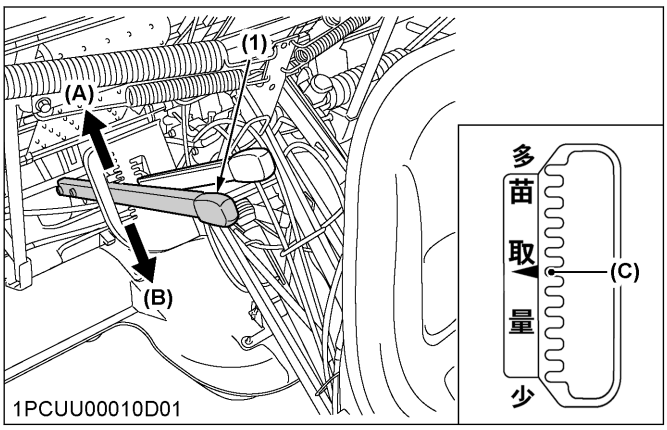
20 回取り	26 回取り
	
1SSHA00016A01	1SSHA00017A01

(1) 軸
(2) 合マーク
(3) A： 20 ギヤ
(4) B： 13 ギヤ
(5) A： 22 ギヤ
(6) B： 11 ギヤ

4. ギヤを稚苗用または、中苗用に組換えます。
5. ギヤに刻印されている合マークを一直線上に合わせてギヤを組み付けます。
6. カバーを取り付けます。

2.2 植付本数調節レバーの調節

苗や苗床によってレバー調節してください。調節は 8～18 mm まで 11 段階行なえます。



(1) 植付本数調節レバー
(A) 多い
(B) 少ない
(C) 標準位置

補足：
- **横送り量と合わせて 1 株本数を、レバーで調節します。レバーは切欠溝に確実にセットしたあと植付作業を行なってください。**

2.3 植付株数と苗の使用量について

10 アール（a）あたりの苗の使用量は、栽植密度（植付株数）と 1 株あたりの苗取り量によって決まります。下記の表を参照して、苗箱（箱）の使用量の目安にしてください。

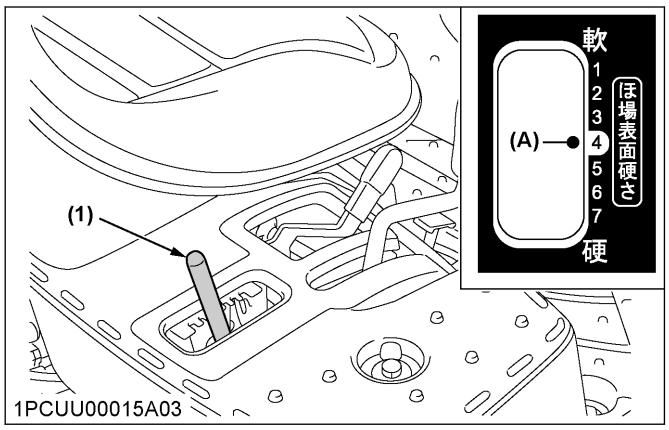
横送り回数（回）	苗の種類	植付本数調節レバー位置	3.3 m^2 当り株数（株）					
			42	45	55	60	70	80
20	中苗	6 段目	14	16	18	21	23	27
26	稚苗	6 段目	11	12	14	16	18	21

- 植付本数調節レバー位置は、上（**[多]い**）から数えた位置
- 上表の株数は、目安の苗箱（箱）の使用量です。また、播種量は稚苗 200～220 g、中苗 100 g を基準にして算出します。
- 出荷時は 60 株位置です。

補足：
- **植付本数（縦取り量）調節レバーを 1 段変更すると、苗箱は 6～8%増減します。**
- **上表はあくまで目安ですから苗箱は多めに準備してください。**

3. 油圧感度調節レバーの調節

植付部の下側にあるフロートが、植付速度に応じて植付深さを一定に保つため、高速作業時にフロートの浮上りによる浅植えのないように制御していますが、ほ場の状態により、泥を押したり、凹凸がじゅうぶん整地されないときは、レバーでフロートの感度調節を行なってください。調節は 7 段階行なえます。



(1) 油圧感度調節レバー　　*(A)* 標準

設定位置

ほ場状態を確認しながら、レバーで下記の表を目安に感度調節を行なってください。

ほ場状態		設定位置
軟らかい ⬆ 標準 ⬇ 硬い	• トロトロした状態で、泥押しをする。	1～3
	• 整地も良く、泥押しが少ない。	4
	• 硬くて整地が悪い。	5・6
	• 凹凸が激しく、荒れている。（車輪跡や足跡が残る。）	7

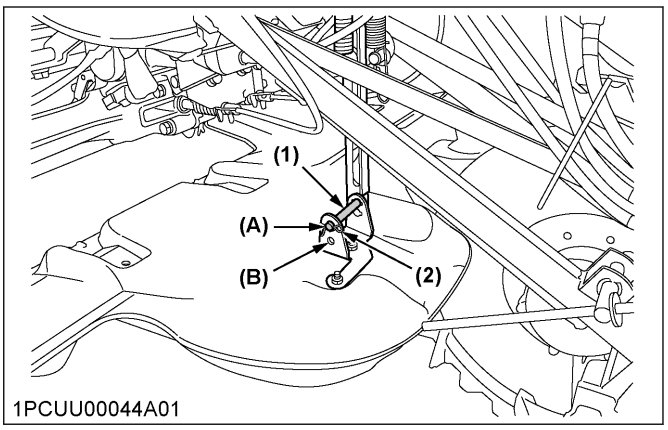
補足：

- **調節を行なったときは、植付け深さの調節も同時に行なってください。**
  - **[軟らかい] → [硬い]に変更すると植付け深さが深くなることがあります。**
  - **[硬い] → [軟らかい]に変更すると植付け深さが浅くなることがあります。**

3.1 油圧感度の感度調節について

油圧感度調節レバーを**[1]**に設定しても、フロートの沈下が大きく泥押しをする軟らかいほ場の場合は、センサ金具を**[敏感]**の位置に変更してください。

1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させます。
2. 油圧をロックして、下降防止をしたあと、エンジンを停止します。
3. センサ金具を取付けているスナップピンと頭つきピンを取外します。



(1) 頭つきピン　　*(A)* 敏感
(2) スナップピン　　*(B)* 標準

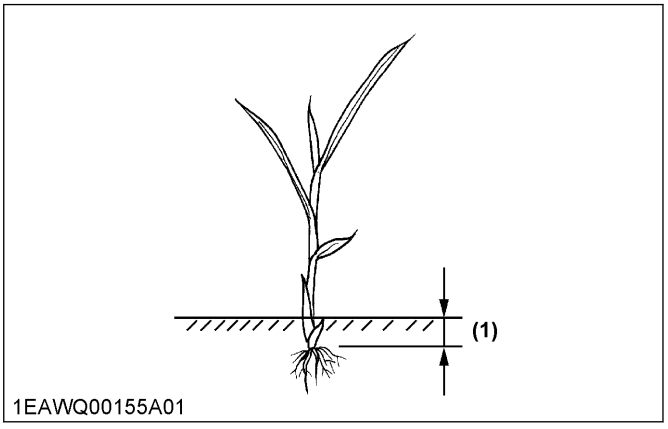
4. 頭つきピンを“標準”位置から“敏感”位置に差換えてスナップピンを取付けます。

補足：

- **“敏感”側の穴に移すと、感知が敏感になり、浮き苗が出たり植付け深さが浅くなったりするおそれがありますので、できるだけ油圧感度調節レバーをこまめに調節して対応してください。**
- **出荷時は“標準”位置です。**

4. 植付深さの調節

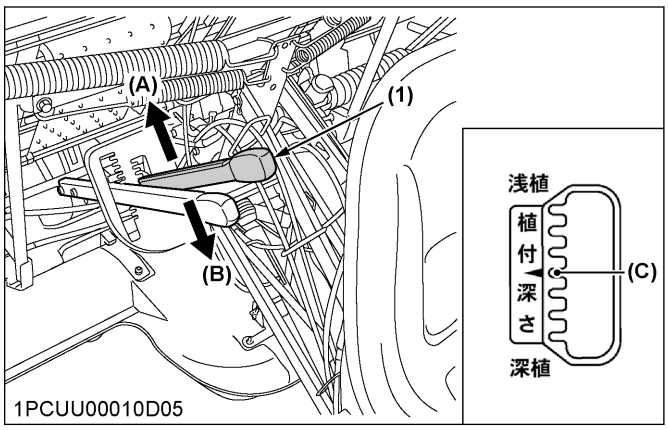
ほ場や苗の条件に合わせて、苗の植付深さの調節をレバーで行なってください。調節は 1～4 cm まで 7 段階行なえます。



(1) 植付深さ

補足：

- **植付深さは 2～3 cm が適正です。**



(1) 植付深さ調節レバー
(A) 浅い
(B) 深い
(C) 標準位置

1. 植付部を上昇します。
2. 植付深さ調節レバーで調節し、切欠溝に確実にセットします。
3. 植付部を降ろして植付作業を行なってください。

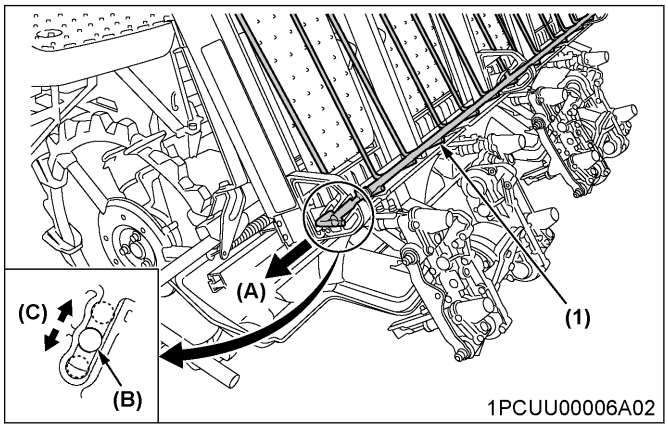
5. 苗押さえ・苗ホルダの調節

苗のせ台に苗をのせたとき、苗押さえとのすき間が大きかったり、苗床の状態が悪く（薄くて軟弱な苗や根張りの悪い苗など）て、くずれ落ちによる欠株が発生したり、苗が前、後に倒れるときは調節を行なってください。

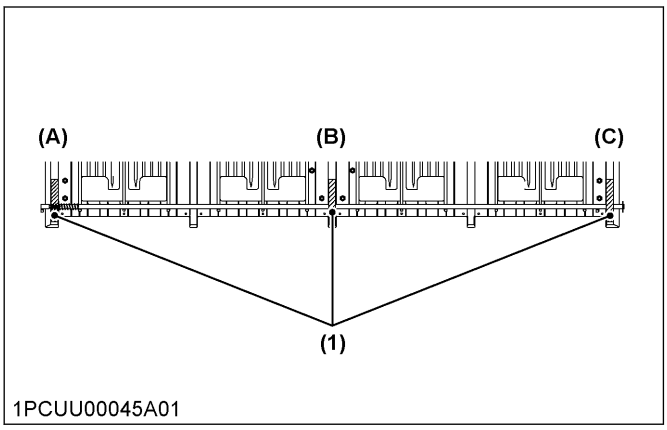
苗押さえ

1. 植付部を下降したあと、エンジンを停止します。
2. 苗押さえを苗床とのすき間が 1～1.5 cm になる位置に変更します。
3. 左、真中、右のそれぞれ 3 段階ある調節部で、苗床と苗押さえのすき間が平均になるように上、下に動かして調整します。

左側



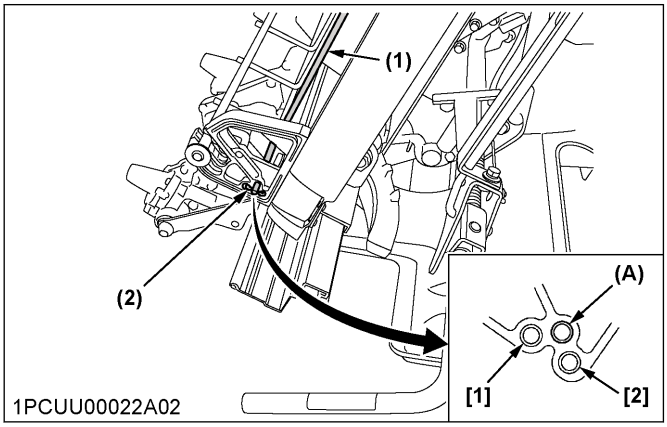
(1) 苗押さえ
(A) 引く
(B) 標準位置
(C) 調節



(1) 苗押さえ調節部取付位置
(A) 左
(B) 真中
(C) 右

苗ホルダ

1. 植付部を下降したあと、エンジンを停止します。
2. スナップピンを取外したあと、ロッドを抜取ります。
3. 穴の位置を変更してロッドを差込んだあと、スナップピンを取付けます。



(1) 苗ホルダ
(2) スナップピン
(A) 標準位置

調節位置

現象	取付穴位置
• 苗が短い。 • 植付けたとき、苗が後に倒れる。 • 苗床が軟弱で、植付けるとバラケやすい。	標準 ➡ [2] または、 [1] ➡ 標準
• 苗が長い。 • 植付けたとき、苗が前に倒れる。 • 苗が押さえ棒に引掛かり、エプロンまで降りてこない。	標準 ➡ [1] または、 [2] ➡ 標準

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた

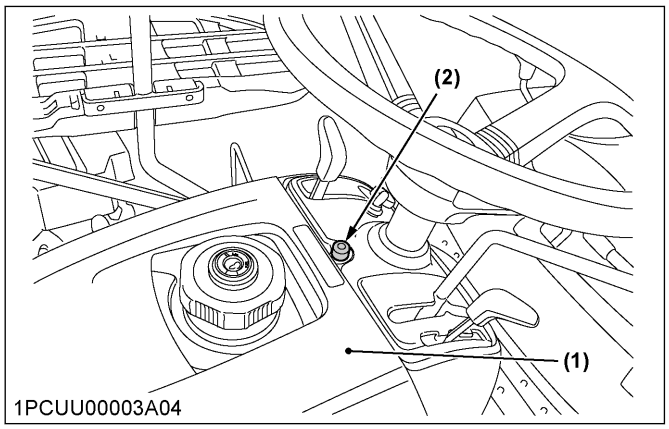
⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めてから行なってください。**
- **取外したカバー類は、必ず取付けてください。**

1. ボンネットの開閉

⚠ 警告
- **オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **作業を中止する。**
  2. **エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後、エンジンを停止する。**
  3. **エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。**
  4. **点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認する。**
- **エンジンが冷えてないときに、エンジンルームを開けると高温部に接触してヤケドするおそれがあります。**

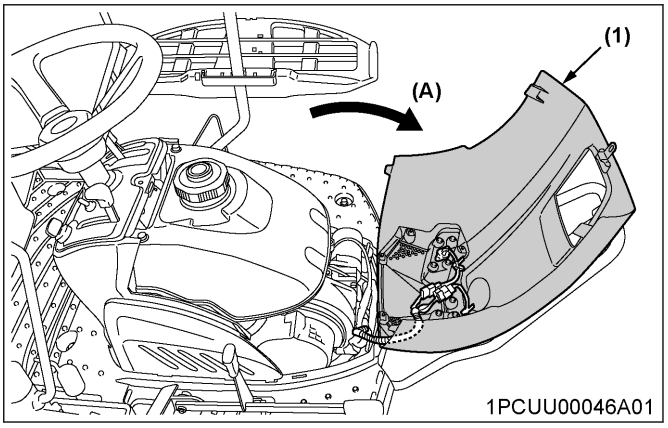
取外しかた

1. ボンネットを固定しているノブボルトを取外します。

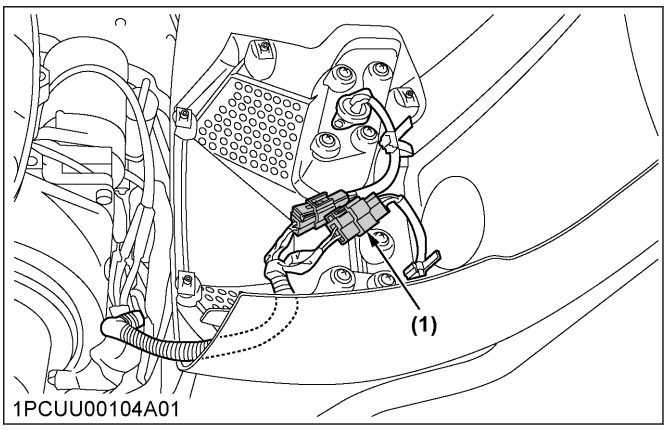


(1) ボンネット
(2) ノブボルト

2. ボンネットを前方に倒したあと、ヘッドランプのコネクタを取外し、ボンネットを取外します。



(1) ボンネット　　*(A)* 開く



(1) コネクタ

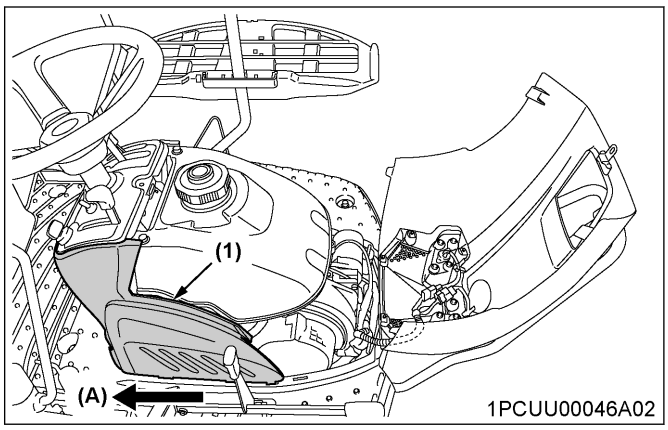
取付けかた

取外しかたと逆の手順で取付けます。

2. リヤカバーの脱着

取外しかた

1. ボンネットを開きます。
2. リヤカバーを少し後方に引いてリヤカバー下の各爪を取付け側の各差込穴から外してリヤカバーを取外します。

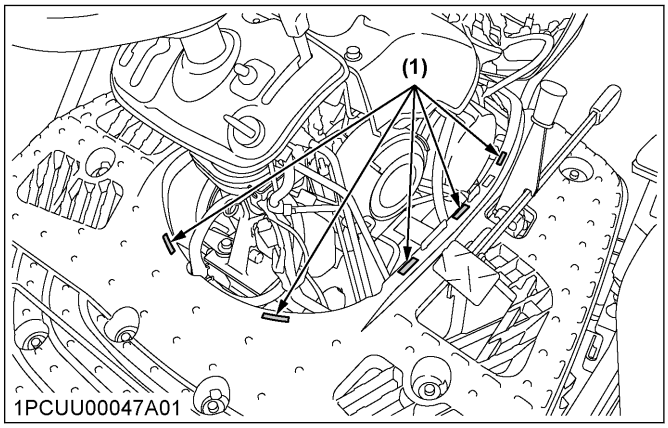


(1) リヤカバー　　*(A)* 引いて取外す

取付けかた
取外しかたと逆の手順で取付けます。

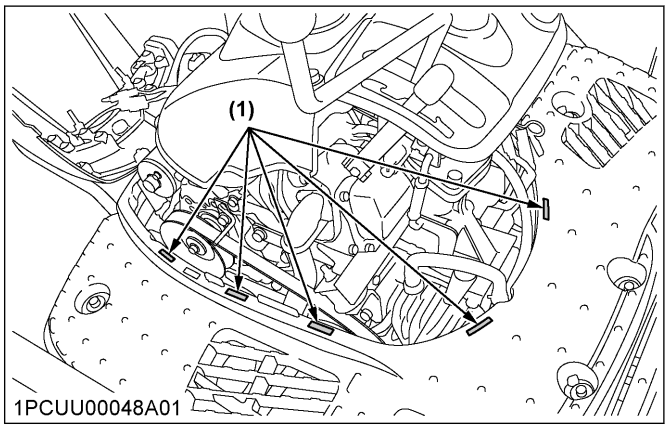
補足：
- **取付けるときは、リヤカバーの各差込み穴に確実に差込んでください。**

※イラストは右側



(1) 差込み穴

※イラストは左側



(1) 差込み穴

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行ってください。

⚠ 警告
- **エンジンを必ず止めてください。**
- **取り外したり、オープンした回転部のカバー類は必ず取り付けてください。回転部に衣服などが巻込まれてケガをするおそれがあります。**
- **植付部を上げた状態で作業するときは、油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止を行ってください。**
- **空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。**
- **オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。**
- **バッテリ、マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取除いてください。**
- **清掃を行うときは、手袋などの保護具を着用してください。部品の鋭利な部分に素手で触るとケガをするおそれがあります。**
- **ビークの爪先には注意してください。**

1. 各部の掃除

一日の作業が終わったあとは、各部の泥やごみの掃除を必ず行なってください。

重要：
- **ボンネット内部や運転席下部の電装品には水を掛けないでください。故障の原因となります。**
- **取外したボルト、ナットは、必ず締付けてください。**

2. 各部の注油

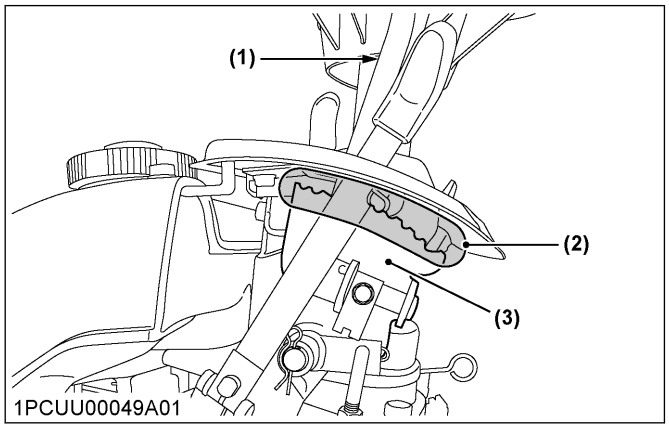
機体各部の掃除が終わったあと又は、田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布又は、注入を行なってください。グリースを注入するときは、グリースガンなどのグリースを注入する専用工具を使用してください。

重要：
- **長期格納前には機械各部の掃除を行ない、泥や肥料を除去したあと、各部に注油やグリースの塗布を行なってください。**

補足：
- **注油やグリース塗布をする前に、水が付着しているときは、ふき取って行なってください。**

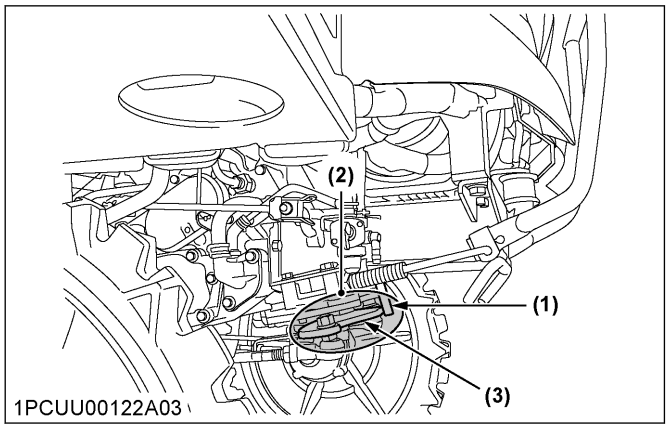
2.1 注油、グリース塗布、注入箇所

・ 主変速レバーデテント部（グリース塗布）



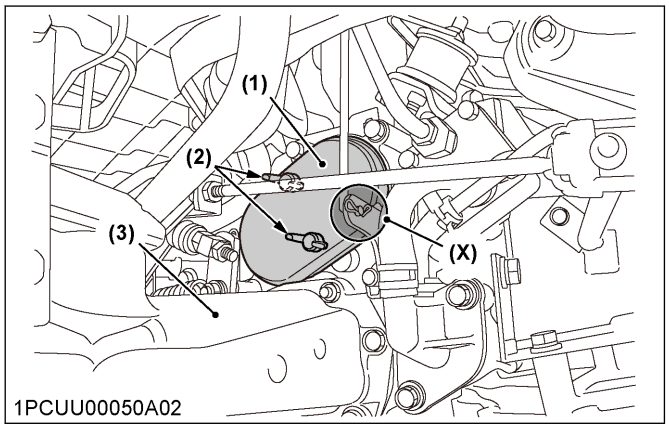
(1) 主変速レバー
(2) デテント部
(3) デテント

・ ステアリングピットマンアーム部（グリース塗布）



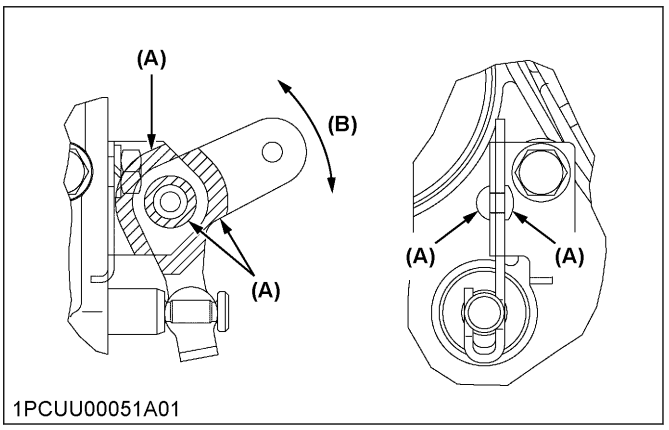
(1) ロックピン
(2) ステアリングピットマンアーム部
(3) ピットマンアーム

・ 副変速レバーリンク部（グリース塗布）



(1) 株間ギヤケースカバー内　　*(X)* 副変速レバーリンク部
(2) 蝶ボルト
(3) 前車軸

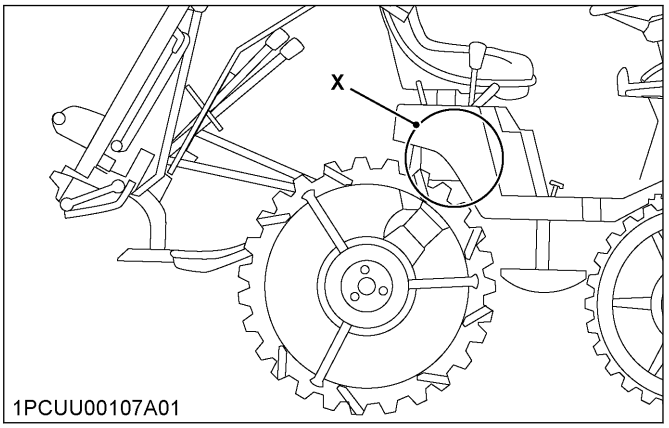
X 部拡大図



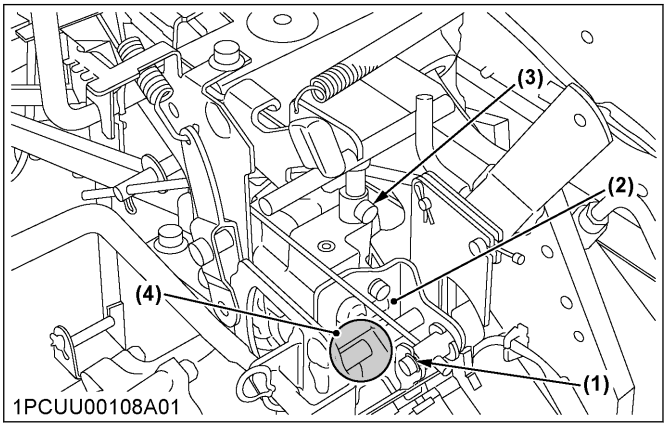
(A) グリース塗布
(B) 回動

補足：
– 株間ギヤケースカバー内のギヤや軸のかみ合い部はモリサーム No.2（住鉱潤滑剤（株）製）・相当品などの二硫化モリブデン含有グリースを塗布してください。

・ コントロールバルブ感知レバー・植付け操作ギヤのしゅう動部（グリース塗布）

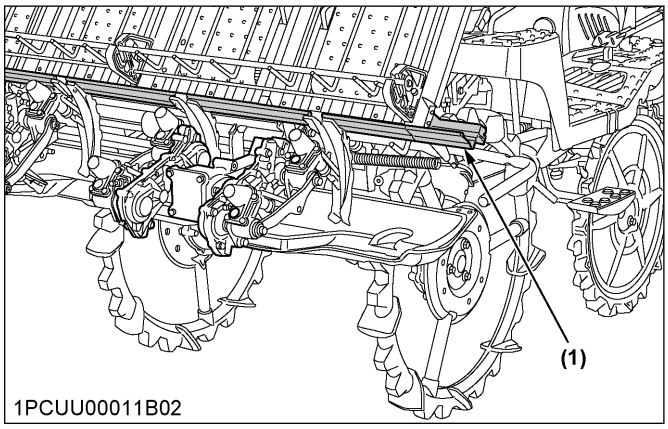


X 部拡大図



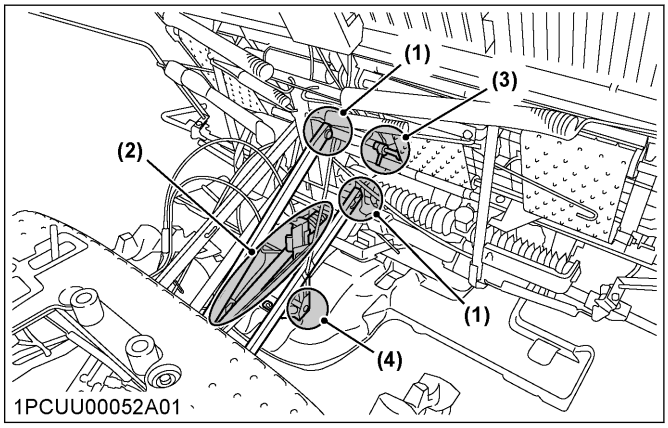
(1) コントロールバルブ感知レバー
(2) 支点金具
(3) コントロールバルブ油圧ロック軸
(4) しゅう動部

- **エプロン（グリース塗布）**

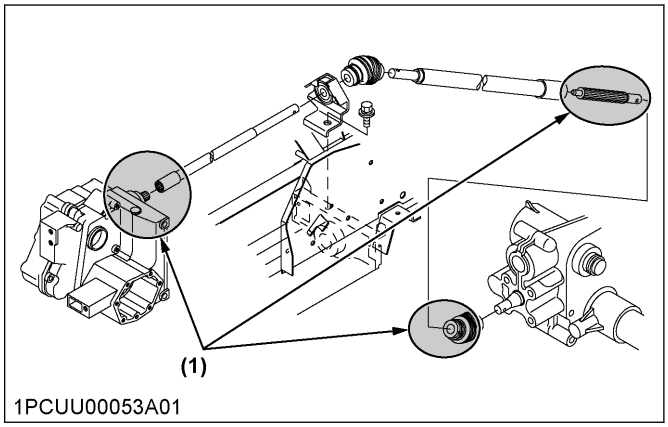


(1) エプロン（しゅう動面）

- **苗のせ台縦送り条止めクラッチ部（グリース塗布）**
- **フロート支点部（注油）**
- **リンク支点部（注油）**
- **プロペラシャフト接続部（グリース塗布）**

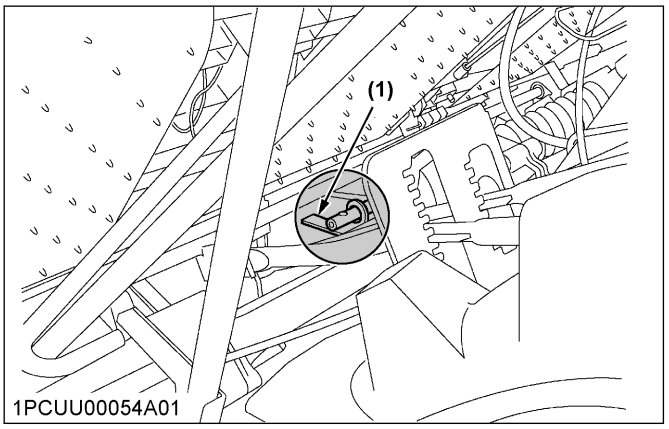


(1) リンク支点部
(2) プロペラシャフト接続部
(3) 苗のせ台縦送り条止めクラッチ部
(4) フロート各支点部

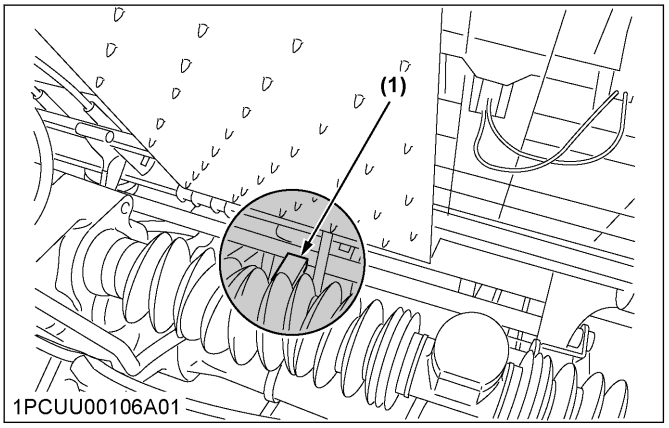


(1) プロペラシャフト接続部

- **縦送りカムプレート部（グリース塗布）**

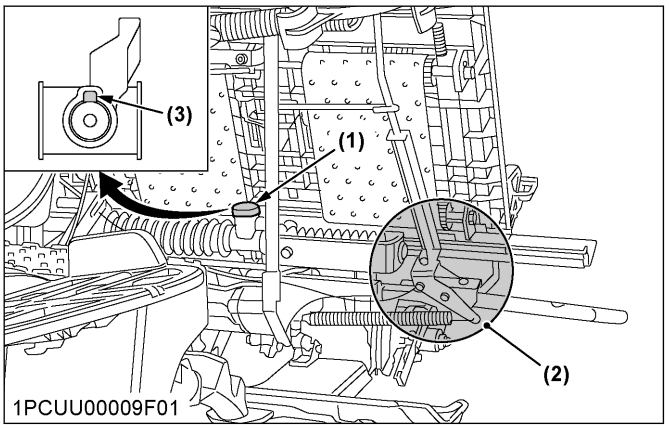


(1) 縦送りカムプレート部（右側）



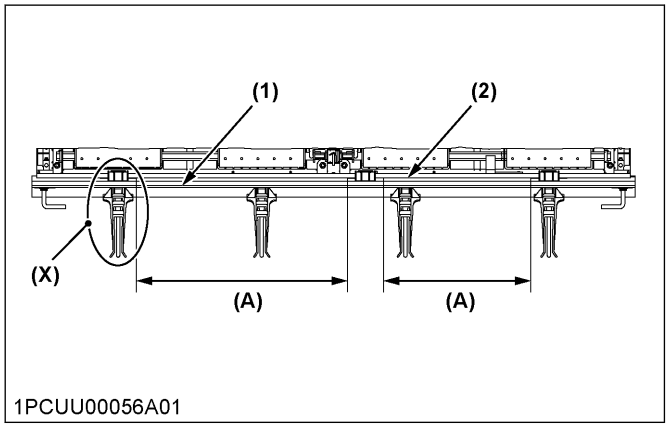
(1) 縦送りカムプレート部（左側）

- **スライドブロック部（グリース注入）**
- **線引マーカ支点部（注油）**



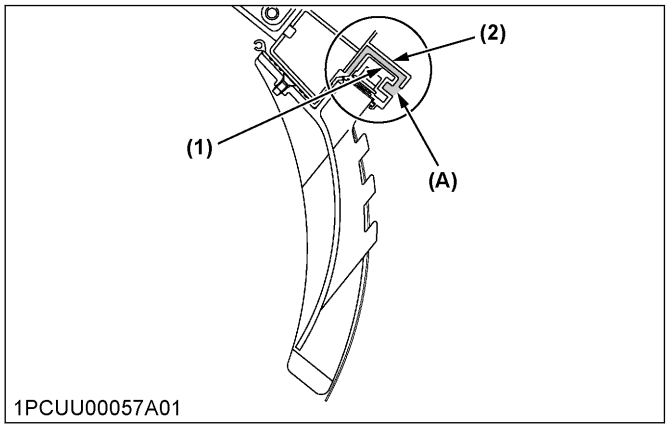
(1) スライドブロック部（グリース注入口）
(2) 線引マーカ支点部
(3) グリース注入口

- **苗のせ台下面しゅう動部（スプレーグリース注入）**



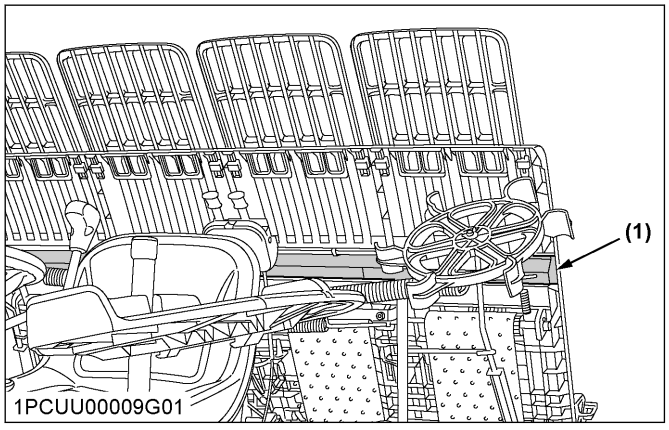
(1) エプロン
(2) しゅう動フレーム
(A) グリース注入口

X 部拡大図



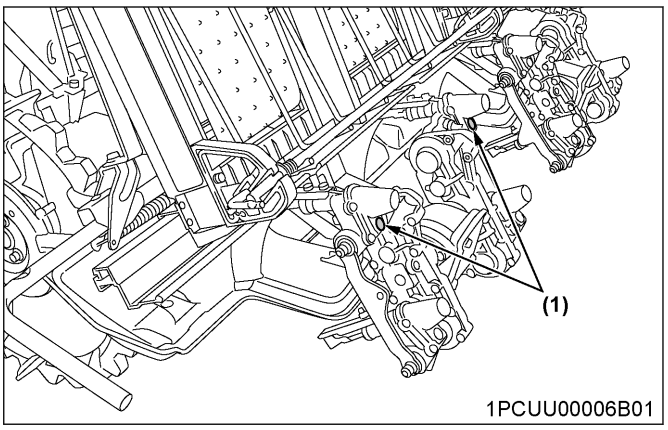
(1) エプロン
(2) しゅう動フレーム
(A) スプレーグリース注入

- **苗のせ台ローラ・レール部（グリース塗布）**



(1) 苗のせ台ローラ・レール部、内側の面

- **植付アームへのグリースの補給**
  （71 ページ参照）



(1) 植付アーム内部

定期点検

定期点検は、田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。

⚠ 警告

- **各部の点検・調整・交換作業を行なうときは、平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて、各レバー類を［切］位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。**
- **取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがありますので、点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。**
- **燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁。**
- **植付部を上げた状態で作業を行なうときは、油圧ロックレバーを［閉］位置にして植付部の下降防止を行なってください。**
- **ボンネットを開けるときは、内部がじゅうぶん冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。**
- **オイルの補給中は火気厳禁。**
- **燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。**

補足：

- **専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先にご相談ください。**
- **点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早めの点検をお願いします。**

1. 廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

2. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意

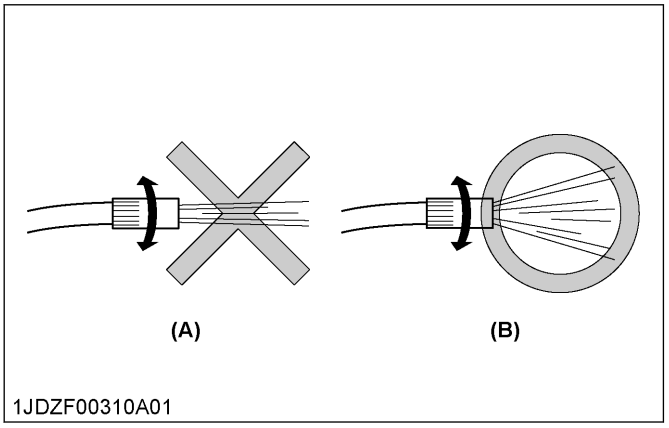
洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. **電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

補足：

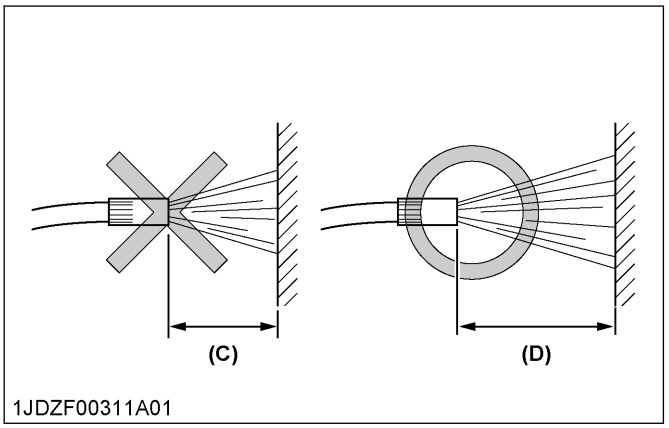
- **洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
  例）
  1. **シール・ラベルの剥がれ**
  2. **電装部品、エンジン等への浸入による故障**
  3. **タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂部品、ガラス等の破損**
  4. **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

直射洗車厳禁



(A) 直射
(B) 拡散

近距離洗車厳禁



(C) *2 m* 未満
(D) *2 m* 以上

3. 使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- コントローラ（マイコン）や電気系統（自動制御関係）の機器や部品
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 植付部の動力系統

4. 定期点検一覧表

○：点検と調整 △：交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期							参照ページ
		作業前後	シーズン前後	50 時間	100 時間	200 時間	1 年ごと	2 年ごと	
エンジン部									
燃料フィルタポット（燃料フィルタ）	掃除・洗浄		○						75
エアクリーナエレメント	掃除・交換	○：50 時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：汚れがひどいとき							76
点火プラグ	掃除			○					77
	すき間調整	○：200 時間ごと							
気化器（キャブレタ）	掃除	○：エンジン不調時など							☆
燃料タンクの燃料こしあみ	掃除		○						72
燃料パイプ	バンド締付け	○						△	77 ☆
		（作業前後点検し、燃料もれしているときは締付けバンドの締付け又は、交換）							
走行部									
ブレーキペダル	調整		○						78
ミッションオイルフィルタ	点検・掃除・交換	○：50 時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：汚れがひどいとき							74 ☆
ミッション駆動ベルト	交換	△：摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき							78 ☆
タイヤ	点検・交換	○							80
		△：8 mm 以上摩耗したとき							
植付・操作部									
ビーク	点検・交換	○							81, 83
		△：3 mm 以上摩耗したとき（植付時に苗取りができないとき）							
フォーク	点検・交換	○							81, 83
		△：破損や変形がひどいとき（うき苗、ころび苗、ばらけ苗が発生）							
縦送りベルト	掃除・交換	○							☆
		△：破損や摩耗がひどいとき							
エプロン・苗のせ台受け	点検・交換	○							86 ☆
		△：1 mm 以上摩耗したとき							
各ワイヤ	調整・交換	○							☆
		△：破損時							
電装部									
バッテリ	充電・交換	○：セルモータが回りにくい、ライトが暗いときなど							86
		△：バッテリ上り（セルモータが回らない）とき							
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検・交換	○							89 ☆
		△：破損時							
ヒューズ・スローブローヒューズ	交換	△：破損時（ヒューズ切れ）							89
ランプ（電球）	交換	△：破損時（球切れ）							89

- 参照ページに☆印のある整備項目の交換については、購入先に連絡又は、整備工場で行なってください。

補足：

- **上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なります。**
- **使用時間については、主要諸元の作業能率を参照して確認してください。**

5. 給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前または、作業後	–	• 容量…4.2	自動車用無鉛ガソリン	72
オイル	エンジン	補給・交換		• 初回 …20 時間目 • 2 回目以降 …100 時間ごと	• 規定量 オイルゲージの下限と上限の間 • 容量…0.55	三菱スーパーマルチ GD オイルまたは、API 分類 SE 級以上	73
	ミッションケース	補給・交換	作業前または、作業後	• 50 時間ごとまたは、3 年経過後	• 規定量 オイルゲージの下限と上限の間 • 容量…3.4	スーパー UDT-2	74
	後輪軸ケース	補給・交換	作業前または、作業後	• 50 時間ごとまたは、3 年経過後	• 規定量 オイルゲージの先端にオイルが付着すること • 容量…約 1.2		74
グリース	前車軸ケース左右のグリース補給	補給	作業シーズン前、後	–	適量	極圧(万能)グリース (No.2)	66 ☆
	ステアリングギヤケースのグリース補給						
	フィールドケースのグリース補給						
	株間ギヤケースカバー内 (ギヤや軸のかみ合い部)				3～5 g	耐熱グリース（モリサーム No.2 住鉱潤滑剤（株）製）	
	植付アーム	補給	作業シーズン前後および 50 時間ごと	–	適量	純正グリース	
	プランタケース	補給	作業シーズン前、後	–	適量	極圧(万能)グリース (No.2)	
	横送りネジ部のグリース補給						
	スライドブロック						
	植付クラッチレバー取付部周り						
	コントロールバルブ感知レバー・植付け操作ギヤしゅう動部						
	主変速レバーデテント部		操作荷重が重くなったとき				
	副変速レバーリンク部						

• 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については、購入先に連絡してください。

重要：
各部への補給と交換
- **点検するときは、機械を平たんな場所において行ってください。傾いていると正確な量を示しません。**
- **エンジンオイル量の点検は、エンジン停止後、5 分以上経過してから行ってください。**
- **ミッションケースは、使用開始から 50 時間に満たない場合でも、3 年経過後オイル交換をしてください。**
- **使用するオイル・グリースは、指定のオイル・グリースを使用してください。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

補足：
使用時間については、主要諸元の作業能率を参照して確認してください。

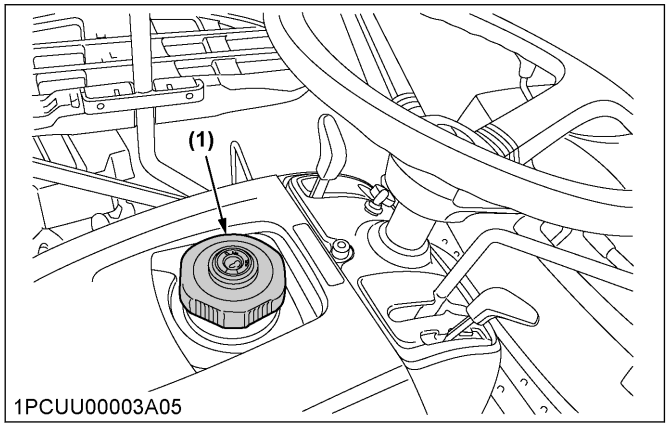
6. 燃料・オイルの点検・補給・交換

⚠ 警告
- **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- **エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災やヤケドをするおそれがあります。**
- **メンテナンスなどを行なうときは、エンジンやエンジンオイルがじゅうぶん冷えていることを確認してから、作業を行なってください。**

重要：
- **補給・交換を行なうときは、機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。**
- **廃油は使用しないでください。**
- **給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。**
- **使用するオイルは指定オイルを使用してください。**
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。**

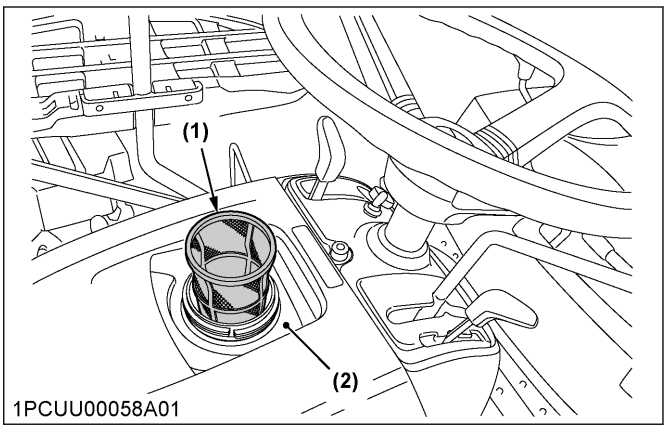
6.1 燃料の補給

燃料は作業前に必ず補給してください。



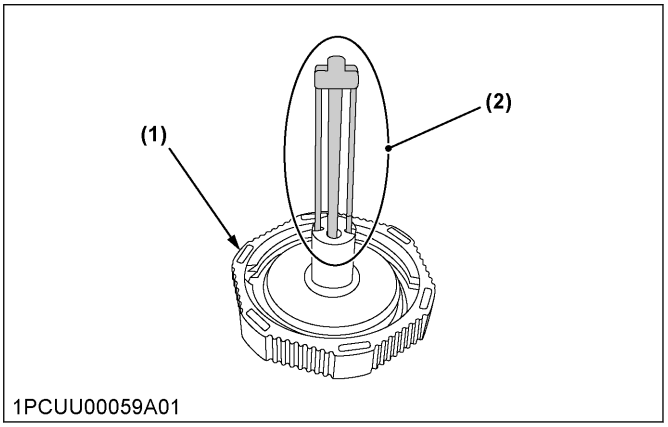
(1) 燃料キャップ（給油口）

重要：
- **燃料は、自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また、下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジンの不調や故障の原因になります。**
  - **燃料タンク内に 1 ヵ月以上放置した燃料**
  - **樹脂製タンクに長期間保管した燃料**
  - **ゴミや水など異物の混ざった燃料**
  - **変色のひどい燃料**
  - **くさった古い燃料**
    （昨年使用した燃料はなるべく新しい燃料に交換してください。）
- **1 ヵ月エンジンを始動しないと、燃料は変質し、エンジントラブルの原因となります。**
- **給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。**



(1) 燃料こしあみ
(2) 燃料タンク

- **燃料キャップを取外したときは、地面などかたい床面に落としたり、機械に当てないように取扱いに注意してください。燃料キャップに取付けられている燃料計の感知部に衝撃を与えると変形したり破損するおそれがあります。感知部が変形したり破損すると正しい燃料の残量が表示できなくなります。**

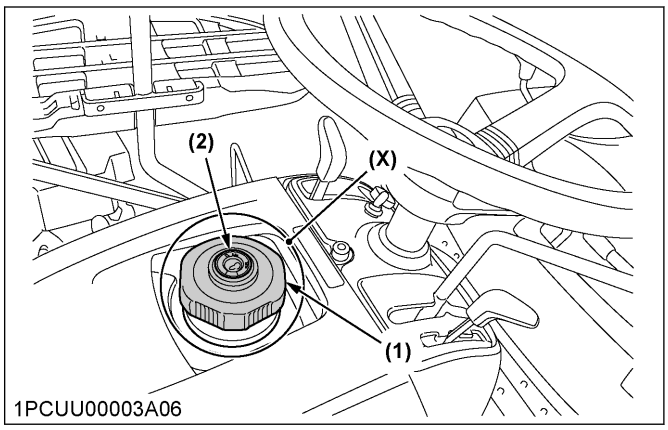


(1) 燃料キャップ
(2) 感知部

補足：
- **燃料の補給後は、燃料キャップを確実に取付けてください。燃料キャップの締忘れや締付け不足があると、燃料キャップが脱落するおそれがあります。**

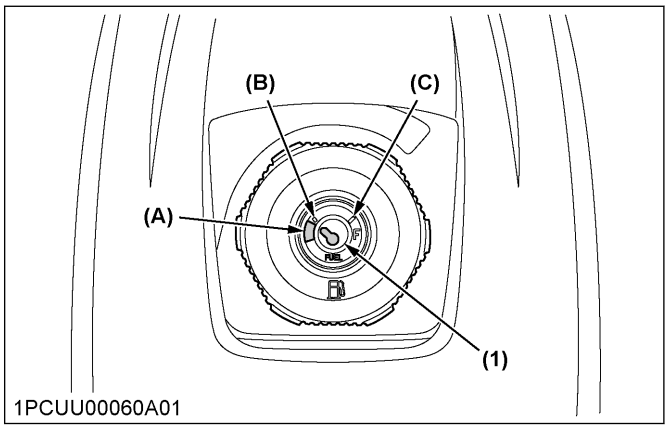
6.1.1 給油

燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め、燃料キャップを外してください。
燃料計のゲージは燃料満杯時（約 4.2 L）で**[F]**位置です。また、燃料計のゲージが赤色の線まで下がった時の燃料の残量は約半分です。さらに燃料の残量が減り、半分以下になっても燃料計ゲージが赤色の線から下がらないため、残量に注意しながら燃料がなくなる前に給油してください。

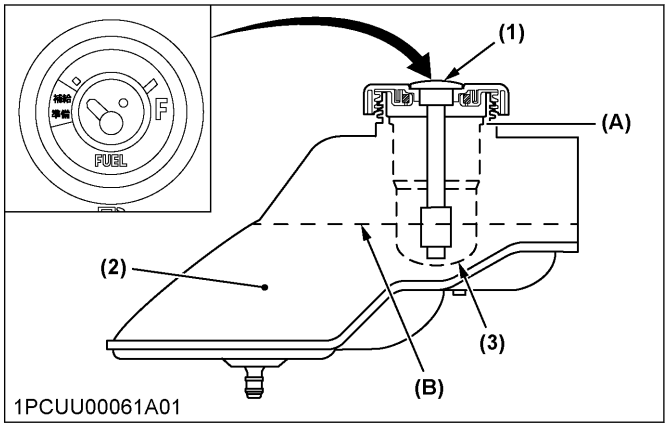


(1) 燃料キャップ（給油口）
(2) 燃料計

X 部拡大図



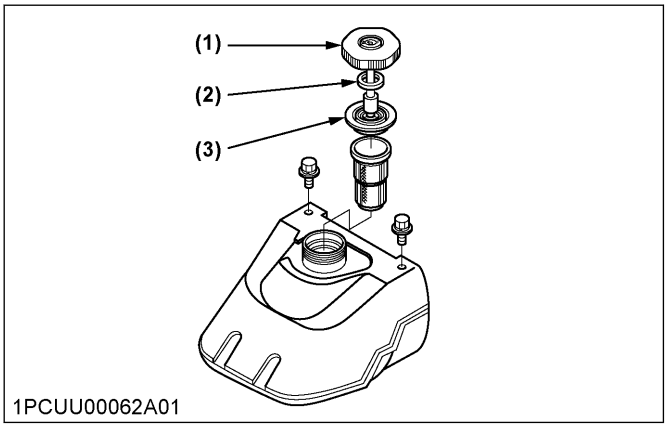
(1) 燃料ゲージ
(A) ***[補給準備]***位置
(B) 燃料残量半分位置（残量 *1/2* 位置）
(C) 燃料満杯位置（***[F]***位置）



(1) 燃料キャップ
(2) 燃料タンク
(3) 燃料こしあみ
(A) *4.2 L*（満杯）
(B) 約半分以下になると燃料ゲージが動かないので注意してください

補足：

- **燃料計の[補給準備]位置まで燃料ゲージは下がりませんが、植付作業を始める前に燃料ゲージが赤色の線まで下がっているとき、作業前に燃料を満杯状態まで補給していただくために表示しています。**
- **燃料ゲージが赤色の線まで下がっているとき、燃料キャップを取外して燃料の残量を確認してください。**
- **燃料キャップを締付けるとき、キャップ裏側にあるスポンジやパッキンをなくさないようにしてください。**

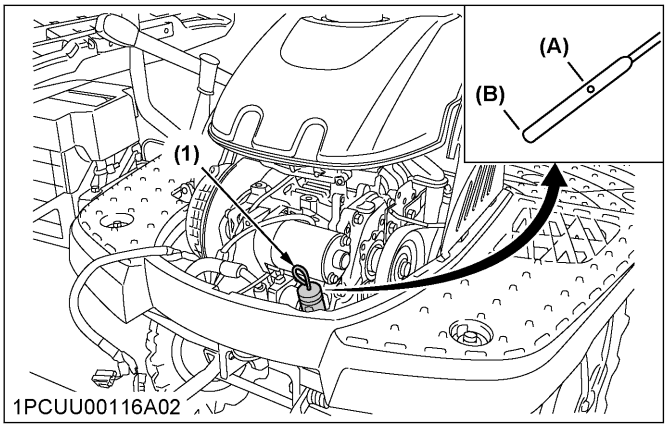


(1) 燃料キャップ
(2) スポンジ
(3) パッキン

6.2 エンジンオイルの点検・補給・交換

点検・補給

ボンネットを開いたあと、オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き、ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



(1) オイルゲージ（給油口）
(A) 上限
(B) 下限

補足：

- **エンジンオイルが白く濁っている場合は、10～30分程度暖機運転を行なってください。白く濁る原因となるオイル内の水分がなくなり、オイルの濁りが取れやすい場合があります。**

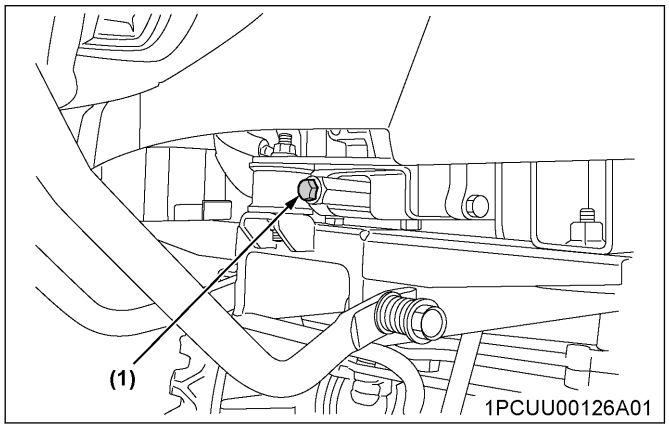
交換

排油のしかた

⚠ 警告

- **マフラやエンジンオイルがじゅうぶん冷えてからオイルを排出してください。**

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。



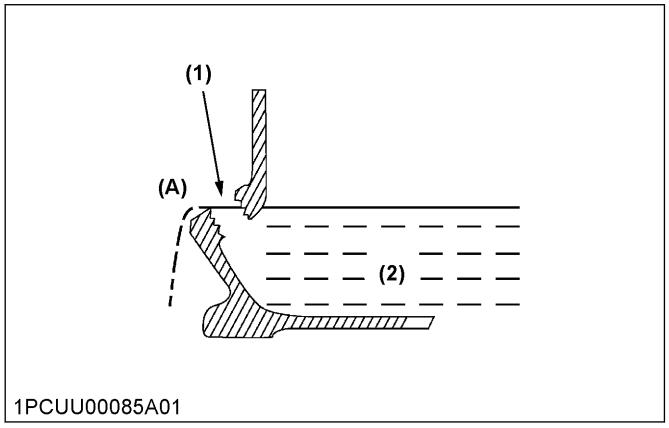
(1) 排油プラグ（排油口）

給油のしかた

ドレーンプラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを締付けてください。

補足：

- **給油するときは、給油口からオイルがあふれるまで入れてください。オイルがあふれるところが上限の位置です。**



(1) 給油口
(2) オイル
(A) あふれるまで入れる

重要：

- **指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。**

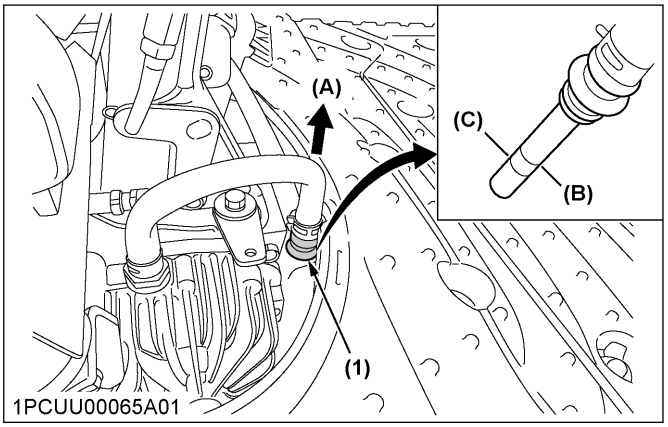
オイルの種類	オイル容量
三菱スーパーマルチ GD オイル	0.55 L

- **指定オイルの入手が困難な場合は、API 分類 SE 級以上のオイルをお使いください。**

6.3 ミッションオイルの点検・補給・交換

点検・補給

植付部を下降させたあと、副変速レバーを**[圃場作業]**位置にします。そのあと、ボンネットを開けて固定し、リヤカバーを取外し、その中にあるオイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み、いっぱいまで押込んでから抜き、ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。

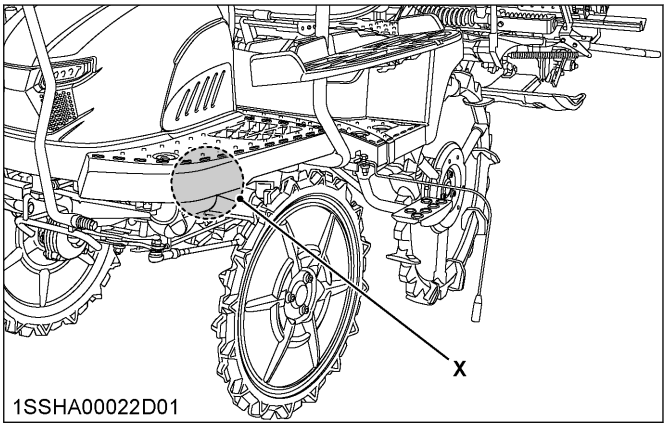


(1) オイルゲージ（給油口）
(A) 抜く
(B) 上限
(C) 下限

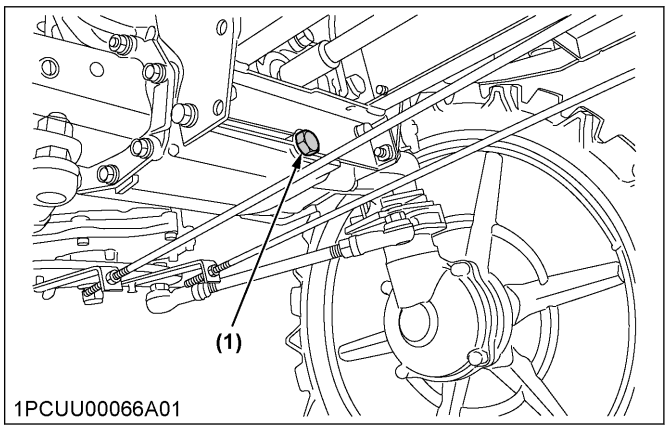
交換

排油のしかた

オイルゲージを外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。



X 部拡大図



(1) 排油プラグ（排油口）

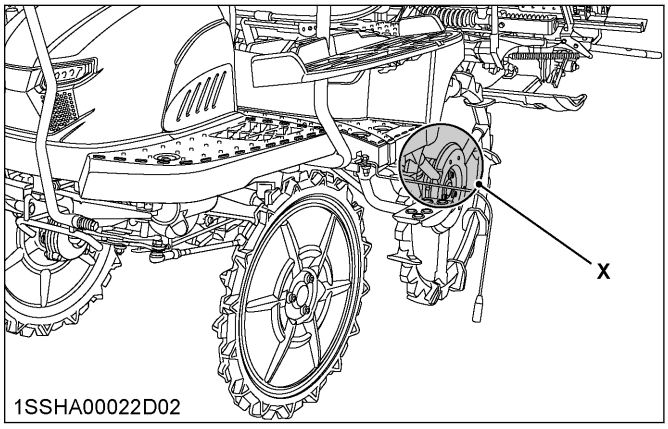
給油のしかた
排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル量
スーパー UDT-2	約 3.4 L

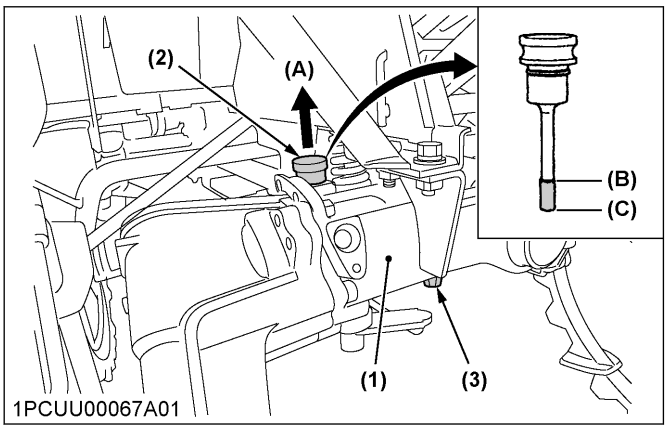
重要：
- **給油したあとエンジンを約 1 分程度回転させて再度点検を行ない、不足しているときはオイルを追加補給してください。**

6.4 後車軸ケースオイルの点検、補給、交換

点検・補給
オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜き、ゲージにオイルが付着しているか点検します。ゲージにオイルが付着していないときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



X 部拡大図



(1) 後輪軸ケース
(2) オイルゲージ（給油口）
(3) 排油プラグ（排油口）
(A) 抜く
(B) 上限
(C) 下限

交換

排油のしかた
オイルゲージを外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

給油のしかた
排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを差込んで, 先端にオイルが付着しているか点検してください。

オイルの種類	オイル容量
スーパー UDT-2	約 1.2 L

7. 燃料フィルタポットの点検・掃除

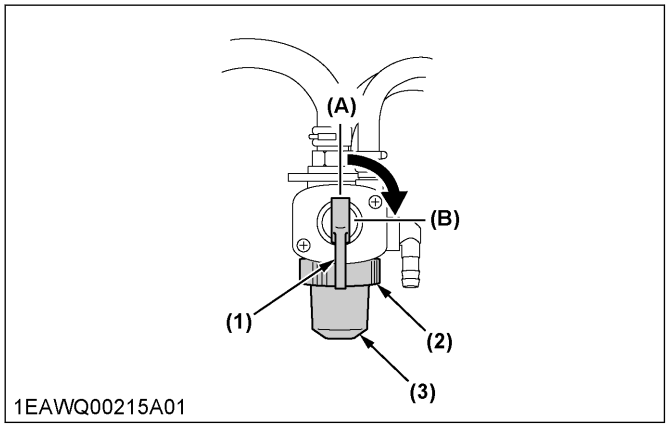
掃除は燃料を給油する前に行なってください。

⚠ 警告
- **点検・掃除中は火気厳禁です。**

重要：
- **燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタのエレメントの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなります。**
- **フィルタポット下部に水が溜まっているときは、早目に掃除又は交換してください。**

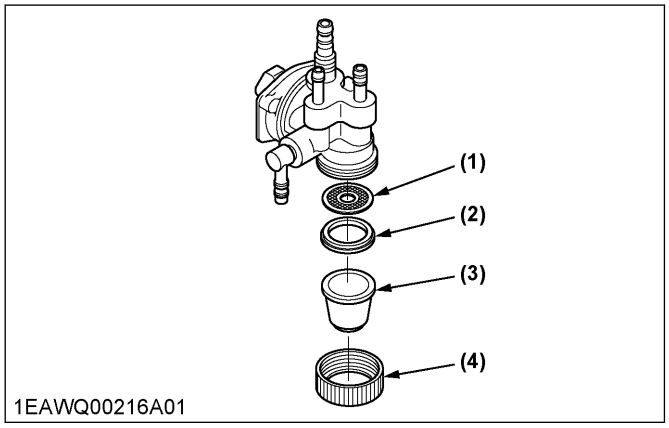
点検・掃除

1. 燃料コックレバーを**［運転］（開）**位置から**［停止］（閉）**位置にします。



(1) 燃料コックレバー
(2) リングネジ
(3) フィルタポット
(A) ［運転］（開）
(B) ［停止］（閉）

2. リングネジをゆるめてポットを外します。
3. エレメントを取出してガソリンで洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき、汚れのひどい場合は交換してください。



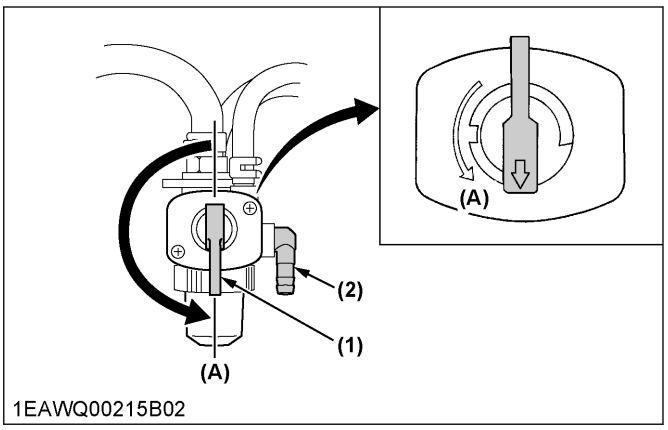
(1) エレメント
(2) パッキン
(3) フィルタポット
(4) リングネジ

重要：
- **エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また、失くさないでください。**
- **汚れ（目詰まり）がひどい場合は、充分洗浄を行なわないと短時間で目詰まりします。**

4. パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重要：
- **ゴミが燃料内に混入すると、故障の原因となります。**

補足：
- **長期格納時、燃料コックレバーを［排出］位置にすると、ドレーンからキャブレタ内と燃料タンク内の燃料を排出します。**



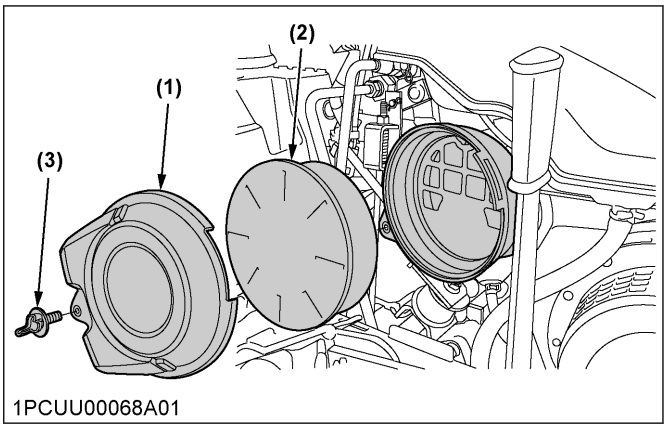
(1) 燃料コックレバー
(2) ドレーン
(A) ［排出］

8. エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換

重要：
- **エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。**

点検・掃除

1. ボンネットを開いたあと、蝶ボルトを外して、エアクリーナのカバーを取外します。
2. エレメント（スポンジ）を取外し、灯油又は、家庭用洗剤で洗浄（もみ洗い）をします。このとき、汚れや破損のひどい場合は交換してください。
3. エレメント（スポンジ）を乾燥させます。
4. エンジンオイルに浸して固く絞ってから取付けたあと、エアクリーナのカバーを取付けます。



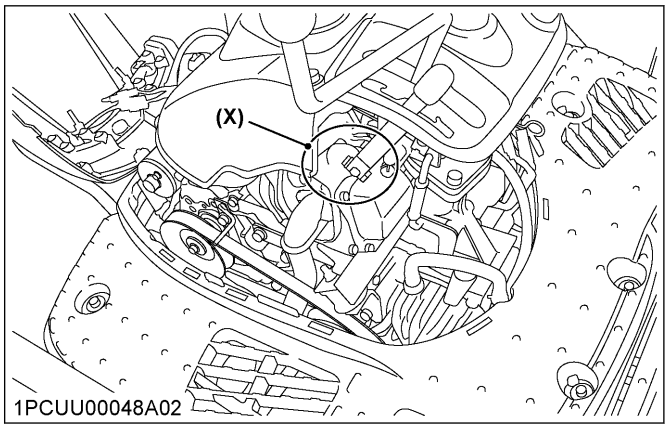
(1) エアクリーナカバー
(2) エレメント
(3) 蝶ボルト

9. 点火プラグの点検・掃除・調整

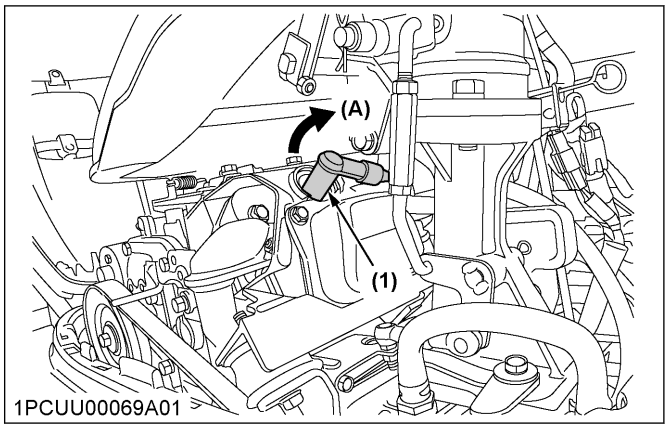
警告
- **点火プラグの取外しは、エンジンが冷えた状態で行なってください。**

重要：
- **点火プラグの電極が溶けて、すき間が広がったり、カーボンが付着したり、碍子（ガイシ）部が損傷するとエンジンの不調の原因となります。**

点検・掃除・調整
1. ボンネットを開いたあと、リヤカバーを外します。（64 ページ参照）
2. 点火プラグのキャップを外します。
3. ボックススパナでプラグを取外します。

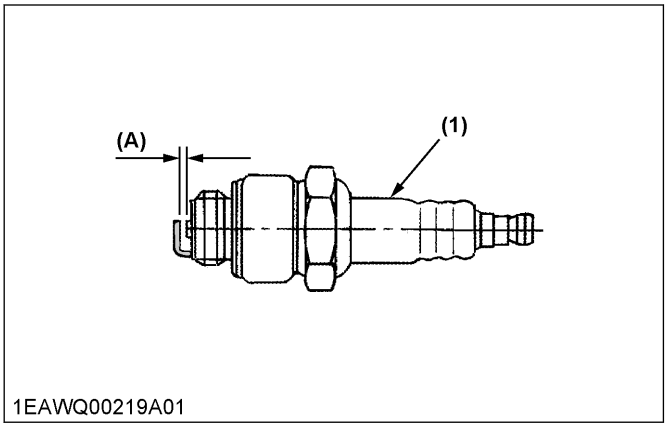


X 部拡大図



(1) 点火プラグキャップ　　*(A)* 外す

4. ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと、電極のすき間を確認し、異常があれば、すき間調整又は、点火プラグの交換を行ないます。すき間は、0.6～0.7 mm に調整します。



(1) 点火プラグ　　*(A)* すき間：*0.6～0.7 mm*

補足：
- **点火プラグを交換するときは、必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると、失火や始動不良を起こすおそれがあります。**

点火プラグ型式	数量	型式
BPR4ES (NGK)	1	全型式

10. パイプ・ホース類の点検・交換

警告
- **燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起こし火災の原因となります。**

点検
エンジン、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し、油もれや水もれが発生しているときは、パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

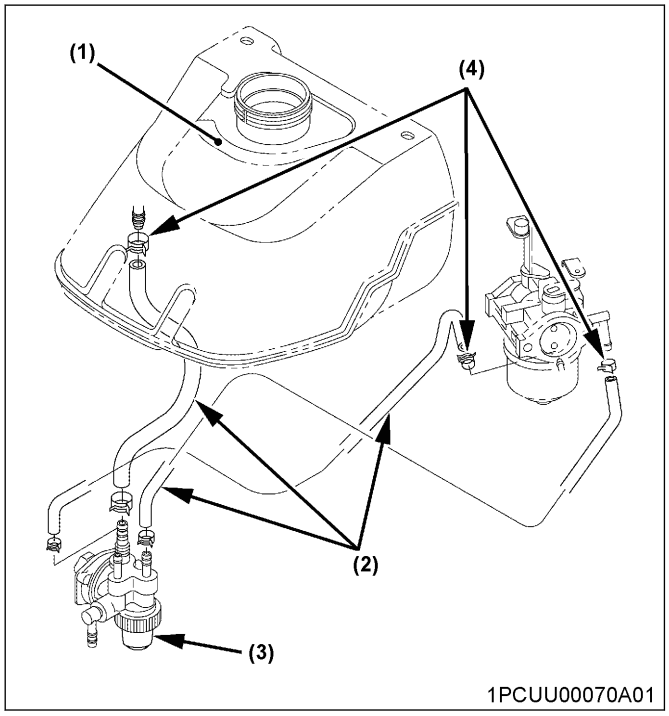
重要：
- **油もれや水もれをしていなくても、2 年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。**

交換
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ、締付不足がないよう取付けてください。

重要：
- **交換時にパイプなどにゴミが入らないように注意してください。**

補足：
- **交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。**

- **燃料パイプ**

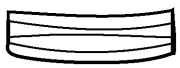
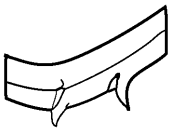
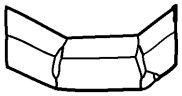


(1) 燃料タンク
(2) 燃料パイプ
(3) 燃料フィルタ
(4) 各バンド

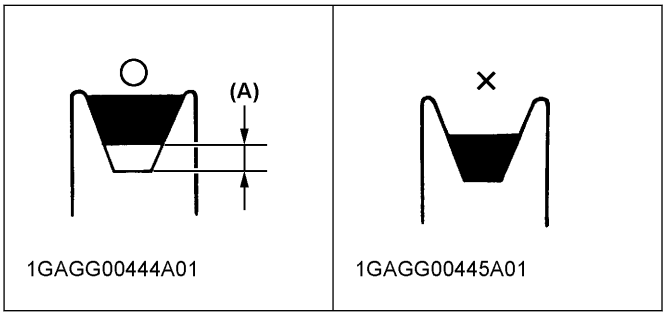
11. ミッション駆動ベルトの点検

ベルトを点検するときは、下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ

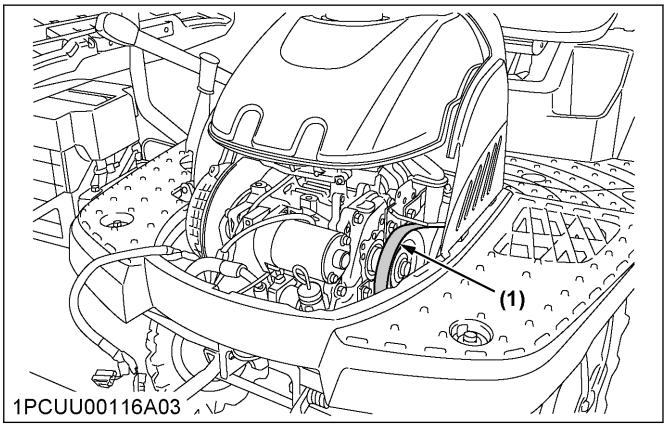
焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
 1GAGG00441A01	 1GAGG00442A01	 1GAGG00443A01

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



(A) すき間

上記の事項を確認したとき、異常があれば購入先へ連絡してベルト交換を行なってください。



(1) ミッション駆動ベルト

重要：
- **ベルトは必ず純正のものを使用してください。**

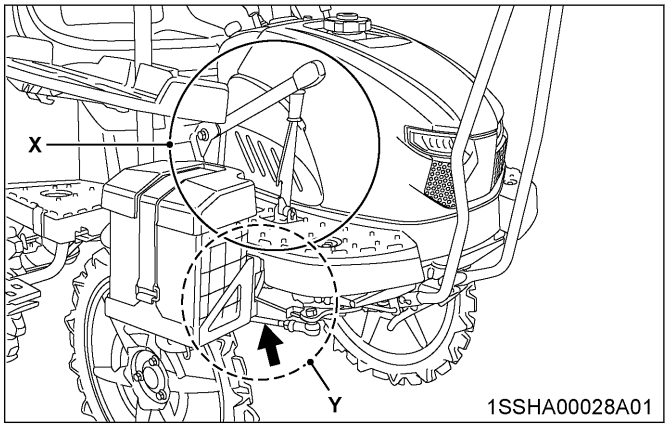
12. ブレーキペダルの点検、調整

点検・調整を行なうときは、ボンネット及び左右のリヤカバーを取外してください。

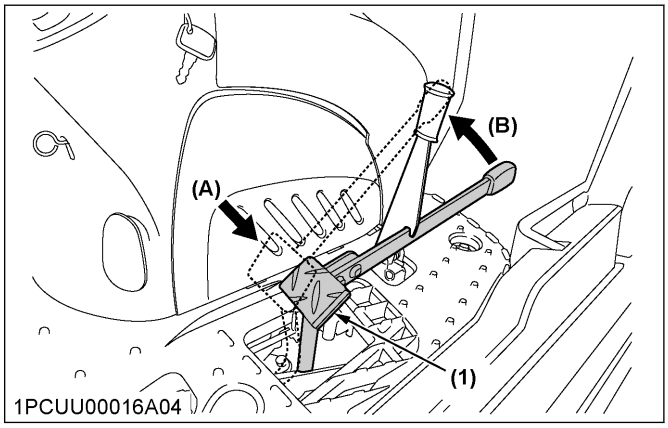
点検・調整

1. ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。

2. ブレーキロッドとテンションアームのすき間を測定します。

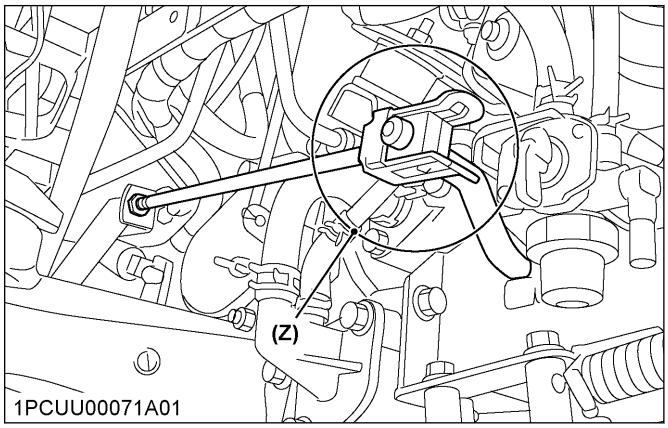


X 部拡大図

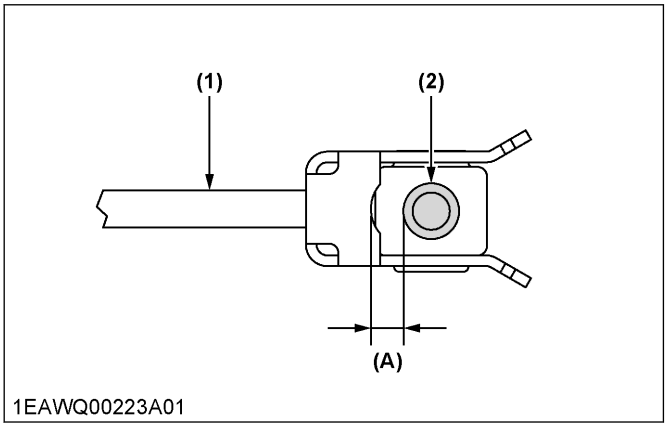


(1) ブレーキペダル
(A) 踏み込む
(B) 解除

Y 部拡大図

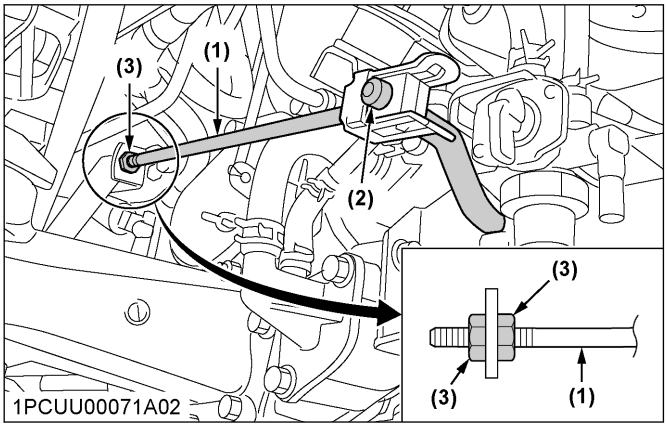


Z 部拡大図



(1) ブレーキロッド
(2) テンションアーム
(A) すき間：*4～6 mm*

3. すき間が規定値 4～6 mm の範囲から外れているときは、すき間の調整を行ないます。
   a. 調整ナット 2 個をゆるめます。
   b. 調整ナットですき間を調整します。
   c. 調整ナット 2 個を締付けます。



(1) ブレーキロッド
(2) テンションアーム
(3) 調整ナット

4. 点検の 1～3 を行ない、すき間の再確認をし、規定値から外れているときは、再調整します。

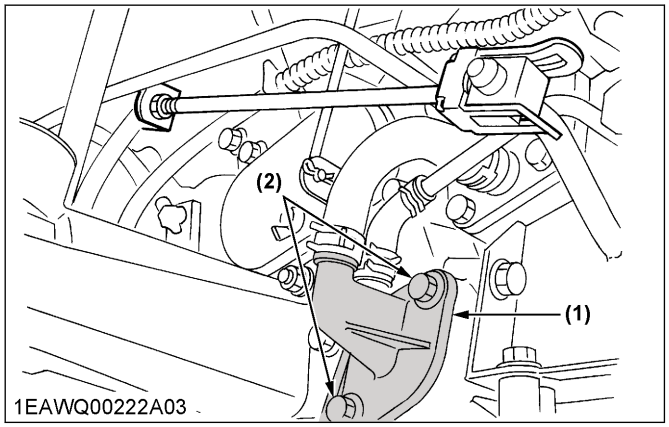
13. ミッションオイルフィルタの点検、掃除、交換

ミッションオイルの交換と同時にオイルフィルタの掃除を行なってください。

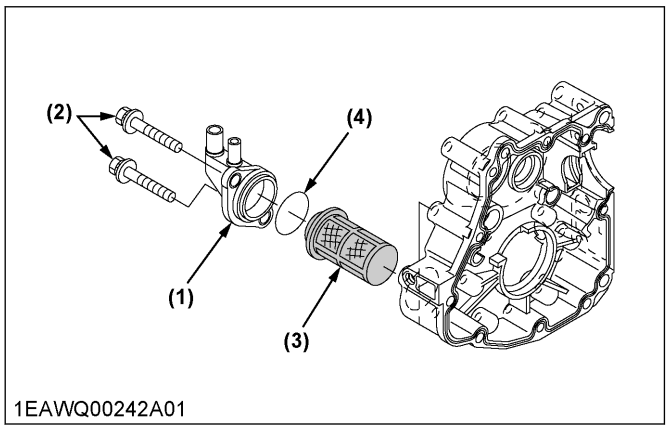
点検・掃除・交換

1. 植付部を降ろします。
2. ミッションオイルを排出します。
   （74 ページ参照）

3. ボルト 2 本を取外してカバーを引出して、オイルフィルタを抜出して掃除します。また、汚れのひどい場合は交換してください。



(1) カバー
(2) ボルト



(1) カバー
(2) ボルト
(3) オイルフィルタ
(4) O リング

重要：
- **O リングは傷つけないようにしてください。また、失くさないでください。**
- **汚れ（目詰まり）がひどい場合は、十分洗浄を行なわないと短時間で目詰まりします。**

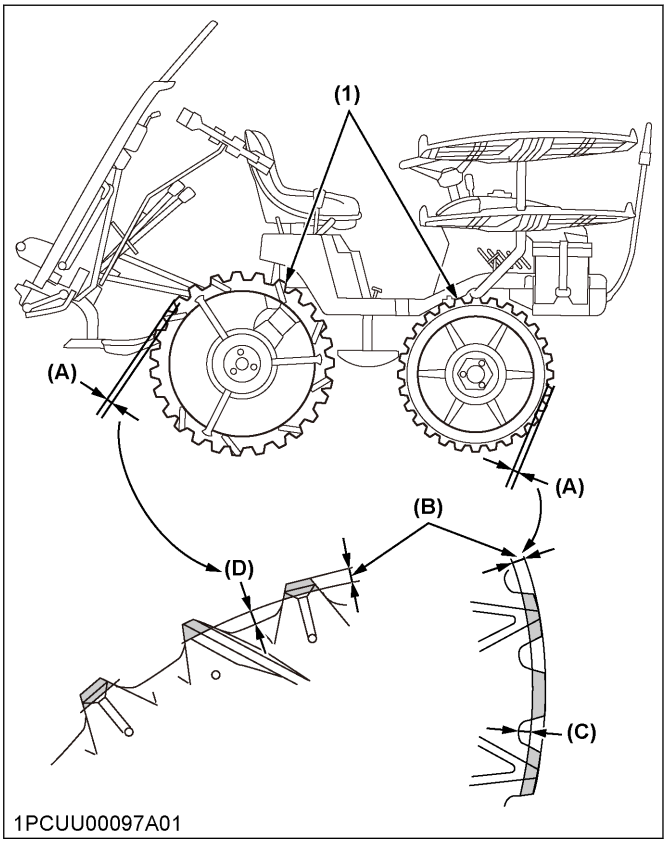
4. オイルフィルタを取付けたあと、カバーをボルトで締付けます。
5. オイルゲージの上限線までミッションオイルを補給したあと、5 分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめておいてください。

重要：
- **ミッションオイルを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、ミッションの故障の原因となります。**
- **給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて、オイルゲージで点検を行ない、下限より少ないときは、オイルを追加補給してください。**

14. タイヤの点検

⚠ 警告
- **タイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなるため、あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。**

前輪・後輪共にタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し、8 mm 以上摩耗している場合や、破損がひどい場合は、購入先に連絡して交換してください。



(1) タイヤ

(A) 摩耗量
(B) 摩耗量：*8 mm* 以内
(C) 残り：*12 mm*
(D) 残り：*13 mm*

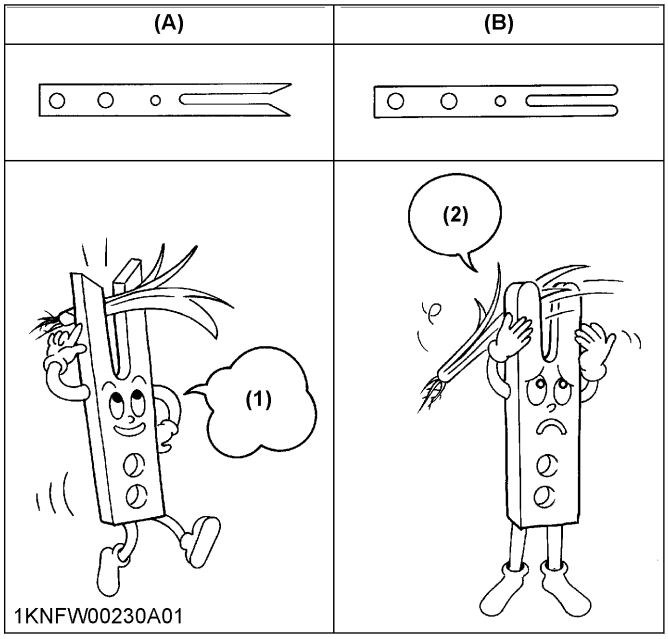
補足：
- **ゴムタイヤはオゾンなどの影響による表面のひび割れ防止のため、表面に保護膜を張っています。また、ゴムタイヤの保管状態により表面が変色する場合がありますが、異常ではありません。**

15. ビーク・フォークの点検・調整・交換 [クランク仕様]

警告

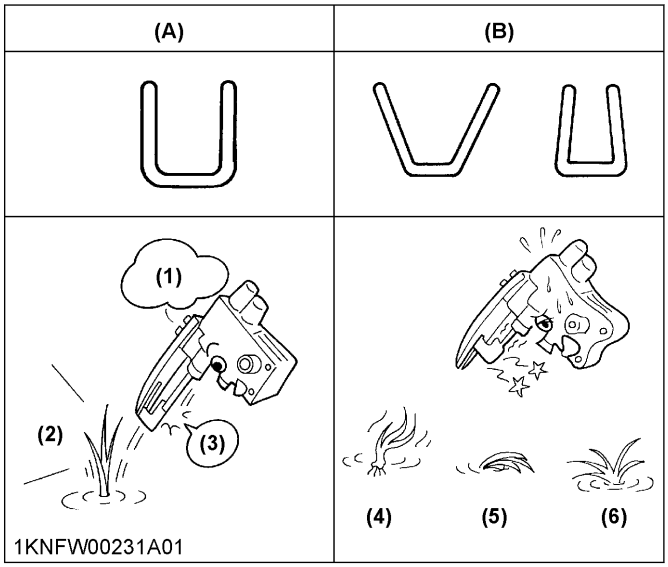
- **ビークに接触すると手を傷つけるおそれがあるので、ビークの交換・調整・清掃、苗取出し口の異物の除去、残り苗の取出しなどを行なうときは、エンジンを必ず止めてください。**

ビーク



(1) ナイスキャッチ！
(2) ポロッ
(A) 使用可能
(B) 交換必要

フォーク

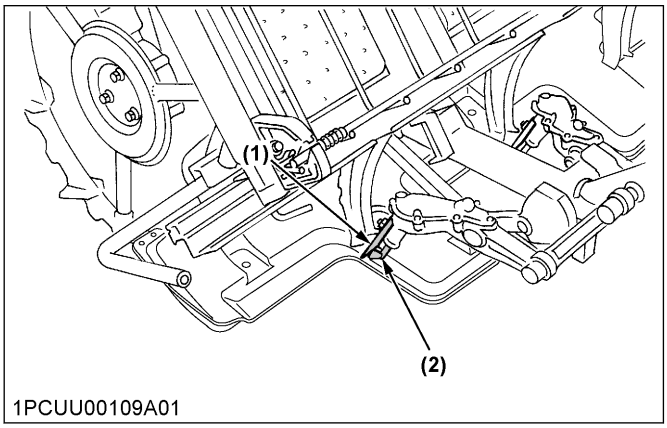


(1) エイッ！
(2) シャキッ！
(3) ポン
(4) うき苗
(5) ころび苗
(6) ばらけ苗
(A) 使用可能
(B) 交換必要

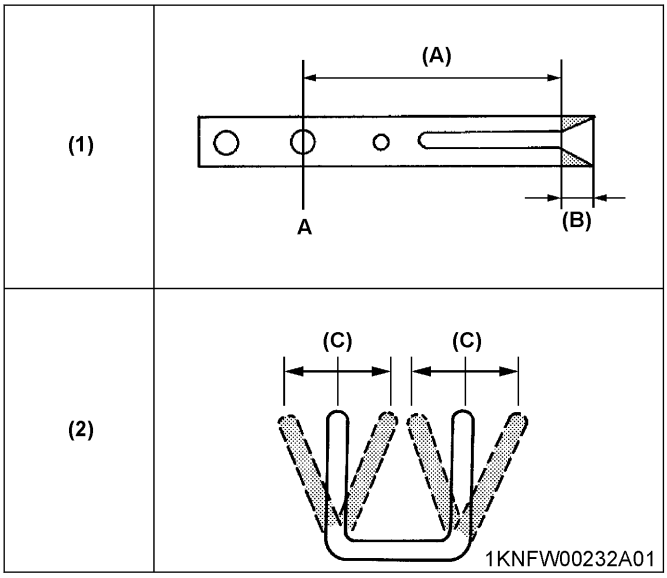
ビークが摩耗や破損すると、苗の取出しができなくなるため、植付不良となり、フォークが変形や破損をすると、うき苗・ころび苗・ばらけ苗などの植付不良となりますので、定期点検をよく行なってください。

点検

1. 機体を平たんな場所に止めて、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。
2. ビークの摩耗状態やフォークの変形状態を確認します。
3. ビークの摩耗状態が 3 mm 以内のときは、ビークゲージで高さ調整を行ない、3 mm 以上（A 位置から残り 80 mm）摩耗しているときは交換してください。また、フォークの変形量により、フォークの押出し確認又は、購入先に連絡して交換してください。



(1) ビーク
(2) フォーク

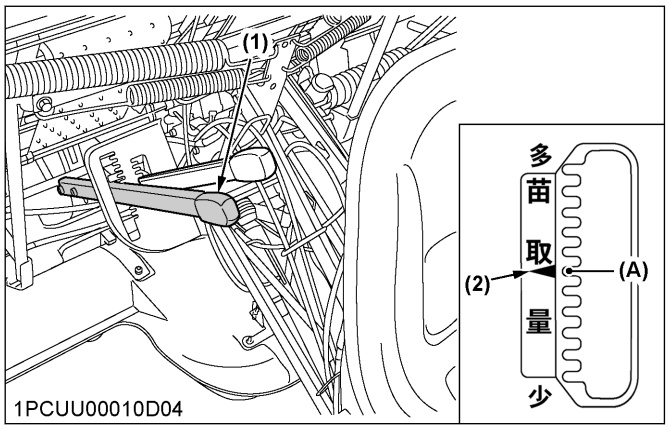


(1) ビーク
(2) フォーク（正面図）
(A) *80 mm*
(B) 摩耗量：*3 mm* 以下
(C) 変形

ビークの調整

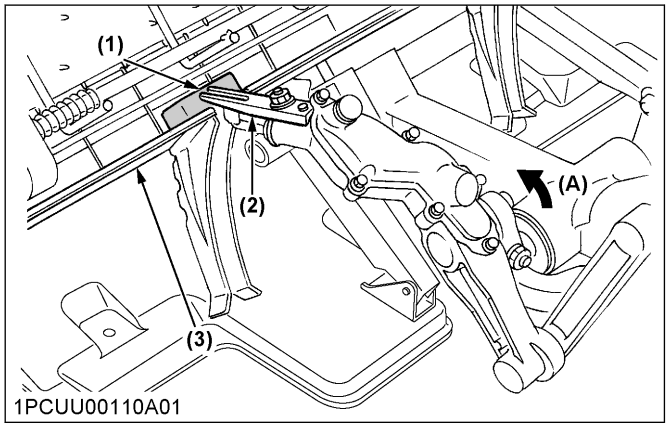
1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させ、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にし、植付部の下降防止を行ないます。

2. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
3. 植付クラッチレバーを**[植付]**位置にします。
4. 主変速レバーをゆっくりと**[前進]**側に操作して、植付部を駆動させ、苗のせ台を中央位置まで移動し、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にして植付部の駆動を停止します。
5. 駐車ブレーキを掛けたあと、エンジンを停止します。
6. 植付本数調節レバーをいったん一番上まで動かしたあと、標準位置の**[多]**い方から 6 段目の切欠溝にセットします。



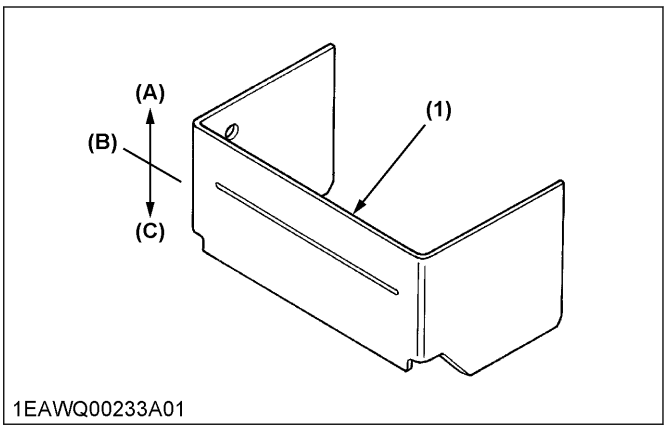
(1) 植付本数調節レバー　　*(A)* 標準位置
(2) 赤印

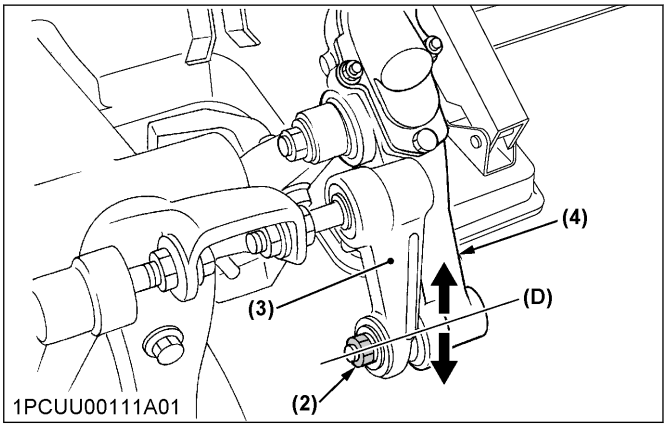
7. エプロンの切欠部にビークゲージを図のようにセットし、ビークがゲージに当たるまで手で回します。



(1) ビークゲージ　　*(A)* 回す
(2) ビーク
(3) エプロン

8. 植付アームと揺動アームを締付けているナットをゆるめます。
9. ビークの先端をビークゲージの**[苗取量 13]**（13 mm）の線に軽く接触させて、樹脂ハンマー等で植付アームを軽くたたいて調整し、**[苗取量 13]**（13 mm）の線と合わせます。





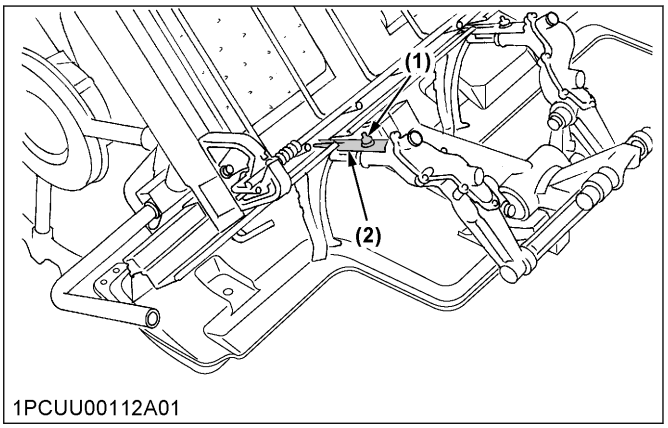
(1) ビークゲージ　　*(A)* 苗取り量：[多]
(2) ナット　　*(B)* 苗取り量：*13 mm*
(3) 揺動アーム　　*(C)* 苗取り量：[少]
(4) 植付アーム　　*(D)* 調製

10. 植付アームと揺動アームを締付けているナットを締付けます。

補足：
- **他のビークも同じ要領で行なってください。**

ビークの交換

1. **ビークの調整**の 1.と 2.を行ないます。
2. ビークを取付けているナットを取外します。



(1) ナット
(2) ビーク

3. 新しい爪と交換します。

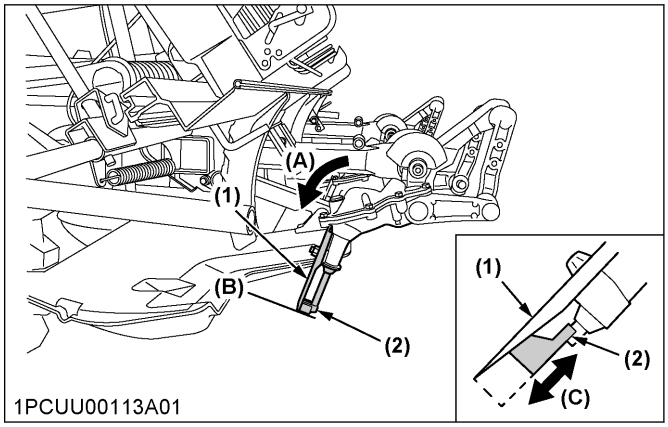
補足：
- **ビークは、常に 1 台分の予備を準備しておいてください。**

4. ナットを締付けます。
5. **ビークの調整**の 3.～8.を行なって爪の高さ調節を行ないます。

フォークの動作確認
1. **ビークの調整**の 1.と 2.を行ないます。
2. 植付クラッチレバーを**[植付]**位置にします。

補足：
- **植付クラッチレバーが[植付]位置以外のときは、ビークが下まで動きません。**

3. ビークを手で回して、最下端のときにフォークとビークのそれぞれの先端が揃っていることを確認します。



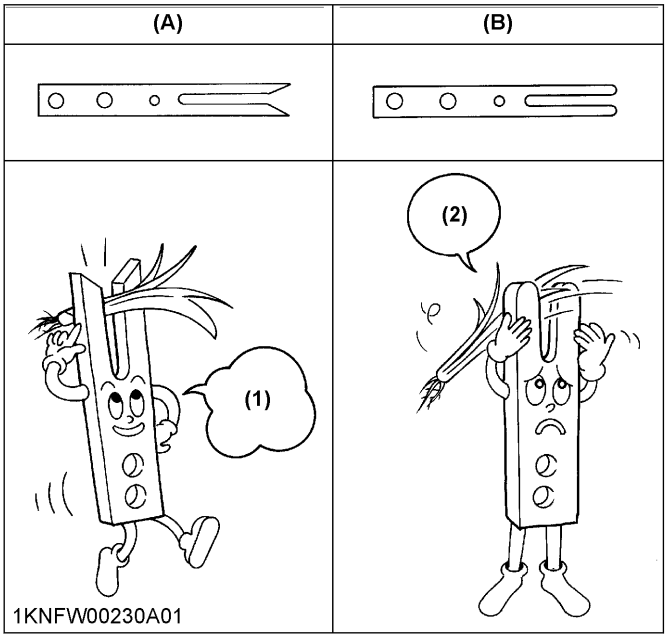
(1) ビーク
(2) フォーク
(A) 回す
(B) 揃っていること
(C) 軽く動くこと

4. フォークの変形や破損で動かないときは、購入先に連絡して交換してください。

16. ビーク・フォークの点検・調整・交換 [H：ロータリー仕様]

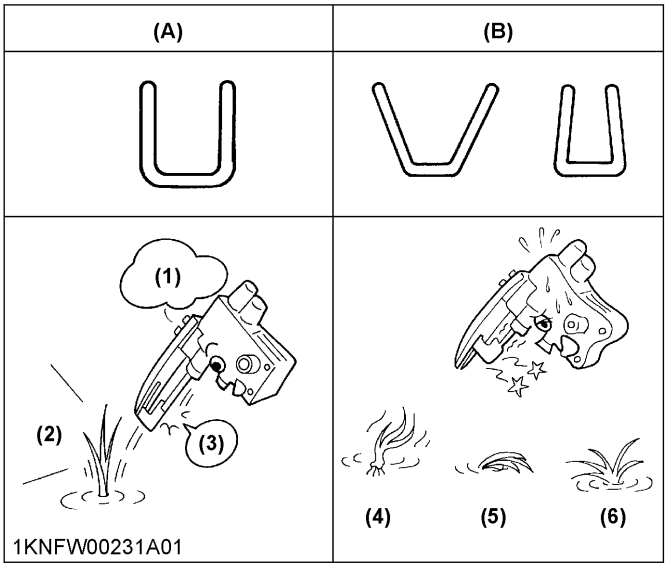
警告
- **ビークに接触すると手を傷つけるおそれがあるので、ビークの交換・調整・清掃、苗取出し口の異物の除去、残り苗の取出しなどを行なうときは、エンジンを必ず止めてください。**

ビーク



(1) ナイスキャッチ！
(2) ポロッ
(A) 使用可能
(B) 交換必要

フォーク

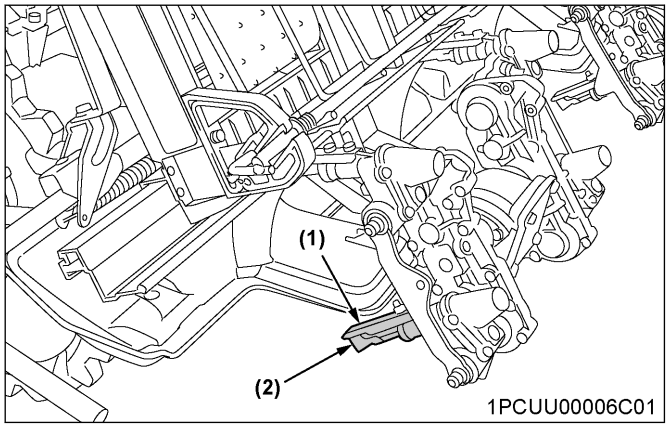


(1) エイッ！
(2) シャキッ！
(3) ポン
(4) うき苗
(5) ころび苗
(6) ばらけ苗
(A) 使用可能
(B) 交換必要

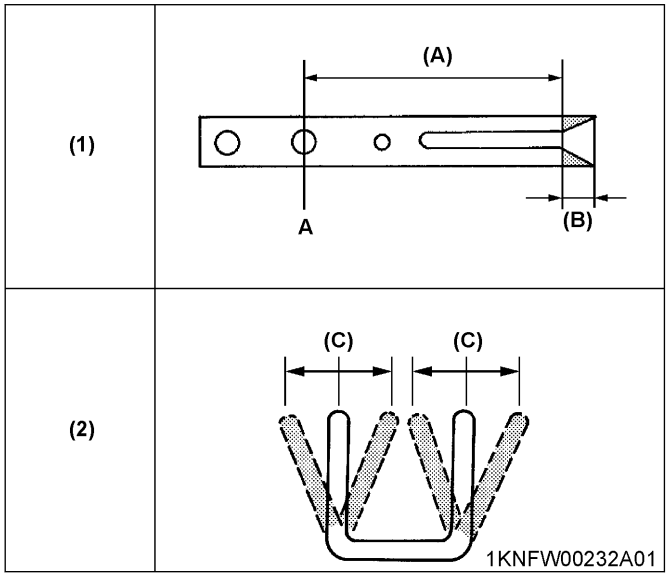
ビークが摩耗や破損すると、苗の取出しができなくなるため、植付不良となり、フォークが変形や破損をすると、うき苗・ころび苗・ばらけ苗などの植付不良となりますので、定期点検をよく行なってください。

点検
1. 機体を平たんな場所に止めて、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。
2. ビークの摩耗状態やフォークの変形状態を確認します。

3. ビークの摩耗状態が 3 mm 以内のときは、ビークゲージで高さ調整を行ない、3 mm 以上（A 位置から残り 80 mm）摩耗しているときは交換してください。また、フォークの変形量により、フォークの押出し確認又は、購入先に連絡して交換してください。



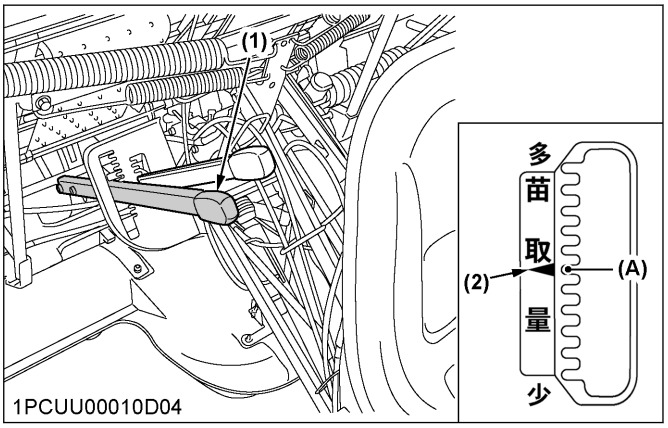
(1) ビーク
(2) フォーク



(1) ビーク
(2) フォーク（正面図）
(A) *80 mm*
(B) 摩耗量：*3 mm* 以下
(C) 変形

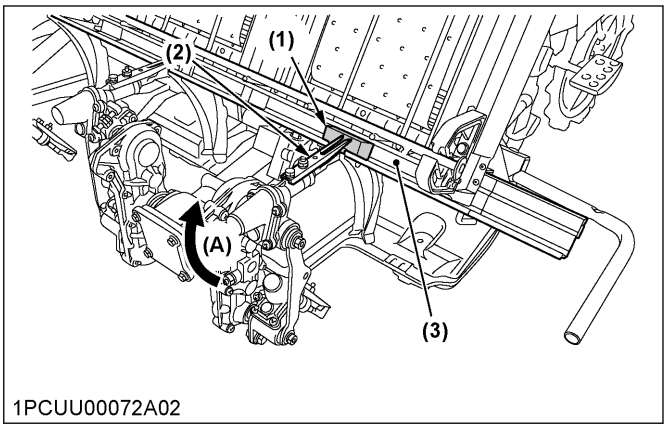
ビークの調整

1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させ、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にし、植付部の下降防止を行ないます。
2. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
3. 植付クラッチレバーを**[植付]**位置にします。
4. 主変速レバーをゆっくりと**[前進]**側に操作して、植付部を駆動させ、苗のせ台を中央位置まで移動し、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にして植付部の駆動を停止します。
5. 駐車ブレーキを掛けたあと、エンジンを停止します。
6. 植付本数調節レバーをいったん一番上まで動かしたあと、標準位置の**[多]**い方から 6 段目の切欠溝にセットします。



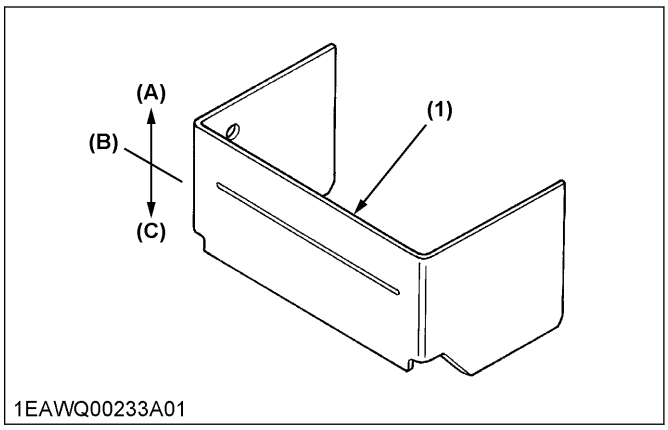
(1) 植付本数調節レバー
(2) 赤印
(A) 標準位置

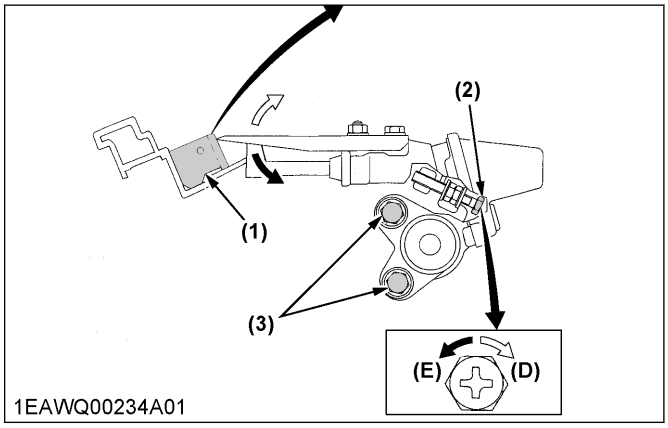
7. エプロンの切欠部にビークゲージを図のようにセットし、ビークがゲージに当たるまで手で回します。

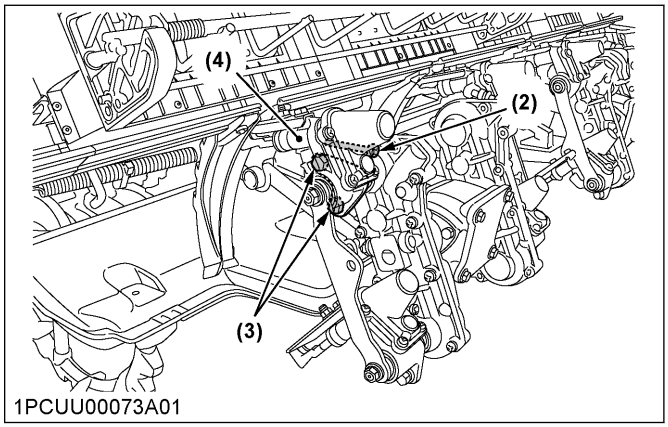


(1) ビークゲージ
(2) ビーク
(3) エプロン
(A) 回す

8. 植付アームの締付ボルト 2 本をゆるめます。
9. 爪高さ調節ボルトは、ビークをビークゲージに軽く接触させ、爪を上に持上げた状態で（上下方向に爪を動かすとガタがあるため）、ドライバやスパナを使い、右又は左に回して、爪の先端をビークゲージの**[苗取量 13]**（13 mm）の線に合わせます。





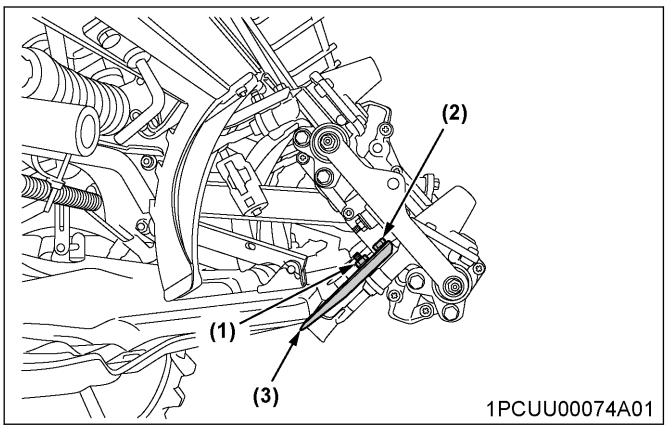


(1) ビークゲージ
(2) 爪高さ調節ボルト
(3) 締付けボルト
(4) 植付アーム
(A) 苗取り量：[多]
(B) 苗取り量：*13 mm*
(C) 苗取り量：[少]
(D) 爪下がる
(E) 爪上がる

10. 植付けアームの締付ボルト 2 本を締付けたあと、爪高さ調節ボルトを軽く締付けます。
11. ビークを回転させたあと、もう 1 つのビークも同じ要領で調節します。

補足：
- **他のビークも同じ要領で行なってください。**

ビークの交換
1. **ビークの調整**の 1.と 2.を行ないます。
2. ビークを取付けているボルトとナットを取外します。



(1) ナット
(2) ボルト
(3) ビーク

3. 新しい爪と交換します。

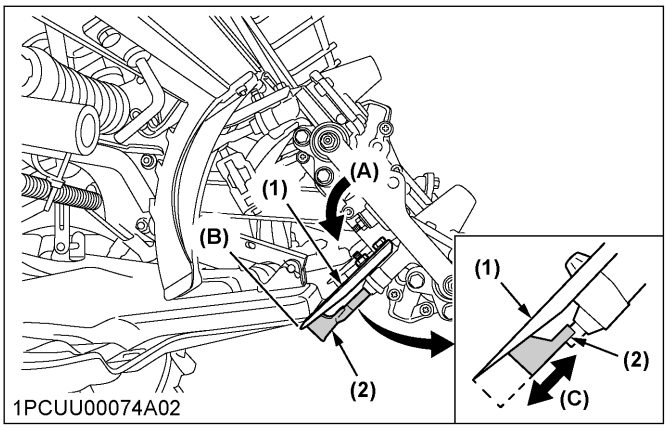
補足：
- **ビークは、常に 1 台分の予備を準備しておいてください。**

4. ボルトとナットを締付けます。
5. **ビークの調整**の 3.～8.を行なって爪の高さ調節を行ないます。

フォークの動作確認
1. **ビークの調整**の 1.と 2.を行ないます。
2. 植付クラッチレバーを**[植付]**位置にします。

補足：
- **植付クラッチレバーが[植付]位置以外のときは、ビークが下まで動きません。**

3. ビークを手で回して、最下端のときにフォークとビークのそれぞれの先端が揃っていることを確認します。



(1) ビーク
(2) フォーク
(A) 回す
(B) 揃っていること
(C) 軽く動くこと

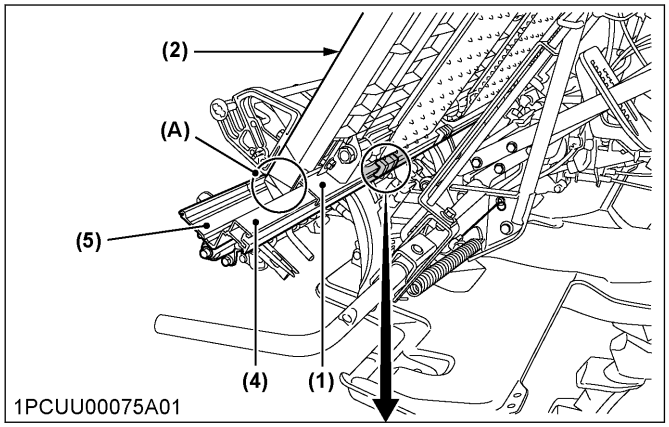
4. フォークの変形や破損で動かないときは、購入先に連絡して交換してください。

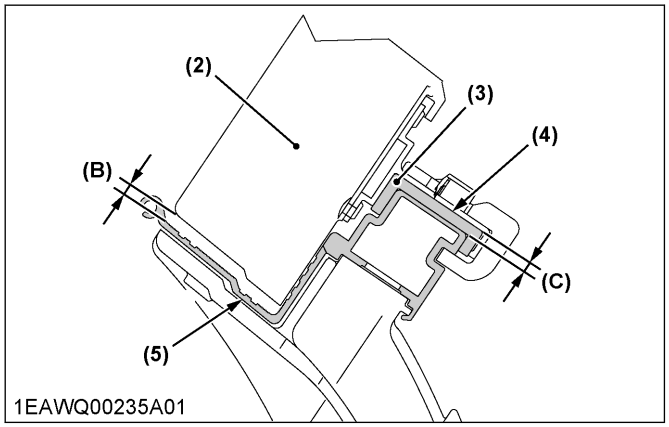
17. 苗のせ台のエプロンと受けの点検

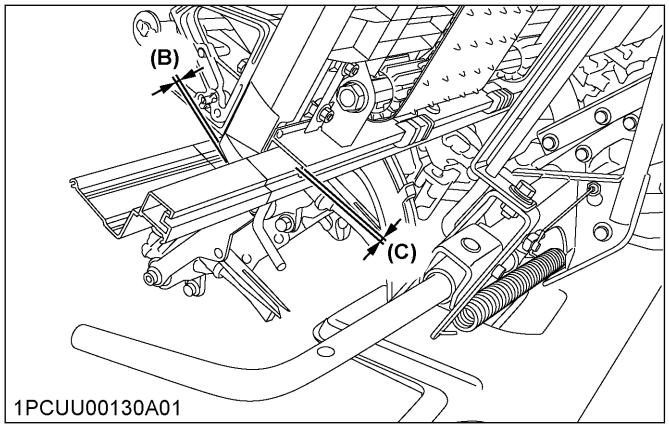
苗のせ台のしゅう動状態が悪くなると、正常な植付作業が行なえないおそれがありますので点検してください。

点検

エプロン上面と苗のせ台受けの入っているしゅう動フレーム終端のすき間を測り、2 mm 以下のときは苗のせ台とエプロン下面が接触しますので購入先に連絡してください。



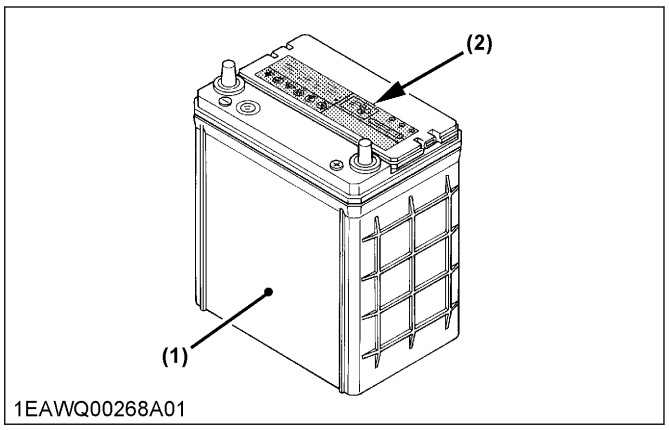




(1) しゅう動フレーム
(2) 苗のせ台
(3) 苗のせ台受け
(4) エプロン上面
(5) エプロン下面
(A) 接触しないこと
(B) すき間：*0～1 mm*
(C) すき間：*3 mm*

18. バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの安全ラベルをよく読んでください。



(1) バッテリ
(2) 取扱いの安全ラベル

補足：

- **出荷時は、補水不要のバッテリです。**

点検

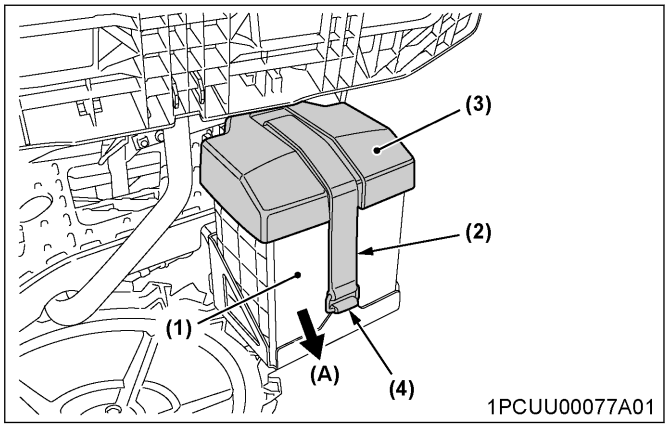
警告

バッテリが破損する、傾くなどして、液漏れが発生しているときは、次の事項を遵守してください。

- **バッテリ液が身体または衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
- **バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。**

バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。

1. バッテリを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリの上部カバーをステップ側に置きます。

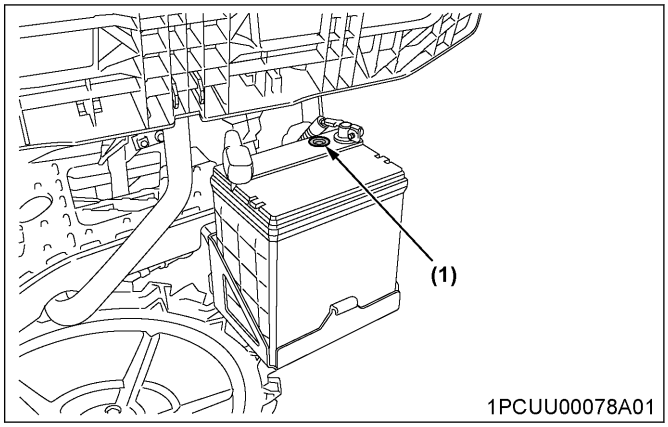


(1) バッテリ
(2) ゴムバンド
(3) バッテリ上部カバー
(4) フック部
(A) 外す

2. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

a. バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し、処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



(1) インジケータ

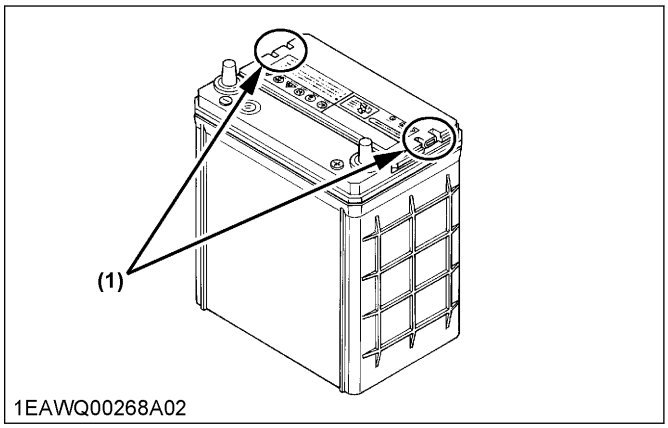
補足：
- **インジケータは真上から確認してください。**

b. バッテリが破損して液漏れが発生しているときは、交換します。

重要：
- **バッテリから液漏れが発生すると車体が腐食する原因となります。**

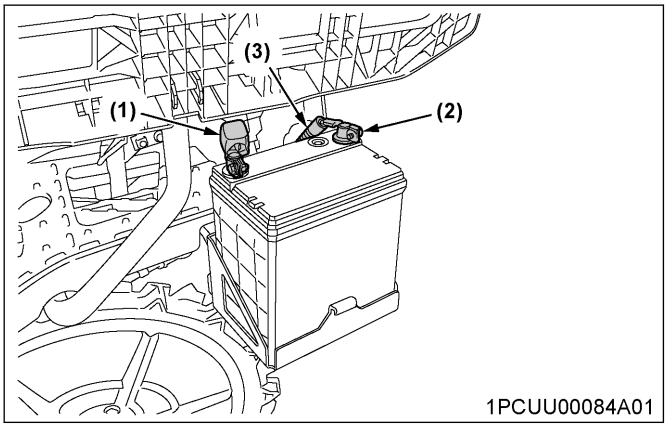
c. ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除します。

重要：
- **排気口をふさぎますと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口

d. バッテリケーブルの破損がないか確認し、あればケーブルの交換を行います。また（+）端子または（-）端子にゆるみまたは腐食がないか確認し、あれば端子の増締めまたは掃除を行います。



(1) （−）端子
(2) （+）端子
(3) ケーブル

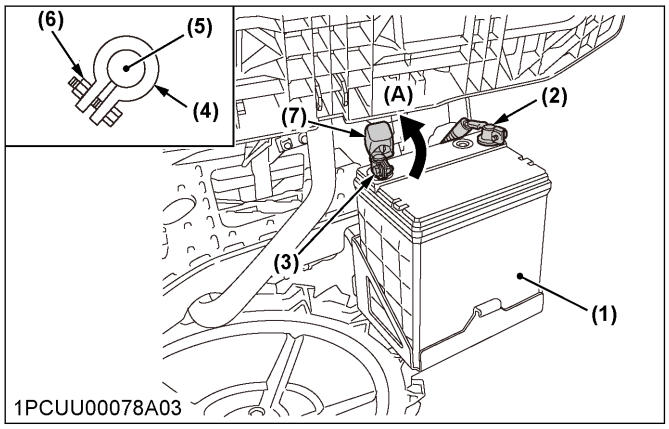
補充電・交換

⚠ 警告
- **バッテリは、以下の順序で取換えてください。順序を誤まると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。**
  - **取外し…（-）端子側（アース側）から外す。**
  - **取付け…（-）端子側（アース側）を最後に接続する。**
- **バッテリを投げたり、落としたり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となることがあります。**
- **バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。**
- **バッテリの取付け方向を間違えないでください。（+）と（-）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。**
- **補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また、補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- バッテリ電解液の減りが早い。

1. バッテリを機体から取外します。
   a. バッテリを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリの上部カバーをステップ側に置きます。（**[点検]**の項参照）
   b. （+）側のゴムキャップを外します。
   c. ケーブル端子のボルトとナットを取外し、端子からケーブル端子を取外します。取外すときは、必ず**（-）端子**側から取外します。

d. バッテリを取外します。



(1) バッテリ
(2) （−）端子
(3) （+）端子
(4) ケーブル端子
(5) 端子
(6) ナット
(7) ゴムキャップ
(A) 外す

重要：
- **バッテリを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。**

2. 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリの（+）を充電器の（+）側に、バッテリの（-）を充電器の（-）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

補足：
- **バッテリを交換するとき、バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**
  バッテリ型式：34B19L または 40B19L
- **バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。**
- **機械にバッテリを搭載した状態で急速充電をしないでください。**

18.1 補水が必要なバッテリの場合

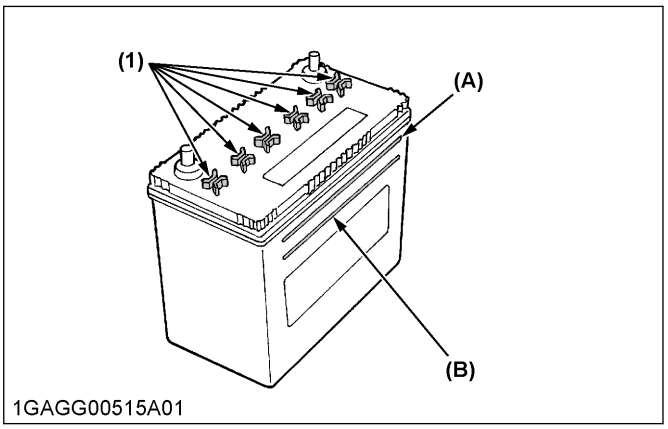
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）
点検・補水

⚠ 危険
バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの 2 種類があります。補水が必要なバッテリについては、以下の事を守ってください。

- **バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。**
  LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。
  すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
- **バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
- **バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。**

バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し、**［UPPER LEVEL］**（最高液面線）と**［LOWER LEVEL］**（最低液面線）の間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。



(1) 補水キャップ
(A) *UPPER LEVEL*（最高液面線）
(B) *LOWER LEVEL*（最低液面線）

重要：
- **バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと、バッテリの寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。**

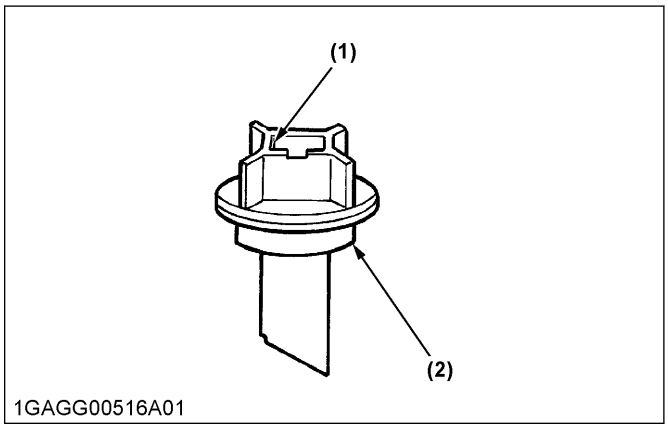
補足：
- **バッテリの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。**

2. バッテリが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

重要：
- **液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。**

3. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重要：
- **排気口をふさぎますと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口
(2) 補水キャップ

補充電・交換

⚠ 警告
- **補充電中は補水キャップ全てを取外して行いますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

4. 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また、充電は、バッテリの（+）を充電器の（+）側に、バッテリの（-）を充電器の（-）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
5. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

19. ワイヤハーネスの点検・交換

⚠ 警告
- **配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。
また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先に連絡して交換してください。

20. 各ヒューズの交換

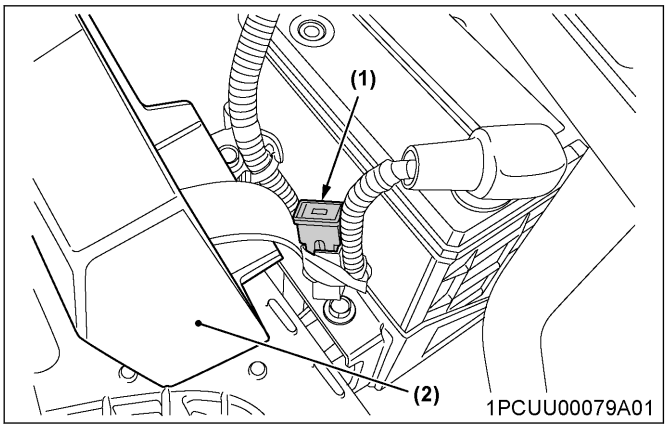
補足：
- **ヒューズを交換するときは、ヒューズケース右下に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。**

ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

1. メインスイッチのキーを**[停止]**位置にしエンジンを止めます。
2. 運転席下カバーにあるヒューズケースカバーを取外し、ヒューズが切れているときは付属部品の中にある予備のスローブローヒューズと交換します。
3. ヒューズケースのカバーを取外します。

20.1 スローブローヒューズの点検・交換

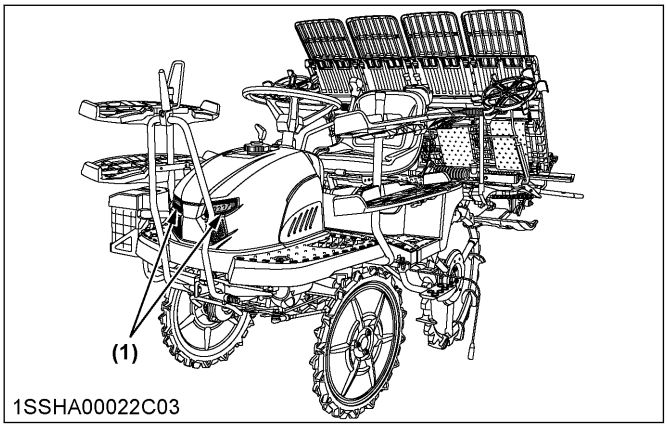
スローブローヒューズ(30 A)は、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは新しいヒューズと交換してください。点検を行なうときは、ヒューズケースのカバー及びバッテリカバーを取外してください。



(1) スローブローヒューズ（*30 A* メイン用）
(2) バッテリーカバー

21. LED ランプの点検・交換

ランプ（電球）切れがないか点検し、切れているときは購入先に連絡してください。



(1) ヘッドランプ

植付作業後の手入れ

植付作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日又は、翌年の田植作業に備えてください。

1. 毎日の作業後の機体の手入れ

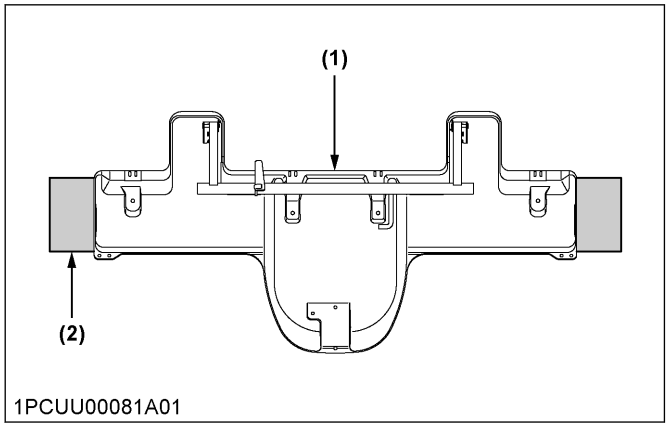
⚠ 警告

- **掃除する場合は、必ずエンジンを停止させてから行なってください。**

1. 平たんな場所に田植機を停めます。
2. 機体各部の泥などを取除いたあと、必要に応じて各部に注油を行ないます。（65 ページ参照）
3. 格納場所に格納します。

重要：

- **納屋など室内に格納するときは、植付部が納屋などに当らない位置まで下げた状態で油圧ロックを行ってください。（40 ページ参照）**
- **狭い場所に収納するときは、予備苗のせ台を収納し、エプロンガードを収納してください。**
- **植付アームなどが破損するおそれがありますので、フロート下面にまたがるように木片などを置いて、床面に直接降ろさないでください。**



(1) フロート
(2) 木材など

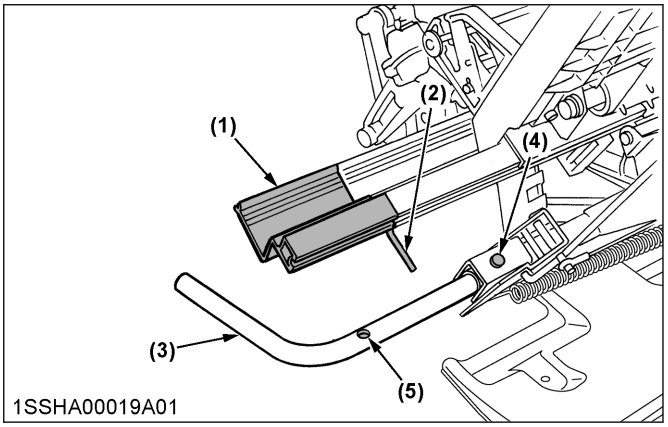
4. 植付部を降ろします。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. 駐車ブレーキを掛けます。

1.1 延長エプロン・エプロンガード（左、右）の収納

以下の手順で延長エプロンおよびエプロンガードを収納状態にします。

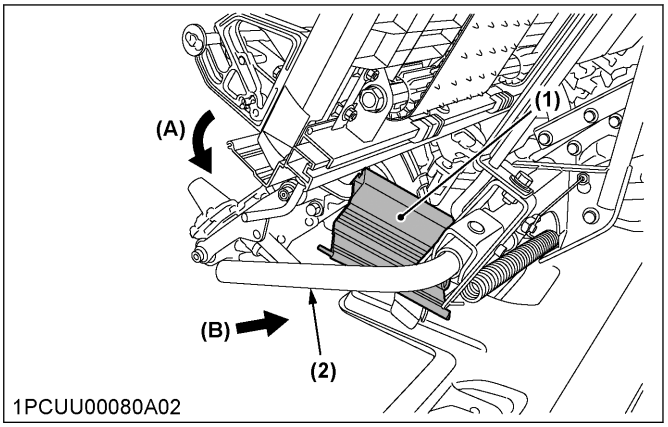
1. 植付部を最上昇位置まで上げたあと、油圧をロックして植付部の下降防止を行ないます。
2. エンジンを停止します。
3. 延長エプロンは、ロックハンドルを回してゆるめたあと、前方に倒した状態でロックハンドルを軽く回してロックします。
4. エプロンガードは、頭付きピンとスナップピンを取外したあと、収納側のパイプに押込んで収納位置の穴に頭付きピンとスナップピンを取付けます。

作業状態



(1) 延長エプロン
(2) ロックハンドル
(3) エプロンガード
(4) 頭付きピン（スナップピンは下側）
(5) 収納位置の穴

収納状態



(1) 延長エプロン
(2) エプロンガード
(A) 前側に倒して収納
(B) 収納側のパイプに押込んで収納

補足：

- **エプロンガードを作業状態にするときは、逆の手順で行なってください。**

2. 長期格納時の手入れ

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

2.1 長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 水洗い後、ゴミ・水滴をじゅうぶんふき取り、油をしみこませた布で清掃してください。

- 各グリース塗布箇所にはグリース、注油箇所には注油を行なってください。
- 塗布したグリースや油が縦送りベルトに付着したら、必ずふき取ってください。
- ビークの先端や、油圧シリンダのロッド部など、さびやすい所にはグリースを塗ってください。
- 各部のゆるみを調べ、増締めを行なってください。

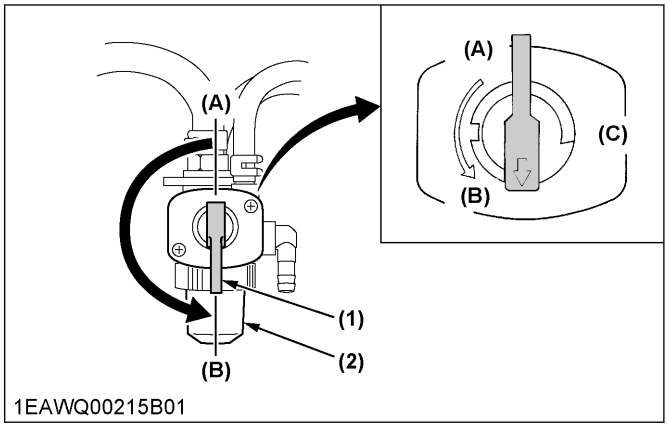
重要：
- **機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。**

2.2 長期格納時の燃料の排出のしかた

⚠ 警告
- **燃料を排出するときは、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。火災が発生するおそれがあります。**
- **燃料抜取り時は火気厳禁。**

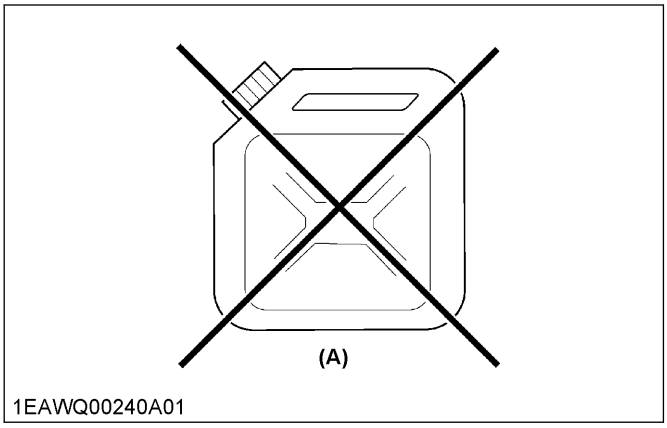
来シーズンに備えて燃料タンク内及び燃料フィルタポット内のガソリンを抜取ってください。

1. 燃料コックレバーを**［排出］**位置にして燃料を排出します。
2. フィルタポット内のガソリンを排出します。また、必要に応じて掃除を行なってください。
3. フィルタポットを取付けます。



(1) 燃料コックレバー
(2) フィルタポット
(A) ［運転］
(B) ［排出］
(C) 停止

重要：
- **燃料のガソリンは 1 ヶ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内及びフィルタポット内のガソリンは抜取ってください。**
- **燃料のガソリンを保管するときは、必ず鋼製の容器に保管してください。ポリタンクなどの樹脂製の容器に保管すると、ガソリンが樹脂成分を溶解したり、紫外線透過によりガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となります。**



(A) ポリタンク不可

補足：
- **燃料を入れるときは、燃料コックレバーを必ず、［停止］位置にし、エンジンを動かす前に、［運転］位置にしてください。**

2.3 長期格納時のバッテリの手入れのしかた

⚠ 危険
- **保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。**

⚠ 警告
- **バッテリを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを［切］にしてください。**

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリを機体から取外してください。また、以下の点に注意して保管してください。
- 保管前に点検し、必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは、補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は 1 ヵ月、冬は 2 ヵ月に 1 回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  1. 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  2. 雨露が少なく、水没のおそれがない場所
  3. バッテリの有害なガスや液、粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は、(-) 側のケーブルを必ず取外してください。

2.4 長期格納時の各レバー、その他の手入れのしかた

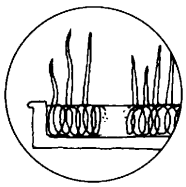
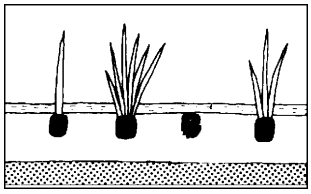
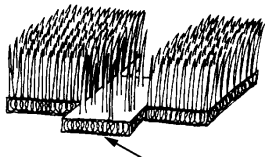
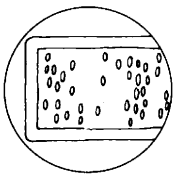
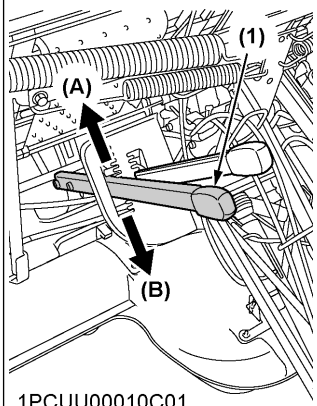
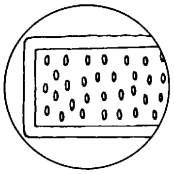
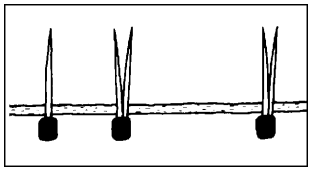
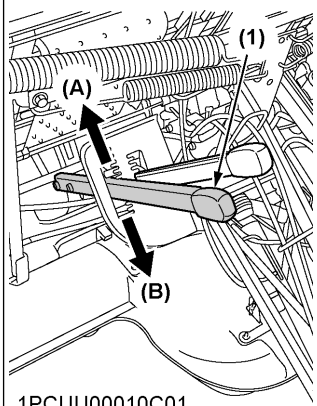
警告

- **駐車ブレーキを掛けてください。**

- アクセルレバーを前方いっぱいまで押して［🐢］位置で止めてください。
- 運転席（シート）は前方向に倒してください。
- メインスイッチのキーは必ず抜取って保管してください。
- 苗のせ台は、バランスバネの荷重が左右均等に掛かる状態にして保管してください。

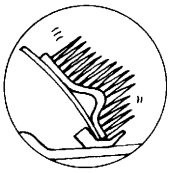
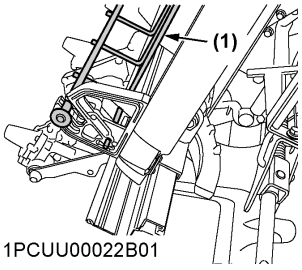
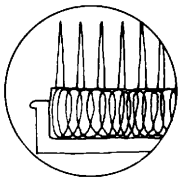
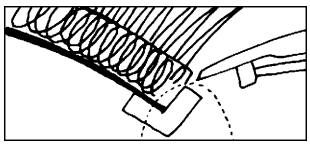
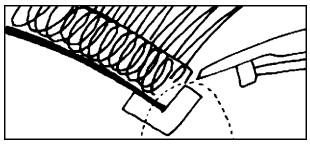
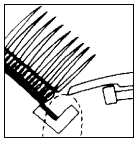
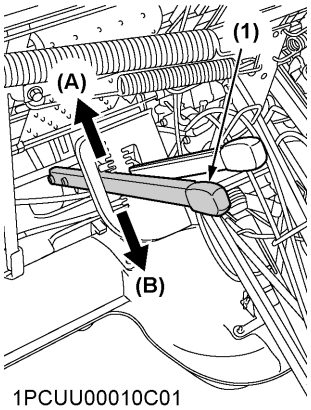
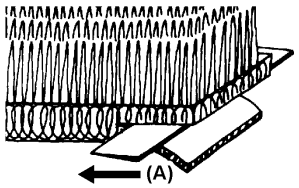
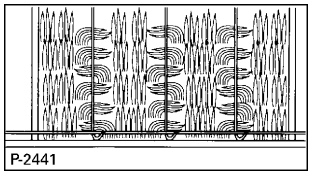
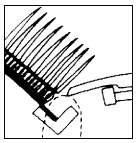
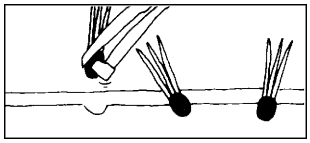
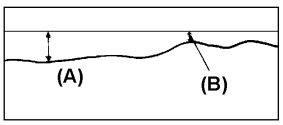
植付作業時の不調と処置

欠株が出る

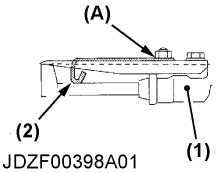
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗 	• 植付けの本数がバラついたり欠株が出る。 	**苗の処置** • 生育の悪い部分やハゲたところを切取って植え付ける。 • 悪い苗は、使用しない。（補植えに使用する）	 1JDZF00385A01 *(A)* この部分は使わない
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗 		**機械の処置** 苗取り量は多く、横送り回数は少なくする（横送り量を多くする）。 (60 ページ参照)	 1PCUU00010C01 *(1)* 植付本数調節レバー *(A)* 多い *(B)* 少ない
播種量が少ない苗 	• 植付け本数が少なくなり欠株が出る。 	**苗の処置** 中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。 **機械の処置** 苗取り量は多く、横送り回数は少なくする（横送り量を多くする）。 (60 ページ参照)	 1PCUU00010C01 *(1)* 植付本数調節レバー *(A)* 多い *(B)* 少ない

（次へ続く）

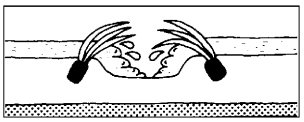
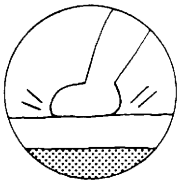
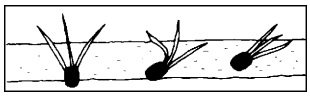
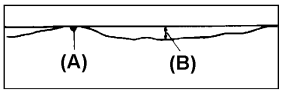
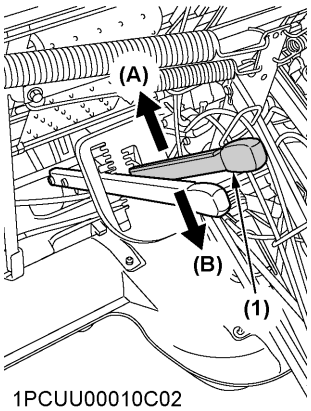
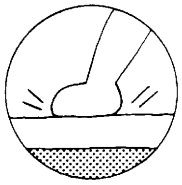
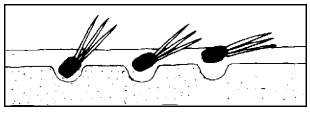
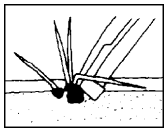
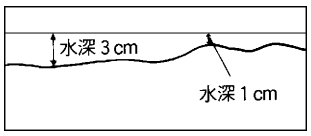
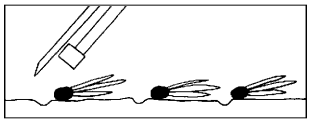
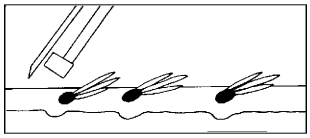
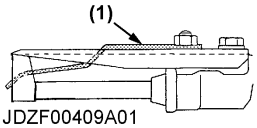
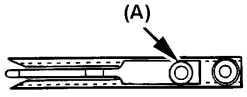
植付作業時の不調と処置

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗床がうすく又根張りが悪い苗 **苗床が軟らかすぎる苗**	苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。 	**機械の処置** 苗押さえと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち、くずれを防止する。 （63 ページ参照） **苗の処置** • 苗床厚が 2 cm 以上の苗を使用する。 • 苗床を乾かして硬めにする。	 1PCUU00022B01 *(1)* 苗押さえ
苗床が厚い苗 	• 苗がうまく取れないため、苗取量が少なかったり欠株が出る。  • 爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。  • 苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。	**機械の処置** • 苗取り量を多少多くして苗を取るようにする。 （60 ページ参照） • 苗押さえを調節して苗床とのすき間をあける。 （63 ページ参照） **苗の処置** • 苗床厚（マット厚）が 2.5～3 cm になるように切落とす。切落とせない場合はその苗は使用しない。 • 植付け前にかん水してすべりを良くする。	 1PCUU00010C01 *(1)* 植付本数調節レバー *(A)* 多い *(B)* 少ない  1JDZF00393A01 *(A)* *2.5～3 cm* に切落とす。
苗の入り方が悪い。 	苗が苗押さえに引っかかって落ちない。 	**苗の処置** 引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。	
床土が粘土質で粘りが強い苗。	植付け時、苗がビークより離れず欠株が発生する。 	**苗の処置** 苗床を乾き気味にする。又は水につけ十分水分をもたせる。 **ほ場の処置** ほ場に水を 1～3 cm 程度張り苗が爪より離れやすくなる。	 1JDZF00397A01 *(A)* 水深 *3 cm* *(B)* 水深 *1 cm*

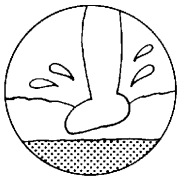
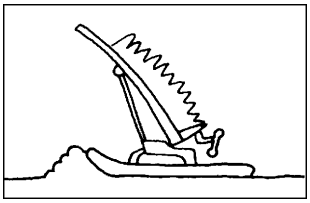
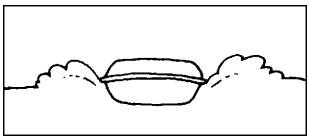
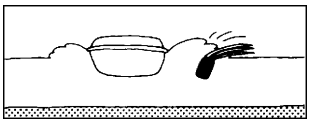
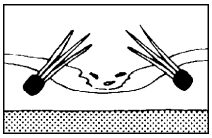
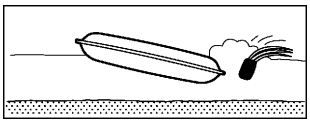
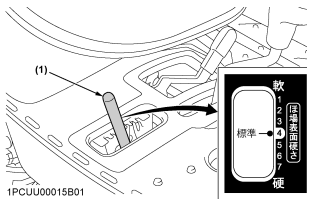
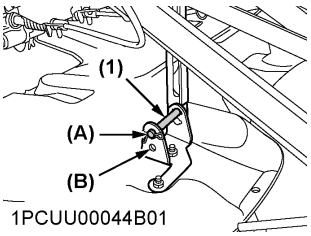
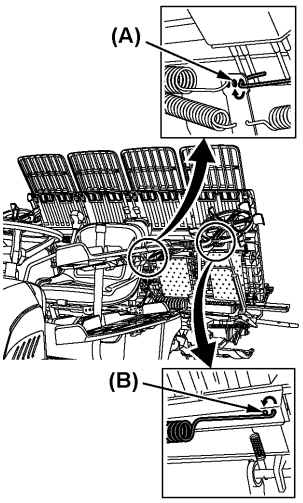
（次へ続く）

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
粘土質のほ場でしかも水が少ない。		**機械の処置** 別売り（オプション）のクリーナ（フォーク）を取付ける。	 1JDZF00398A01 *(1)* 植付アーム *(2)* クリーナ（フォーク） *(A)* 植付アームのスタッドボルトに共締めする。

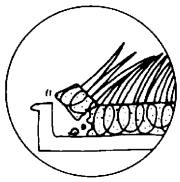
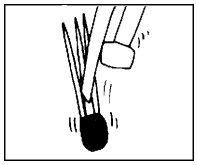
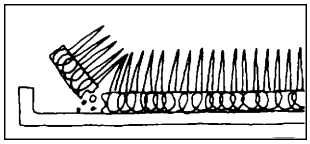
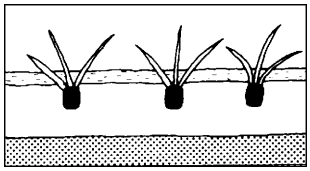
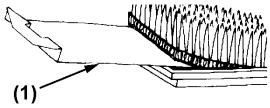
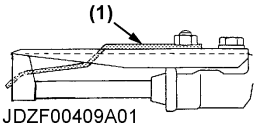
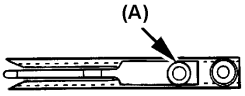
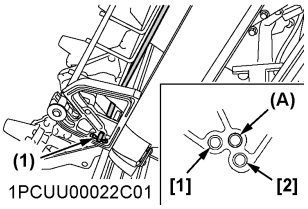
浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
水深が 3 cm 以上あるほ場。 	• フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗又は、隣接苗が倒れる。   • 植付け姿勢が悪い又は浮苗が発生する。 	**ほ場の処置** 水を落す。水深 0～3 cm にする。 **機械の処置** • 植付け速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。 • 植付け深さを許せる範囲で深めにする。	 1JDZF00403A01 *(A)* 水深 *0 cm* *(B)* 水深 *3 cm*  1PCUU00010C02 *(1)* 植付深さ調節レバー *(A)* 浅い *(B)* 深い
ほ場が硬い。 	• 爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。  • 苗を押込むとき、苗が傷んだりバラける。 	**ほ場の処置** • 再度代かきして植えやすい硬さにする。 • 水を 1～3 cm 入れ軟らかくして植える。 **機械の処置** • 植付け速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。	 *(A)* 水深 *1 cm* *(B)* 水深 *3 cm*
根張りが悪く、床土が砂質の苗で、しかも苗が爪から離れやすく、水につかると床土が溶ける苗。	• 苗がころぶ。  • 水がある場合、浮苗がでる。 	**ほ場の処置** 水が多い場合は水を落とす。 **苗の処置** • 根張りのよい床土がブロックになる苗にする。 • 床土は水に溶けにくい土質のものにする。 • 植付け前に苗床に少し水気をもたせる。 **機械の処置** 別売り（オプション）の苗キーパを取付ける。	 1JDZF00409A01 *(1)* 苗キーパ  1JDZF00408A01 *(A)* 爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。

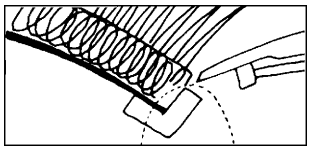
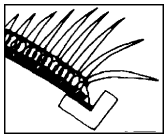
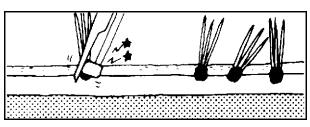
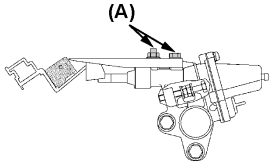
（次へ続く）

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
表面がトロトロで軟らかいほ場。 	1. フロートが沈み、泥を押す。   2. フロート全体で泥を押して、隣接苗を倒す。  3. フロート通過跡が大きくなり、そこに土が流れ込むとき、植えた苗が内側に倒れる。  4. 横送りをしたときフロートの片側で泥を押して隣接苗を倒す。 	**ほ場の処置** • 水を落として表面を硬くする又は表面を落ち着かせる。（植付けを延期する。） **機械の処置** 1. 油圧感度調節を軟らかい方へ移動させ泥を押さないようにする。 2. 植付け速度を遅くする。 3. 油圧感度調節レバーを**[1]**にしてもフロートの沈下が大きい場合、1 つ上の穴（“敏感”位置）に移してください。 （61 ページ参照） 4. バランスバネを調整してください。	 *(1)* 油圧感度調節レバー  1PCUU00044B01 *(1)* 頭付きピン *(A)* 敏感 *(B)* 標準  1PCUU00009J01 *(A)* フロートの右側があがっている時はこちらの穴に差し換える *(B)* フロートの左側があがっている時はこちらの穴に差し換える

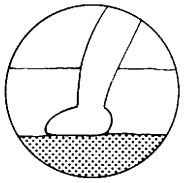
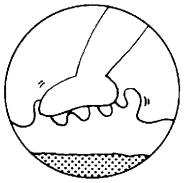
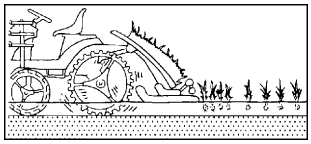
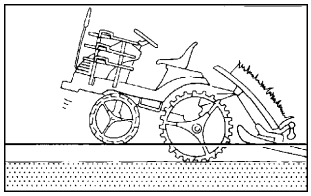
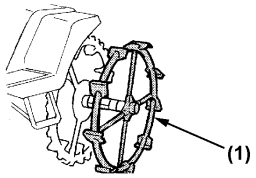
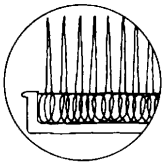
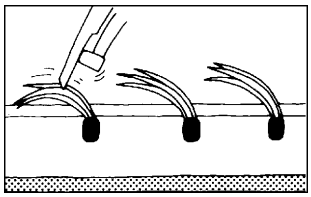
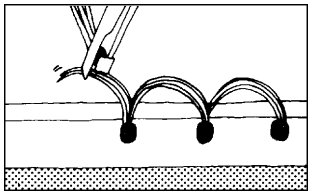
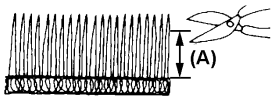
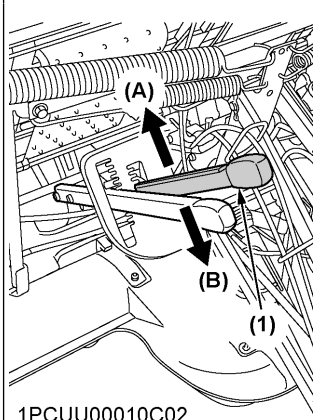
浮苗が出る・植付けが悪い

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
根張りの悪い苗 **床土に粘りがなくくずれやすい苗** 	• 苗が植付けになる前にビークから落ち浮苗となる。  • 苗を取り出すとき苗がくずれる。  • 植付けた苗がバラける。 	**苗の処置** • 苗床に少し水気をもたせる。 • スクレーパを使用して苗がくずれないようにする。 **機械の処置** • 植付け速度を遅くする。 • 別売品（オプション）の苗キーパを使用する。 • 苗ホルダを[2]（内側）の穴に差換える。	 1JDZF00419A01 *(1)* スクレーパ  1JDZF00409A01 *(1)* 苗キーパ  1JDZF00408A01 *(A)* 爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。  1PCUU00022C01 *(1)* スナップピン *(A)* 標準位置

植付けが乱れる・欠株が出る

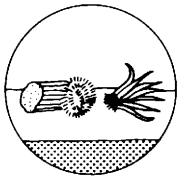
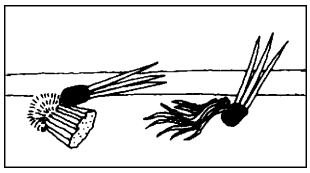
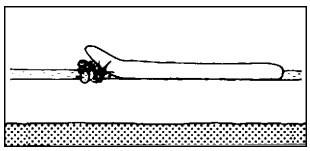
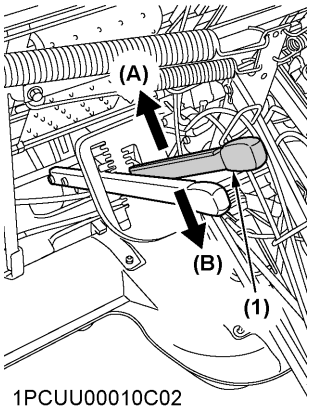
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
ビークの異常 • 爪の摩耗 • 爪の変形 • フォークの変形 • フォークがじゅうぶん押出さない。	• 苗を取らずに欠株となる。  • 苗取り後残りの苗がバラケル。  • フォークが押しきらず植付けが乱れる。 	**機械の処置** • ビークとフォークの点検。 – 爪の曲がりを直す。 – フォークの曲がりを直す。 • 爪、フォークなどの部品を新品と交換する。	 1JDZF00363C01 *(A)* ボルト、ナットを外す

苗・ほ場条件による、その他の不具合

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
株間が狭くなる **深いほ場**  **強粘土質のほ場** 	• 走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。   • 機体前部が浮き上りスリップする。	**機械の処置** • 補助輪をとりつけてスリップを少なくする。 • 株間を一段広くして坪当たり株数を確保する。	 1JDZF00430A01 *(1)* 補助車輪
苗の草丈が長すぎる。 **草丈が 20 cm 以上ある苗の植付け。** 	• 植付けた苗が爪に押されて傾く。  • 植付けた苗がアーチ状になる。 	**苗の処置** 葉先を 20 cm 以下に切りそろえる。 **機械の処置** • 植付け深さを深めにする。 • 植付け速度を遅くする。 • 苗ホルダの位置を一番上にあげる。	 1JDZF00434A01 *(A)* *20 cm* 以下に切る  1PCUU00010C02 *(1)* 植付深さ調節レバー *(A)* 浅い *(B)* 深い

（次へ続く）

植付作業時の不調と処置

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr><td>夾雑物の多いほ場
代かき後も刈株、ワラ、雑草などが多量に露出しているほ場。
</td><td>・ 夾雑物の上では、苗が植わらなかったり、植付け姿勢が悪くなったりする。

・ 夾雑物がフロート、整地板や作溝器（[R：粒状施肥機仕様]）で押されてたまる。
</td><td>ほ場の処置
・ 代かき時、夾雑物をすき込む。
・ 耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。
機械の処置
・ 植付け深さをやや深くする。
・ 植付け速度を遅くする。
・ 整地板をあげ夾雑物の掘起こしを少なくする。</td><td>
1PCUU00010C02
(1) 植付深さ調節レバー
(A) 浅い
(B) 深い</td></tr>
<tr><td>強粘土質のほ場</td><td>前輪ホイールカバーに泥が付着し、隣接苗に泥を落す。</td><td>ほ場の処置
・ ほ場に水を入れて少し保水状態にして植付作業を行う。</td><td></td></tr>
</table>

付表

主要諸元

型式名				**LC41**	
区分				**－〈R〉**	**H〈R〉**
駆動方式				4 輪駆動	
機体寸法	全長（作業時）（mm）			2240（2270）<2270（2300）>	2200（2270）<2270（2300）>
	全幅（作業時）（mm）			1340（1600）	
	全高（作業時）（mm）			1520（1180）	
	最低地上高（mm）			340	
機体質量（kg）				230〈270〉	240〈280〉
エンジン	型式名			MZ175	
	種類			空冷 4 サイクル単気筒 OHV ガソリンエンジン	
	総排気量（L {cc}）			0.171 {171}	
	出力/回転速度（kW {PS}/rpm）			3.0 {4.1} /3600［最大 3.9 {5.3} /4000］	
	使用燃料/燃料タンク容量（L）			自動車用無鉛ガソリン / 4.2	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリ（V・Ah）			12・22［34B19L］	
走行部	かじ取り方式			アッカーマン式	
				インテグラルパワーステアリング	
	車輪	種類	前輪	ノーパンクタイヤ（ソリッドタイヤ）	
			後輪	ゴム両ラグ車輪	
		外径	前輪（mm）	550	
			後輪（mm）	660	
		輪距	前輪（mm）	720	
			後輪（mm）	720	
		軸距（mm）		825	
	変速方式			油圧式トランスミッション（HST）	
	変速段数（段）			主変速：前・後進無段変速［副変速：2 段］	
植付部	植付方式			クランク式強制植付け	ロータリ式強制植付け
	植付部		昇降方式	油圧式	
			装着方式	平行 4 点リンク	
	植付	条数（条）		4	
		条間（cm）		30	
		株間（cm）		*1 *2 14、16、18、20、24、26	
		株数（株/3.3 m^2）		*1 *2 80、70、60、55、45、42	
		深さ（cm）		1～4［7 段階］	
	1 株本数調節量	横送り量（mm（回数）/株）		11 (26)、14 (20)［ギヤ交換：2 段］	
		縦かき取り量（mm/株）		8～18	
苗の条件	苗の種類			マット苗	
	草丈（cm）			8～25	
	葉令（葉）			2.0～4.5	

（次へ続く）

付表

型式名		LC41	
区分		–〈R〉	H〈R〉
施肥装置	肥料の種類	粒状化成肥料	
	肥料ホッパ容量（L×個 {kg}）	16 × 2 {29}（高度化成肥料（0.9 g/cm^3）のとき）	
	繰出方式	溝付ロール式	
	繰出量調節範囲（kg/10 a）	10 ～ 50（高度化成肥料（0.9 g/cm^3）のとき）	
	施肥位置（cm）	苗の側方：4.5、深さ：5	
苗とう載数〔内予備苗〕（箱）		10〔4〕	
作業速度(m/s)		*1 0～0.6	*1 0～0.74
作業能率（計算値）（分/10 a）		*1 36～〈42～〉	*1 29～〈34～〉

- この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

*1 車輪スリップ率 10 パーセント

*2 14、16、18、20、24、26 cm の切換えは、ギヤ組換え式

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- 保証書 1
- 取扱説明書 1
- ビークゲージ 1
- スクレーパ 1
- 株間ギヤアッシ［クランク仕様］
  - 24 ギヤ・28 ギヤ（植付株数：80 株・55 株用） 1
  - 22 ギヤ・31 ギヤ（植付株数：45 株用） 1
  - 21 ギヤ・33 ギヤ（植付株数：42 株用） 1
- 株間ギヤアッシ［H：ロータリー仕様］
  - 22 ギヤ・31 ギヤ（植付株数：80 株用） 1
  - 24 ギヤ・28 ギヤ（植付株数：70 株用） 1
  - 30 ギヤ（24 ギヤの組合せで植付株数：45 株用） 1
  - 23 ギヤ（31 ギヤの組合せで植付株数：42 株用） 1
- 横送りギヤアッシ
  - 13 ギヤ 1
  - 20 ギヤ 1
- プラグレンチ 1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

1. 苗キーパ

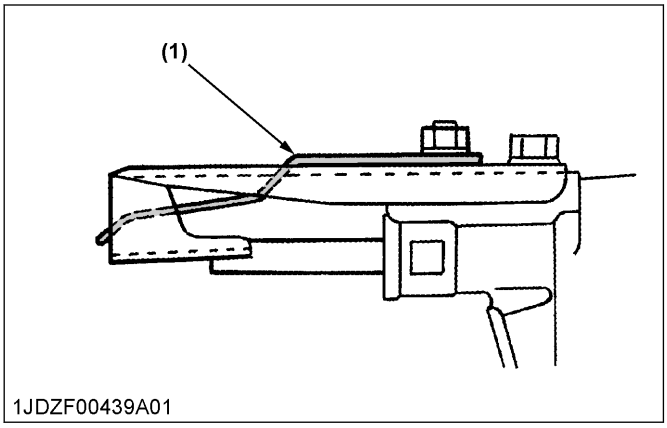
苗キーパは、苗こぼれによるバラケ、浮苗を防止します。

※アッシ（セット）の場合

品名	品番	数量	対象型式
ナエキーパ、アッシ（4）	26910003190	1	**LC41**
ナエキーパ、アッシ（+2.4）	95700001890	1	**LC41H**

※単品の場合

品名	品番	対象型式
ナエキーパ（T2）	26910002980	全型式



1JDZF00439A01

(1) ナエキーパ（*T2*）

2. クリーナ

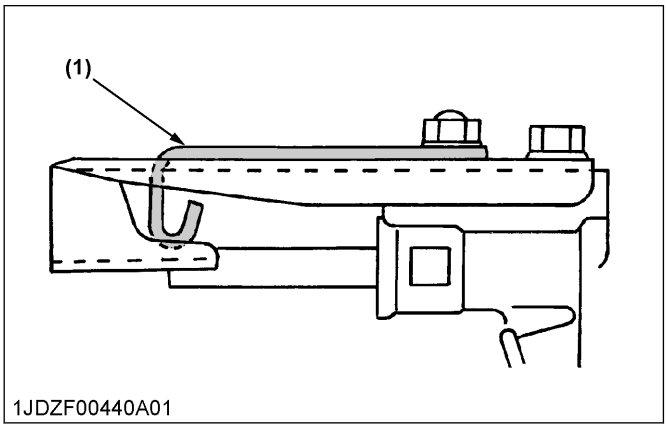
クリーナは、苗を詰まらなくする効果があります。爪の間に苗が詰まり、植付姿勢が乱れたときなどに有効です。

※アッシ（セット）の場合

品名	品番	数量	対象型式
クリーナ、キット（4）	26910007880	1	**LC41**
クリーナ、アッシ（オシダシカナグ、4）	95700000050	1	**LC41H**

※単品の場合

品名	品番	対象型式
クリーナ（オシダシカナグ）	26910007890	**LC41**
クリーナ（オシダシカナグ）	K4540393910	**LC41H**



1JDZF00440A01

(1) クリーナ（フォーク）

3. 補助車輪

ほ場条件に合った補助車輪を使用してください。

補足：

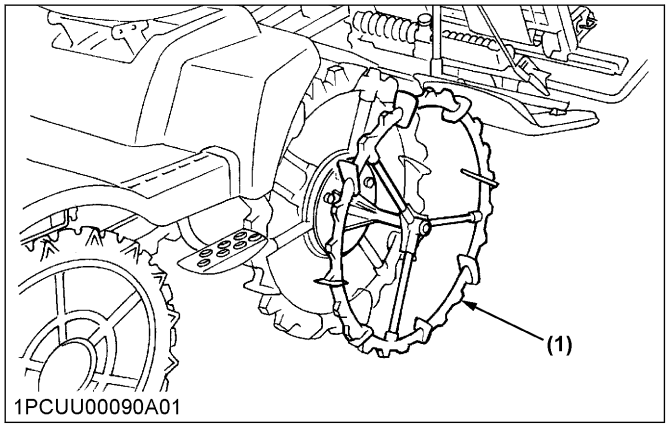
- **車輪跡を残したくない場合は、別途整地板をご購入してください。**

- **補助車輪装着時は補助車輪に回転マーカが接触するおそれがあるため、回転マーカのアームを固定金具に収納しているときは、回転マーカを取外してください。**

3.1 ゴムラグタイヤ

ほ場条件…耕盤が軟弱で泥炭地のようなほ場

品名	品番	仕様			対象型式
		車輪径（mm）	ラグの有無	整地板の有無	
補助車輪アッシ	3172370031	620	有	有	全型式



4. 前部ウエイト

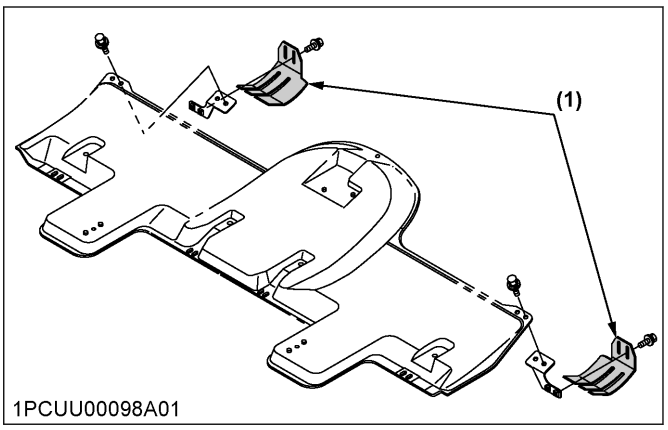
深いほ場で前輪が浮上がるのを防止し、直進性、走行性を良くします。

品名	品番	対象型式
ウエイト、キット（オプション）	26910007972	全型式

5. 整地板

フロートの整地幅を広くします。

品名	品番	対象型式
整地板、アッシ（PW）	95700002820	全型式



(1) 整地板、アッシ（*PW*）

6. 薬剤散布機［こまきちゃん］

品名	種類	品番	備考
MCS-10M-LC40	本体	3612280021	R*1
サポート（サンプキF）	①	95700000090	–
ステー（サンプキF）	②	95700000100	–

*1　側条施肥機と共着する場合は、MCS-10M-LC40 本体と①②とのセット購入となります。

7. 苗スライドストッパ

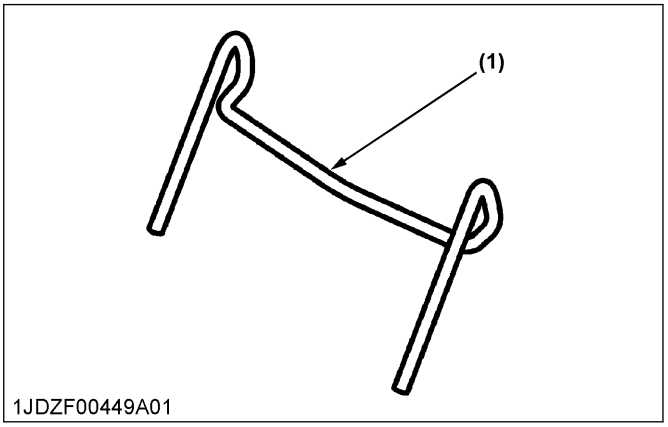
軟弱苗で苗がかたよっているときに使用します。

アッシ（セット）の場合

品名	品番
ストッパ、キット（4、ナエスライド）	26910007940

単品の場合

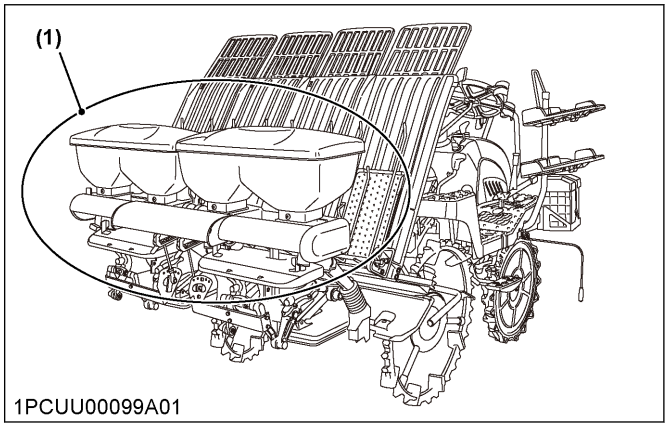
品名	品番
ストッパ（ナエスライド）	26910007950



(1) 苗スライドストッパ

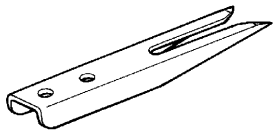
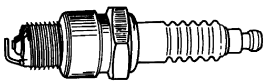
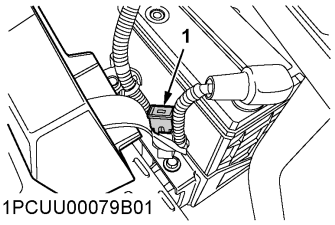
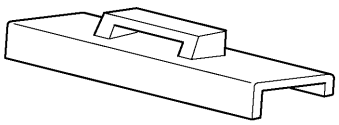
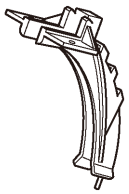
8. 側条（粒状）施肥機

品名	品番	適応型式
側条施肥装置 RST-41	3612330020	**LC41**
側条施肥装置 RST-41H	3612330030	**LC41H**



(1) 施肥装置

消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）

形状	品名	品番	型式	個数	参照ページ
 1AKACAIAP216D	ウエツケヅメ（RIS13）	26910002970	**LC41**	4	83
			LC41H	8	
 1AKACAXAP184D	点火プラグ BPR4ES (NGK)	95700000730	全型式	1	77
 1PCUU00079B01	1.ヒューズ（スローブロー 30 A)	95700000070	全型式	1	89
 1PCUU00101A01	ホルダ（シュウドウ）	26910010040	全型式	5	86
 1PCUU00102A01	ガイド（トリダシグチ）	26910005770	**LC41**	4	–
		95700003590	**LC41H**		

潤滑油について

・ オイルは三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチ GD オイル (SAE・10W-30　SL/CF)

2. ミッションオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパー UDT2

索引

アルファベット

AZ(アゼ)アーム
　機能....28
　操作....28
AZ(アゼ)レバー
　機能....28
LED ランプ
　交換....89
　点検....89

あ

アクセルレバー
　機能....25
安全ラベル
　手入れ....17
　内容....14
　貼付位置....14
植付アーム
　グリース補給箇所....66
植付株
　1 株本数の調節....60
　数について....61
　数の調節....58
植付クラッチレバー
　機能....29
植付深さ調節レバー
　機能....30
　準備....49
植付本数調節レバー
　機能....30
　準備....49
　調節....61
運転席
　調節....27
エアクリーナエレメント
　交換のしかた....76
　掃除のしかた....76
　点検のしかた....76
エプロン
　グリース塗布箇所....66
エプロンガード
　準備....49
エプロンガード（左、右）
　収納....90
エンジン
　始動時の注意事項....6
　始動のしかた....35
　停止のしかた....36
　バッテリが上がったときの始動のしかた....36
エンジンオイル
　交換のしかた....73
　点検のしかた....73
　補給のしかた....73
延長エプロン
　準備....49
延長エプロン（左、右）
　収納....90
オイル
　注油のしかた....65

か

各部の掃除....65
株
　欠株が出るときの処置....93,98
グリース
　注入のしかた....65
　塗布のしかた....65
クリーナ
　選び方....103
後車軸ケースオイル
　交換....75
　点検....75
　補給....75
ご相談窓口....19
ゴムラグタイヤ
　選び方....104
小物入れ
　機能....29

さ

作業者
　健康状態....5
　作業に合った服装....5
主変速レバー
　機能....26
主変速レバーデテント部
　グリース塗布箇所....66
潤滑油
　エンジンオイル....107
　ミッションオイル....107
潤滑油について....107
条止めレバー
　機能....30
シート
　調節....27
ステアリングピットマンアーム部
　グリース塗布箇所....66
スライドブロック部
　グリース注入箇所....66
スローブローヒューズ
　交換....89
　点検....89
整地板
　選び方....104
センターポール
　機能....31

準備.....49
線引マーカ
機能.....31
準備.....49
線引マーカ支点部
注油箇所.....66
前部ウエイト
選び方.....104
前輪デフロックペダル
機能.....27
側条（粒状）施肥機.....105

た

タイヤ
点検のしかた.....80
田植機
移動走行について.....37
移動走行前の準備.....37
運転中及び停止直後の注意事項.....11
運転前の点検.....33
降りて走行するときの注意事項.....9
降りて走行で積込みをする場合.....44
降りて走行のしかた.....41
各装置の名称.....21
各ヒューズの交換.....89
各レバー・その他の長期格納時の手入れのしかた92
機械から離れるとき及び走行時の注意事項.....10
機体方向説明.....20
給・注油（水）点検一覧表.....71
軽四トラックに積込みをする場合.....45
坂道走行の注意事項.....8
作業途中の駐車時の注意事項.....10
作業途中の点検時の注意事項.....10
周囲の子供の存在確認.....5
主要諸元.....101
使用後の手入れ.....12
使用者が行なってはいけない修理.....69
乗車走行で積込みをする場合.....44
使用前の準備.....6
使用前の点検.....6
消耗部品一覧.....106
新車時の扱いかた.....35
旋回のしかた.....42
旋回のしかた（植付作業時）.....53
洗車時の注意.....69
走行運転の注意事項.....7
駐車のしかた.....42
長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた...90
定期点検一覧.....70
定期点検について.....68
停車のしかた.....42
トラックからの積降ろしのしかた.....43
トラック上での処置.....45
トラックなどでの運搬時の注意事項.....12
トラックなどへの積降ろし時の注意事項.....11
トラックなどへの積込み時の注意事項.....11
トラックへ積込み時の準備.....43
トラックへの積込みのしかた.....43
ならし運転について.....35
日常点検項目.....34
農道の移動の注意事項.....8
発進のしかた.....40
付属部品.....103
ほ場の移動の注意事項.....8
ほ場の出入りのしかた.....50
ほ場での作業.....10
ほ場の出入り.....9
毎日の作業後の機体の手入れ.....90
輸送の準備.....43
縦送りカムプレート部
グリース塗布箇所.....66
注意事項
安全指示順守.....5
チョークレバー
機能.....25
点火プラグ
掃除のしかた.....77
調整のしかた.....77
点検のしかた.....77
トルクリミッタ
異物を取除いたあとの処置.....56
機能.....56
トレースマーカ
機能.....31
準備.....49

な

苗
あぜぎわの植付けかた.....57
植付けかた.....53
植付けが乱れるときの処置.....96,98
植付けが悪いときの処置.....98
植付作業の手順.....51
植付深さの調節.....62
浮苗が出るときの処置.....96,98
最終行程の前での植付条数の決めかた.....58
状態によっておこるその他の不具合の処置.....99
使用量について.....61
台形田の植付けかた（A 面基準）.....55
田植作業時の条件.....48
取り量の調節.....60
複雑な変形田の植付けかた.....55
補給のしかた.....56
苗押さえ
機能.....31
調節.....63
苗キーパ
選び方.....103
苗スライドストッパ
取りつけかた.....104
苗のせ台
受けの点検.....86
エプロンの点検.....86

苗のせ台下面しゅう動部
スプレーグリース注入箇所.....66
苗のせ台縦送り条止めクラッチ部
グリース塗布箇所..... 66
苗のせ台ローラ・レール部
グリース塗布箇所..... 66
苗ホルダ
機能.....31
調節.....63
燃料
給油.....72
長期格納時の排出のしかた.....91
補給のしかた.....72
燃料計
機能.....29
燃料フィルタポット
掃除のしかた.....75
点検のしかた.....75

は

廃棄物
取扱い..... 6
パイプ
交換のしかた.....77
点検のしかた.....77
バッテリ
交換.....86
長期格納時の手入れのしかた..... 91
点検.....86
取扱い..... 12
補充電..... 86
補水.....86
バッテリ（補水が必要）
交換.....88
点検.....88
補充電..... 88
補水.....88
パワーステアリングハンドル
機能.....27
ビーク
交換.....81,83
調整.....81,83
点検.....81,83
トルクリミッタについて.....56
フォーク
交換.....81,83
調整.....81,83
点検.....81,83
副変速レバー
機能.....26
副変速レバーリンク部
グリース塗布箇所..... 66
ブレーキペダル
機能.....26
調整.....78
点検.....78
ブレーキロックレバー
機能.....26
プロペラシャフト接続部
グリース塗布箇所..... 66
フロート支点部
注油箇所.....66
補修用部品
供給年限.....19
ほ場
条件によっておこるその他の不具合の処置.....99
田植作業時の条件..... 47
ボンネット
閉じかた.....64
開きかた.....64
ホース
交換のしかた.....77
点検のしかた.....77

ま

ミッションオイル
交換のしかた.....74
点検のしかた.....74
補給のしかた.....74
ミッションオイルフィルタ
交換のしかた.....79
掃除のしかた.....79
点検のしかた.....79
ミッション駆動ベルト
点検のしかた.....78
メインスイッチ
機能.....25

や

薬剤散布機［こまきちゃん］
選び方..... 104
油圧感度
感度調節.....62
油圧感度調節レバー
機能.....29
準備.....49
調節.....61
油圧ロックレバー
機能.....30
横送り量
調節.....60
予備苗のせ台
機能.....31
準備.....49

ら

ランプスイッチ
機能.....28
リヤカバー
取付けかた..... 64
取外しかた..... 64

リンク支点部
注油箇所.....66